

殷栗 糸、麻、石鐵 出金山浦 紫草、竹蛤、魚鱈、銀口魚、糸蠶、新增 民魚、石魚

▲松禾 絲、麻、蜜、楮、鐵、漆、銀口魚

金川 梨、栗、山查、芹、葱、薇蕨、野葱、苜蓿、秀魚、鯉魚、蒼朮、白朮、白芷、澤湯、升麻、芍藥、菟絲子、蜂蜜、木綿

平山 糸、藍石、青礪石 在寶山 驛南 石簞、紫草 出省 岳山 朱土、礫礪 出慈秀 台山 五味子、鐵、訥魚、秀魚、蟹、蛤、錦鱗魚、鯽魚、梨、栗

長淵 黃角、民魚、鱈魚、洪魚、青魚、沙魚、石花、土花、甘藷、鹽

信川 絲、麻、鯽魚、蟹、木綿、蘆草

▲文化 絲、麻、松茸

新溪 繭糸、雉、訥魚、鐵

白川 榛子、蒜、桔梗、苜蓿、苦菜、沙蔘、山藥、牛膝、車前子、莞草、燈心、野鶴、鱈魚、秀魚、鯽魚、鮎魚

▲安岳 絲、麻、鐵、蜜、人蔘、秀魚、白魚、蟹

黃州 糸、礪石、蜂蜜、葦魚、秀魚、魚卵、白蝦、鯽魚、訥魚、山查、蟹、青土、朱土、生梨、苜蓿、金鱗魚、生地黃、野蔞

遂安 人蔘、茯苓、紫草、五味子、石茸、松茸、金、銀、銅、鐵、直荏、繭糸

谷山 繭糸、生麻、蜂蜜、南草、眞茸、石茸、五味子、紫草、人蔘、鹿茸、弓幹木、松板、木賊草、黃楊木

載寧 石鐵 出鐵峴鐵種採取長 壽山以南大棘山 秀魚 出餘勿里每 年冬進上 魚卵 出餘勿里每 年四月進上 木綿 各坊皆有而尺於上下柳 洞方洞餘勿里坊未種 糸、麻、柴草、何首烏、細魚、蟹、

蠶魚、鯽魚、訥魚、白魚、松茸

豐川 糸、蠶、麻、紫草、黃荖、石花、落蹄、竹蛤、小蛤、鹽、川芎、蒼朮

康翎 礪石、蠶、魚鱈、細毛、青魚、石花、小螺、落蹄、青角、石魚、石毛、海衣、民魚、秀魚、鱈魚、廣魚、方魚

海州

穀類 稻、粟、黍、稷、秬、秠、麥、蕎麥、豆、太、菘豆、蕪苡

果類 梨、栗、棗、桃、李、杏、榛、栢子、櫻桃、楸子、葡萄、菱角、瓜、西瓜

菜類 芹、萹、葱、蒜、白菜、冬菘、蔓菁、高苣、紫蘇、薺、蕪、菜、蓼、桔梗、苜蓿、薯蕷、山薑、藕、海薺、黃角、青

角、綠角、蕪

木類 松、栢、桑、榆、栴、楮、槐、楓、楊柳、楸、榿、櫟、櫻

藥類 蒼朮、葛根、澤湯、桔梗、射干、牛膝、漏芦、木通、前胡、蘇葉、升麻、麥門冬 生海島中 苳蕪根、虎杖根、天南星、菟絲子、

車前子、馬蹄鈴

畜類 牛、馬、猪、羊、羔、犬、猫、虎、豹、豺、狼、兔、鹿、獐、狐、狸、蝟、獾、鼯

禽類 鷄、雉、鴨、鵝、烏、鶻、鸞、鶯、鳴、鶯、鴉、鸚、鸚、鵲、雀、鴻、雁、鷓鴣、戴勝、鶴、鶻、鸚、鸚

魚類 青魚、石魚、蘇魚、鯽魚、銀魚、秀魚、洪魚、民魚、兵魚、舌魚、鯊魚、魷魚、烏賊魚、長刀魚、絡蹄、大蝦、紫蝦、白蝦

介類 蟹、蛤、小蛤、紅蛤、竹蛤、小螺、石花

雜產 鹽、鐵 出沙石鐵 出老谷 出龍游里 薄后 荷葉 出青苔岩 紫草 舊

江原道

通川 人蔘、茯苓、地黃、五味子、石簞、水泡石、蜂蜜、蠶、紅蛤、海蔘、文魚、松魚、鱈魚、銀口魚、銀魚、方魚、青魚、加魚、古刀魚、鐵、鹽、

歙谷 銀魚、魴魚、加魚、生鱈、紅銀、海蔘、湖蟹、當歸、防風、山藥、金銀花、葛花

狼川 漆、海松子、五味子、紫草、人蔘、茯苓、蜂蜜、訥魚、錦鱗魚、石簾、梨
安峽 青石 在猪九里灘 玉燈石 在藤葛洞今無 漆、海松子 今無 石鐵 出縣東奴隱洞 五味子、人蔘、石簾、蜂蜜、羚羊 今無 白花蛇、訥魚、餘項魚 今無

春川 漆、海松子、地黃、茯苓、訥魚、餘項魚、石茸、蒲候、葡萄、莞席、辛甘菜、羌活、山藥、山查、獨活、金銀花、榛子、桔梗、何首烏、連翹、白桔梗、葛花、菟絲子、黃毛

▲三陟 芋、鐵、瑪瑙石、人蔘、蜜、紫檀香、海狸、升箭、地黃、茯苓、銀口魚、海物
襄陽 布、鐵、竹箭、海松子、人蔘、蜂蜜、海衣、早蠶、生釀、紅蛤、文魚、大口魚、松魚、鯉魚、銀口魚、黃魚、古刀魚、廣魚、秀魚、海蔘

高城 石鼎、人蔘、蜂蜜、海蔘、海菜、紅蛤、文魚、鯉魚、古刀魚、松魚、生釀、銀魚、黃魚、方魚、五味子、水精石、磁石、地黃、茯苓、防風

▲寧越 鐵、人蔘、白檀香、蜜、黃楊
平昌 松、栢、檀、槐、柳、楸、桑、楓、棗、栗、梨、桃、李、栢子、山葡萄、米、李、栗、豆、菽、黍、蕎麥、蜀黍、玉蜀黍、甘藷、麻、棉花、烟草、虎、豹、鹿、獐、熊、兔、狐、狸、山猪、狗、鼠、牛、馬、犬、豚、鷄、鷹、鴉、鳥、鶻、鶻、鶻

燕、鴨、山雉、百舌、鯉魚、錦鱗魚、訥魚、沙魚、梅魚、長魚、鱈、鮫魚、附魚、毛魚
江陵 人蔘 出五 海松子 連谷臨 松茸 嶺西 地黃 出嶺 茯苓 出山 川椒 連谷羽 木防已 出嶺 蜂蜜 出嶺 當歸 出嶺 蔓蔘 出五 山藥 嶺西 紫草 出嶺 黃柏 出嶺 五味子 出嶺 紫檀香 出嶺 梨 出嶺 大棗 出嶺 栗 出嶺 銀杏 出嶺 柿 出嶺 來禽 出嶺 木瓜 出嶺 廣魚 探秋 文魚 探秋 紅蛤 探秋 海蔘 探秋 大口魚 探秋 松魚 探秋 鯉魚 探秋 銀口魚 探秋 早蠶 探秋

▲金化 鐵、漆、人蔘、綠礬

楊口 磁器土、五味子、紫草、人蔘、茯苓、蜂蜜、芍藥、當歸、山藥、蒼朮、金銀花、餘項魚
鐵原 磁石、漆、人蔘、茯苓、地黃、白花蛇 今無 松茸、五味子、蜂蜜、錦鱗魚、訥魚、蕁
洪川 石鐵 斗村面 漆、五味子、紫草、人蔘、茯苓、蜂蜜、錦鱗魚

▲旌善 鐵、磨石、漆、人蔘、鹿茸、鯉魚
原州 玉石 出州西六十里 羚羊、蜂蜜、海松子、五味子、人蔘 生雄岳山而稀少尖細 不宜供獻轉賣他邑 紫草、石簾、訥魚、餘項魚、錦鱗魚、鳳川小魚 鱗細骨軟 絕異他種

蔚珍 牟、麥、生糸、租、木綿、太、南草、小豆、菁根、粟、柿、黍、甘藷、黑真荏、菘豆、麻布、白木、生繭、竹席、茵席、草蓆、鯉魚、方魚、道味魚、全鰓、海蔘、甘藷、長蠶、海衣、鹽

▲平海 竹箭、海狸、蜜、人蔘、茯苓、白花蛇、海物
橫城 人蔘、茯苓、蜂蜜 三種雖產不阜

杆城 地黃、何首烏、茯苓、防風、當歸、升麻、澤瀉、木防已、白花蛇、竹箭、漆、松茸、蠶、紅蛤、文魚、大口魚、鯉魚、方魚、銀口魚、銀魚、黃魚、廣魚、古刀魚、麻魚、海蔘、鯉魚、蟹、大蛤、蕁 今按勝覽次載有人蔘茯苓五味子蜂蜜海衣而實皆非土產其產多者或不載故就加刪增以備後考

▲淮陽 鉛、鐵、磁石、漆、人蔘、蜜、羚羊、鹿茸、錦鱗魚
伊川 漆、海松子、五味子、人蔘、茯苓、白花蛇、蜂蜜、松茸、石茸、紫草、訥魚、餘項魚、錦鱗魚、羚羊
平康 漆、海松子、五味子、人蔘、茯苓、石茸、蜂蜜、羚羊 今無 白花蛇 今無 訥魚、餘項魚、銀鉛鐵、水銀、生麻、雪花紙、當歸、羌活、淫羊藿

麟蹄 五味子、紫草、人蔘、當歸、茯苓、松茸、蜂蜜、訥魚、餘項魚、錦鱗魚
金城 漆、人蔘、石鐵、蜂蜜、鉛鐵、茯苓、南草、石茸、五味子、訥魚、如項魚、錦鱗魚

第四章 李朝末期

一七五

大棗、鹿茸、蟹、五味子
 安邊 稻、梁、黍、稷、粳、麥、耳麥、蕎麥、豆、太、菘豆、胡麻、秋、麻絲、繭絲、布、綿、紬、紫草、松茸、箭竹、五味子、
 人參、安息香、茅香、牡丹、川芎、當歸、羌活、天鵝、蜂蜜、羚羊、山獺、水獺、山羊、山猪、黃魚、松魚、鱈魚、銀魚、鱈魚、
 秀魚、瓜魚、青魚、銀口魚、餘項魚、廣魚、魴魚、海參、酥油、石花、古刀魚、紅蛤、蛤、鹽、蟹
 甲山 鹿茸、麝皮、鼠皮、麝香、山羊皮、水蓮皮、狐皮、黃毛、當歸、桔梗、石茸、栝子、五味子、生麻、尺魚、餘項魚、樺皮、
 水泡石、蜂蜜、銅、鐵、豆粥、穀物 兩麥 牟耳
 三水 穀物 耳麥 物產 麻布、貂皮、土產 五味子、白芍藥 魚產 臨淵水魚、尺魚
 文川 麻布、芝草、生鐵、廣魚、青魚、蜂蜜、銀口魚、石花、水鐵、五味子、鱈魚、松魚、古刀魚、海參、黃魚、附魚、土鹽、山
 葡萄、白礪石、青礪石、朱土、青土、秀魚、蟹、山馬乳、鱈魚、木賊草
 定平 桑、麻、糸、芝草、五味子、蜂蜜、銀魚、麻魚、蟹、松魚、鱈魚、古刀魚、黃魚、青魚、鯢、蛤、蟹、白魚、鳶魚、紅蛤、
 酥油、秀魚、魴魚、鱈魚、洪魚、廣魚、海參
 永興 絲、麻、竹箭、鐵、五味子、芝草、安息香、人參、松茸、茯苓、蜂蜜、石茸、晚茸、便風、黃土、青礪石、黃楊木、木賊、
 黃栗、大棗、生梨、榛子、莞草、山藥、馬乳、菱仁、山葡萄、牡丹、山查、芍藥、羌活、藜本、唐杖根、枸杞子、南星、川芎、
 蒼朮、肉色土、鱈魚、松魚、黃魚、魴魚、白魚、鱈魚、附魚、鱈魚、餘項魚、蟹、銀魚、秀魚、麻魚、紅蛤、廣魚、洪魚、鳶魚、
 青魚、鯢、石花、蛤、銀口魚、古刀魚、海參、鯊魚、刀味魚、加魚、大口魚、角魚、全魚、蟹、土鹽

咸鏡北道

鍾城 魚鹽 江有鱈魚、松魚、海有文魚、大口魚、紅 穀物 黍、粟、稷、唐、豆、太、真麥、小
 蛤、海參、青魚、加魚、大蛤、雜糧、鹽 豆、牟麥、耳麥、木麥、菘豆、生麻

茂山 鹿茸、貂皮、鼠皮、羚羊角、細布、樺皮、栝子、五味子、芝草、當歸、蒼朮、松魚、鱈魚
 穩城 麻、大口魚、文魚、鱈魚、松魚、紅蛤、海參、青魚、加魚、雉、白蛤、江瑤、蟹、鹽、水獺、五味子、黃魚、洪魚、鵝、蟹、
 會寧 鐵、五味子、桔梗、芍藥、大口魚、松魚、洪魚、生麻、沙參、紅花、薇蕨、文魚、青魚、加魚、古刀魚、鱈魚、魴魚、沙魚、
 附魚、紅蛤、海參、塔士麻、蛤、蟹、鹽
 城津 麻布、沙鐵、五味子、紫草、蜂蜜、紅花、白土、牛、馬、鹽、大口魚、文魚、鱈魚、松魚、黃魚、銀黃、鯢、蛤、洪魚、魴
 魚、紫蟹、海參、北魚、古里麻、蟹、海獺、水獺
 明川 麻、絲、石茸、五味子、大口魚、紅蛤、文魚、銀魚、麻魚、鱈魚、紫蟹、水蟹、海參、昆布、塔士麻、蟹、魴魚、鹽
 慶興 麻、鐵、海獺、水獺、大口魚、文魚、松魚、鱈魚、黃魚、古刀魚、洪魚、比目魚、青魚、紅蛤、白蛤、石花、秀魚、鹽、紫
 蟹、紫蝦、塔士麻、蟹、昆布、麻魚、魴魚、床魚、附魚
 慶源 白蛤、紅蛤、洪魚、大口魚、文魚、鱈魚、青魚、塔士麻、鹽、租、粟、稷、豆、太、牟、耳、麥、生麻
 富寧 罌麥、麻、鐵、人參 今 土豹、貂皮、青鼠 今 海獺、水獺、五味子、大口魚、文魚、魴魚、松魚、黃魚、麻魚 今 青魚、鱈
 魚、紅蛤、石花、白蛤、蟹、鯽魚 今 無 鹽、昆布、塔士麻、古刀魚、海參、附魚、尊 今 樺皮、海松子 無 白朮、當歸、黃芪、
 白芍藥、赤芍藥、黃栢、大黃、桔梗、葛根、防風、白芷、蒼朮、半夏、益母草、車前子、苦參
 吉州 麻絲、沙鐵 出臨漢 麝香 今 鹿茸 今 羚羊 今 五味子、紫草、綠礬 十里許 人參 今 大口魚、文魚、鱈魚、松魚、黃魚、銀魚、
 古刀魚、鯢、蛤、紅蛤、洪魚、麻魚、魴魚、臨淵水魚、紫蟹、蟹、海參、古里麻、蟹、昆布 今 塔士麻 今 海獺、水獺、青鼠 今
 貂 今 樺皮、鹽、紅花、白土 出州南堆坪 鐵 今 鱈魚、明太魚、藥材、大黃、黃芪、半夏、防風、桔梗、蒼朮、白朮
 鏡城

穀類 稻 有各 牟 有各 粟 有各 耳 麥 有各 菽 或曰 黍 有各 豆 有黃赤 糖 有兩 玉糖 又稱江 唐豆、豌豆、甘藷、麻、
 第四章 李朝末期 一八七

布 極納布、桑處々有之土人不業蠶家被即
不出類一名於作五或有種者

菜類 蘿蔔、白菜、水芹、胡朴、真瓜、水朴、朴、葱、蒜、蕪、芹、蓼、薇蕨、早薑、多士麻、雜常藿、昆布

果類 梨、棗、桃、櫻桃、杏、石梨、達阿、山莫、栢子、覆盆子、地盆子、桑葉、栗、老李

家畜 馬、牛、驢、雞、犬、猪、鼠、貓

毛類 虎、豹、熊、麝、土虎鬚、狼、狸、兔、貂、青鼠、鼯鼠、山猪、水獺、土鼠

羽類 鷹、鷂、晨風、鸞、鷓鴣、野鶴、鸛、布穀、鳩、鴉、鳶、海鳥、鷹、雉、鶉、梟、啄木、蝙蝠、戴勝、鸛、鸞、鸞、鸞

鴻、雁、鵠、鶻、雀、鴛、太雀、負鸞雀、群鶻、渡飛、鼎小雀

鱗類 明太魚、大口魚、文魚、鯉魚、古刀魚、無太魚、升魚、青魚、加魚在月出、白魚出、洪魚、黃魚、蓼致魚、羅致魚、海

獺、海參、海馬、海豹、鯨、象發、附魚、山川魚、大川魚、小川魚、古突莫伊、黃魚、秀魚、海豚、鰻鱺魚一名七、鱈魚、

松魚

甲類 龜、大蛤、紅蛤、紫、沙蛤、土蛤、刀蛤、海蠶、田螺、蟹

蟲類 蟻、蠅、蛾、蝶、蜂、蠶、蜘蛛、山蜂、石蜂、木蜂、沙蜂、蜻蛉、胡蝶、馬蛛、蠶、蟬、螞蟥、草蛛

蛇類 殺母蛇、烏蛇、白花蛇、蟒黑質金、蝮蛇、飛蛇、赤項蛇章煮多

木類 松、杉、栢、椴、檜、楸、檜、樟、槐、柳、報恩木、價文木、馬價木、檀、柳、楊、白楊、黃楊即黃

花類 蓮、海棠、菊、芍藥、薔薇、野菊、杜鵑花、牡丹花

藥材 百花蛇、烏蛇、蝙蝠、守宮、蟻、葛上亭長、鱉、水蛭、蒼朮、白朮、當歸、白芍藥、獨活、防風、川芎、薄荷、半夏、

柴胡、葛根、升麻、黃芪、白芷、黃連、細辛、桑白皮、土茯苓、威靈仙、地骨皮、木通、海桐皮、龜甲、杏仁、桃仁、牛膝、

山查肉、桔梗、車前子、薏苡仁、地榆、木賊、貫衆、五加皮、石葦、黃精、南星、沙參、苦參、地丁、蒲公英、麝香、熊膽、

牛黃、蘿蔔子、百合、射干、石決明、瞿麥、扁豆、益母草、黃栢、人參、磁石、紅花、白芥子、蓮子、大黃、艾葉、甘菊、黃

芩、白山藥、郁李仁、馬勃、鼈甲、馬齒莧、蘇葉、茜根、枸杞子、蛇床子、菟絲子、雪蜂房、鱧魚、鹿茸、羚羊角、蜀葵、

蒼朮、鴉片、石蟹、石蜜、浮石、夾仁、菱仁、槐花、杉木脂、松脂、海松子、白頭翁、絡石、景天、遠志、五味子、南藤、

草烏、海粉、海藻、海帶、石龍子、仙人掌、胡麻子、紫草、浮萍、菱皮、白楊、水楊、鯽魚、山骨郎、自然銅、痰骨、香薷、

牛方子、斑貓

石類 膏石、碑石、石炭

水鐵 釜、鼎、犁類

熟鐵 鎌、鋤類

右表中には、海に臨んで居らぬ地方に、海産物名の表はれて居るものがあるが、これは當時、海産物を
得るに困難なる山地の郡縣等に於て、臨海地方に一部落乃至二部落位の飛管領土を有して居つた爲めであ
る。また物産中には、地方に依りて名稱及び記載の精粗一定しないものあり、米、其他穀物の如き、到る
所に普通に生産さるゝものはこれを省略し、僅に二三の特産品のみを記載した例も多いやうである。云ふ
迄もなく、李朝末葉に於ける生産品は、農産品、林産品、及び水産品を主とし、工業品に在りても機械を
用ふる工場工業は殆んどなく、いづれも小規模の原始的手工業に依る生産に過ぎなかつたのである。

第二節 物産の種類

香薷、蕪澄茄、八角茴香、鹿角、女貞實、蕎麥、馬乳、前胡、萬年青、補骨脂、破故紙、上羊皮、梓作椒、丁香、班芝、班芝末、酸棗仁、臭春、輪花、狼牙、仙靈脾、淫羊藿、艾蒿、禹餘糧、便風、紫檀香、白檀香、麝香、射香、地膚子、零陵香、木防已、雙傑竹、黃精、石菴、甘草、胎水乾、胎水、獅子足艾、雀舌、鱗酥、地黃、生地黃、乾地黃、木瓜、苦棟根、旋覆花、金銀花、金錢花、川椒、龍膽、草龍膽、木患子、無患子、白芨、枳殼、枳實、天門冬、天麻、根皮、赤箭、定風草、蔓荊子、側柏葉、蒼朮、白朮、朮、山薊、石決明、烏梅、蛇床子、鵝膽油、龍鬚草、山馬乳

鑛物類

金、銀、金鐵、別銀、銅、銅鉛、自然銅、山骨、銅鐵、鉛銅石、鐵、水鐵、生鐵、石鐵、土鐵、熟鐵、正鐵、沙鐵、水銀、石炭、雲母、硫黃、石硫黃、石雌黃、白石英、硃石、紫硃石、水爛石、烏水、白礪石、青礪石、礪石、砥石、膏石、神石、水精石、烏水精、玉燈石、磬石、青爛石、滑石、無名石、光石、紫石、玉石、水泡石、浮石、華班石、石膏、白石、磁石、青土、臘甘石、青玉石、薄土、朱土、赤土、白土、磁器土、白粘土、肉色土、磁玉沙、荏硝、綠礬、白礬、磊礬、白礬、黃礬、石鍾乳、水晶、白玉、青玉、四色玉、珠玉、淡青玉、瑣珠、玳瑁、屬玉、石灰、石粉

雜類

石鼎、土器、陶器、磁器、沙器、漆器、釜、鼎、梨、鐮、鋤、蠶繭、雪綿、雪綿子、木綿花、木花、綿花、繭糸、麻糸、麻、苧麻、眞荏、水荏、紬、綿布、木綿、布、麻布、苧布、草麻、紙、白紙、雪花紙、筆、墨、古突莫伊、鹽、土鹽、豆粥、蜂蜜、蜂液、石清蜜、茶、葛粉、松茸、香茸、藜古、石茸、薑耳、晚耳、白鱸、酥油、煙草、南草、漆、藍、青黛、魚鱗、紫草、鬱金、靛藍、莞草、苧草、茵草、葦草、蒲、竹茸、席、紋席、弓梁、草笠、燈心、箭竹、烙竹、竹筍、樺皮、黃楊板、松板、上羊皮、

山羊皮、水達皮、狐皮、黃皮、貂皮、獺皮、鼠皮、黃毛

これを要するに、李朝末葉に於ては、右の如く多種多様の物産を有して居たけれども、産業の發達が幼稚にして、殊にその物産に大量生産が行はれず、各種のものが少量に各地方に撒布點在して居た上に、交通の便の拓けて居なかつたことは、物産の種類の比較的多いに拘らず、原料の採集、工業の經營、並に商業取引上に不便を來さしめ、當時は勿論、自然今日に於ても製造工業及び商業貿易の發達を不振ならしめて居るのである。而して當時の生産品は、常設店舗取引の幼稚なる時代のこと、て、勢ひ大部分は各地方に存在せる千内外の市場に於て取引され、市場廻りの場軍又は地方行商の繰負商が、或は舟運を利用して、或は馬背、擔軍に依りて運搬し、その商業上の實權は、主として開城商人の掌握する所となつて居たのである。當時は國都たる京城を外にしては、大市街地として見るべきもの極めて少く、僅に觀察使廳の所在地などが稍や繁華な都會で、府郡縣牧等の行政廳所在の邑内と雖も、今日に比較すればその人口数は概して遙かに少數であつた。従つてその生産力及び消費力の微弱であつたことも、大抵想像し得らるゝであらう。また外國貿易に就いて見るに、李朝末葉を通じて、朝鮮の外國貿易は終始輸入超過を繼續し、これが爲め對外決済上甚だしく不利を來し、延いて財政の不安を醸し、金融の梗塞を招き、國民經濟を壓迫すること頗る大なるものであつた。その後保護政治時代を経て、日韓併合の行はれ、財政の改革と相俟ちて、

産業の振興を見るに至り、その結果、貿易の趨勢は次第に順調に向ひ、最近に至り却つて輸移出超過に好轉したことは、當時を回想して實に隔世の感があるが、この一事は、即ち朝鮮産業の將來に一道の光明を與ふるものと云へやう。されば各地方に於て生産さる、朝鮮の物産を、一層巧みに精製加工し、或はこれを原料として更に一段と製造工業の勃興を計り、更に土地に適した物産を新に見出してその増殖を計り、また鐵道、其他の水陸交通機關を完備し、且つ生産及び取引上必要なる金融機關の改善を行ひ、更に從來その利用が充分でなかつた水力電氣事業を熾ならしめ、西部並に北部に無盡藏に埋藏せらるゝ無煙炭と褐炭を工業用燃料として使用するに於ては、勞力の豊富なること、物産の種類が、農産、其他の原料品を主とする關係上、縱令小規模ながらも、今後尙ほ産業の發達を來し、商業取引の増進を見ること必ずや顯著なものがあると信ずる。殊に朝鮮に於ける各種食糧品及び原料品の増殖は、内地の不足せる原料供給に貢献する所大なるものあるべく、相倚り相助けて内鮮の經濟關係を益々密接ならしむる効果がある。

第五章 併合以後

第一節 生産の増加

朝鮮は亞細亞大陸の東部に斗出せる一大半島にして、東經百二十四度十一分より百三十度五十六分二十三秒、北緯三十三度六分四十秒より四十三度三十六秒の間に位置し、東は日本海に面し、西は黃海に臨み南は朝鮮海峽を隔て、九州及び中國と對し、北は鴨綠江及び豆滿江に依りて滿洲及び露領に界して居る。東部海岸は概して良港に乏しく、僅に元山、城津、清津、雄基等を數ふるに過ぎぬが、南部及び西部海岸は大小の島嶼散在し、幾多の港灣出入して良港を形成し、就中、釜山、木浦、群山、仁川、鎮南浦等は著名なるものである。朝鮮半島の地勢は、蜿蜒たる長白山脈が東北方より西南に連りて北方の國境を擁し、その一脈は南に延び、平安南北道及び咸鏡南北道の境を劃して江原道に入り、東海岸線に沿ひて南に走り以て半島の脊梁を成して居る。この脊梁山脈以東の地は斜面急峻にして、大川、平野は少いが、その以西は比較的傾斜緩漫であり、處々に平野が開け、鴨綠江、洛東江、大同江、漢江、錦江、蟾津江の六大江を始め、大小の河川多く、舟楫の便と灌漑の利に富んで居る。造林、治水の業未だ完からぬ爲め、屢々洪水旱魃の害を蒙ることがあるが、地味概して肥沃にして農業に適し、米、麥、豆類、雜穀、人蔘、棉花、煙

草、繭、麻、蔬菜、果實等の農産に富み、また牛、木材、礦物、皮革等をも産し、沿海は魚族極めて豊富である。氣候は大陸の影響を受けることが多く、内地に比して寒暑の差違は著しいが、その地勢が南北に長く、略ぼ九州の南端より北海道の北端までの間に於て見る寒暑と大差のない爲め、動植物の分布もまた相似た所が少くない。朝鮮全土の面積は、一萬四千三百十二方里で、わが本州より滋賀縣の面積を除いたものに、略ぼ匹敵して居る。而して全土をその土地の組成別に觀察すると、林野一千五百八十八萬三千町歩、畜(内地の田に相當す)百五十五萬四千町歩、田(内地の畑に相當す)二百七十六萬八千町歩、其他二百五萬三千町歩となつて居る。今各道別の面積組成状況を見ると左の通りである。

面積の組成別 (大正十三年末)

道	林野	畜	田	其他	合計
京畿道	七五	一九九	一八六	一九二	一、二九二
忠清北道	五三二	六九	八九	五八	七四八
忠清南道	四六九	一六〇	八四	一〇五	八二七
全羅北道	五三二	一六七	六八	九四	八六〇
全羅南道	九七二	二〇三	二〇八	一八	一、四〇〇
慶尙北道	一、三二七	一八八	二〇一	二〇九	一、九一五
慶尙南道	八八一	一六五	一一三	八二	一、一四一
合計	一五、八八三	一、五五四	二、七六八	二、〇五三	二二、二五八

道	面積	畜	田	其他	合計
黄海道	一、〇〇五	一三二	四〇七	一四四	一、六八七
平安南道	九九九	六五	三三八	一一三	一、五〇五
平安北道	二、三九五	七三	三三三	七七	二、八六八
江原道	一、九〇五	八〇	二五二	四三三	二、六七八
咸鏡南道	二、五四四	四四	三二二	三三二	三、二三四
咸鏡北道	一、六一八	九	二九八	二二六	二、〇五二
合計	一五、八八三	一、五五四	二、七六八	二、〇五三	二二、二五八

即ち朝鮮の面積の組成別割合を見ると、林野は實に七割一分四厘を占め、畜七分、田一割二分四厘、其他九分二厘となつて居る。總人口一人に付いての耕地面積は、内地の一段一畝歩、臺灣の一段九畝歩に對し、朝鮮は二段四畝歩である。また農家一戸當耕地面積は、内地の一町一段一畝歩、臺灣の一町九段五畝歩に對し、朝鮮は一町六段歩である。この點より見るも朝鮮は農業上に於て有望なる將來を有して居るが未だ土地の利用に於ては内地に比較して甚だしく劣つて居る。由來朝鮮は農業國にして、現にその人口の約八割が農業に従事して居る關係上、その物産は大部分農産物を以て占めて居るが、試みに日韓併合以後に於ける各種物産の生産總額を見るに左表の示す如く、年々急激なる増加を示し、大正十三年の總生産額は、農産物十二億八千五百三十八萬九千圓(七割三分八厘)、林産物七千四百七十二萬二千圓(四分三厘)、水産物八千四百八十七萬二千圓(四分九厘)、礦産物一千九百十四萬三千圓(一分二厘)、工産物二億七千六

百八十六萬二千圓（一割五分九厘）、合計十七億四千九十八萬九千圓に達して居る。その増加の割合を見るに、併合當時に比し、農産物は約五十三割、林産物は約三十八割、水産物は約九十割、鑛産物は約三十一割、工産物は約百七十六割、合計に於て約六十五割の増加を示し、産業發達の跡頗る顯著なるを認めるところが出来る。

生産物價額累年對照表

年次	農産物	林産物	水産物	鑛産物	工産物	合計
明治四十三年	二四一,七二二	一九二,六六六	?	六〇,六七七	?	二,六七〇,五五五
同 四十四年	三五五,二五三	一九八,七八八	九四,一八八	六一,八五五	一五,六四五	四,〇六三,三八〇
大正元年	四三五,一六六	二〇,五三三	一三,〇七一	六,八一五	一七,一五三	四,九二六,八八〇
同 二年	五〇八,一九一	二二,五四六	一六,九五二	八,一九七	二七,九〇〇	五,八三三,七八七
同 三年	四九八,九九七	二二,三三八	一八,九二八	八,五三二	二九,六三二	五,九三三,九九
同 四年	四二八,七九七	二二,四〇六	二二,〇三〇	一〇,五二五	五九,二五一	五,四二九,七三三
同 五年	五〇〇,三二八	二四,八〇八	二五,七七七	一四,〇七八	六八,一九二	六,五三〇,四四
同 六年	七〇二,九三三	二六,三七九	三四,二六〇	一七,〇五八	九七,二四八	八,七七七,五五八
同 七年	一一〇三,九七一	二九,二四六	五二,〇八三	三〇,八三三	一六二,二四一	一,三七八,三七五
同 八年	一,三八九,二九九	二〇,四一六	七二,二四六	二五,四一四	二六二,二二二	一,七七八,五九九

日韓併合以來、諸般産業施設の改善と當局の指導獎勵に依りて、今や朝鮮の物産は、あらゆる方面に、あらゆる種類のものを産出するに至つたが、試みに各道に於ける特産品の産出状態を見ると左表の如くなつて居る。

各道特産品分布表

府郡別	特産物	産物
京城府	金銀細工品、鐵器、鑪器、織物、漢陽高麗燒、蔘精、ゴム靴、麥粉、織紐、綿糸、牛皮、螺鈿漆器、精米、石鹼、石灰	
仁川府	精米、燐寸、酒、味噌、醬油、蒲鉾、ハム	

第五章 併合以後

高陽郡 米、莞草、新羅蓮、モルヒネ、大豆、苹果、紙
 廣州郡 酒、麴、履物、沙器、陶土、棉花、煙草、梨、栗、木炭、牛皮
 楊州郡 栗、銀杏、白菜、棉花、大理石、牛皮、蜂蜜
 漣川郡 大豆、繭、沙器、麥、牛、織物、銀杏、木炭、麻
 抱川郡 繭、牛、織物、木炭、栗、草鞋、松の實、陶磁器
 加平郡 木炭、牛、蜂蜜
 楊平郡 苧麻、繭、大理石、木炭
 驪州郡 米、陶磁器、織物、棉花、綿布、山茶夷
 利川郡 棉花、大麻、煙草、襟實
 龍仁郡 煙草、棉、甜瓜、莞草、銀杏、襟實
 安城郡 鐘器、煙草、煙管、陶磁器、鮮鞋、米、砂金、朝鮮紙
 攝威郡 米、生糸、繩、叭、杞柳、陶磁器
 水原郡 米、麥、苹果、煙草、繩、叭、鹽、栗、銀杏、杞柳、襟實、土器
 始興郡 皮革製品、土管、瓦、煉瓦、素燒物、陶磁器、紡績糸、粗布、柳行李、栗、銀杏、煙草、鹽
 富川郡 鹽、牛、豚、苹果、梨、繩、叭、大理石、桐
 金浦郡 米、繭、豚、鹽、桐、鱈、鰻
 江華郡 柿、花紋席、織物、蝦、石首魚、鹽、莞草、鐵鑽、陶磁器

坡州郡 大豆、石灰、襟實
 長湍郡 大豆、牛、絹織物、人蔘、大理石、襟實、木炭
 開城郡 人蔘、白菜、大豆、苹果、桃、栗、牛、苧麻、大理石、蜂蜜

忠清北道

郡別

特

産

物

清州郡 清州炭酸(天然サイダー)、煙草、柳行李、ボタンレース、陶磁器、陸地棉、銀杏、襟實、金、大黃
 報恩郡 棗、木通細工、陸地棉、繭、木炭、莞草、煙草
 沃川郡 棗、黒鉛、繭、繭、陸地棉
 永同郡 柿、棗、陸地棉、線綿、金、葛苧、襟實
 鎮川郡 煙草、米、繭、陸地棉、陶磁器
 槐山郡 煙草、木炭、木材、木通細工、繭、銀杏、陶磁器、襟實、葛粉
 陰城郡 煙草、金、柿、陶磁器
 忠州郡 煙草、鐵鑽、重石、紙、大豆、楮、繭、地黃
 堤川郡 紙、大豆、黄色、煙草、繭、楮
 丹陽郡 紙、大豆、楮、襟實、人蔘、煙草

忠清南道

第五章 併合以後

朝鮮の物産

郡別

特

産

物

公州郡	繭、杞柳、柳行李、バスケット、金、木炭、煙草、銀杏、櫟實
燕岐郡	叭、柳行李、バスケット、苹果
大田郡	米、棉花、牛皮、皮革製品、苹果、梨、蔬菜、煙草、味噌、醬油、繭、土管
論山郡	米、叭、寶樂燒、棗、煙草
扶餘郡	苧布、金、繭、櫟實
舒川郡	苧布、櫟實、太刀魚、石首魚
保寧郡	苧布、硯、太刀魚、鱧
青陽郡	苧布、金、重石、煙草、櫟實、銀杏
洪城郡	棉花、繭、淺蜆、蛤、陶磁器
禮山郡	米、大豆、荏、牛皮、筆、棉花、煙草、繭、金、陶磁器
瑞山郡	鱧、石首魚、淺蜆、木炭、繭、煙草、金、陶磁器
唐津郡	繭、柿、蝦、鱈
牙山郡	木通細工、叭、銀杏、鹽、金、石綿
天安郡	麥粉、濁酒、陶磁器、米、甘瓜、砂金、除蟲菊、胡桃

全羅北道

府郡別

特

産

物

精米、酒、醬油

全州郡

莞草蓆、團扇、扇子、朝鮮雨傘、生薑、柿、朝鮮紙、生絹蚊帳、苔紙、煙草、枸杞子、銀杏、荏油、苧布、棉花、生糸、楮、酒、大理石

鎮安郡

煙草、楮、朝鮮紙、木炭

錦山郡

人蔘、棉花、煙草

茂朱郡

金、楮、朝鮮紙、苔紙、吳茱萸油、煙草、木炭、五倍子、椎茸、人蔘

長水郡

蠟石、石器、楮、煙草、繭、金、椎茸、漆

任實郡

大豆、麻布、繭、楮、煙草、朝鮮紙

南原郡

煙竹、扇子、雲峯椀、麻布、絹布、棉花、煙草、麥、椎茸

淳昌郡

朝鮮紙、苔紙、胡椒、麻布、絹布、棉花、楮、煙草、燒酎

井邑郡

苧麻、苧布、絹布、棉花、煙草、茶

高敞郡

苧麻、苧布、棉花、朝鮮紙、楮、太刀魚、陶磁器、枳油

扶安郡

木材、棉花、米、石首魚、火魚

金堤郡

網巾、綿布、梨、葦菜、棉花、雀の鐘詰、石首魚、網巾、蘭草蓆、陶磁器

沃溝郡

米、叭、石首魚、太刀魚

益山郡

米、棉花

全羅南道

府郡別

特

産

物

木浦府 繭綿、棉實油、棉實粕、清酒、寒天

第五章 併合以後

朝鮮の物産

光州郡 棉花、繭、繩、叭、清酒、茶、セメント瓦、刷子、錫
 潭陽郡 笠、扇子、梳櫛、細簾
 谷城郡 麻布、柿、麴、蔗、竹刀、杖、鮎
 求禮郡 鮎、椎茸、松茸、藥草、煙草、木炭、茶、冬栢、木器
 光陽郡 金、海苔、牡蠣、煙草
 麗水郡 棉花、綿布、海苔、石首魚
 順天郡 棉花、繭、綿布、煙草、蝦、木炭
 高興郡 蝦、海苔、ハモ、牡蠣
 寶城郡 繭、米、金、花紋席、麻布
 和順郡 人蔘、米、麥、大豆、柿、木材、蜂蜜、鮎、陶磁器
 長興郡 苧布、海苔、鮎
 康津郡 竹、海苔、陶器、繭
 海南郡 棉花、海苔、蠟石細工品、磁器、大理石、硅砂、高嶺土、石首魚、繭
 靈巖郡 棉花、竹、牡蠣、鮑卵、梳櫛、海蘿
 務安郡 硅砂、鯨油、棉花、石花菜、和布、鯛
 羅州郡 煙竹、櫛、簾、扇子、關疊表、棉花、繭、苹果、梨
 咸平郡 莞草筵、和布、棉花
 靈光郡 棉花、太刀魚

長城郡 楮、細寒天、角寒天、茶、漆、陶磁器
 莞島郡 海苔、和布、榨油
 珍島郡 棉、石首魚、海苔、高嶺土
 濟州島 馬、椎茸、榨油、木櫛、木炭、朝鮮毛帽子、笠子、宥巾、豚毛、鮑、煙草

慶尙北道

府郡島別 特産物
 大邱府 苹果、燻寸、生糸、柳行李、バスケット、酒、醬、牛皮
 達城郡 杞柳、細寒天、苹果、米、豆、麥、煙草
 軍威郡 綿布、莞草筵、棉花、草鞋、煙草
 義城郡 莞草筵、棉花、繭、麻、牛、麥、米、木綿
 安東郡 麻布、繭、紙、煙草、麻、綿花、綿布、牛、米、麥、豆、櫟實
 青松郡 磁土、牛、麻、煙草
 英陽郡 亞硫酸、銀、銅、牛、松茸、煙草
 盈徳郡 朝鮮紙、海苔、鱒、鯖、和布、陶磁器、炆器
 迎日郡 葡萄、牛、米、豆、朝鮮紙、褐炭、鱈、鯖、連架、萩細工、陶磁器、木炭
 慶州郡 朝鮮紙、綿布、牛、麥、豆、米、土器、鯖、鱈
 永川郡 米、麥、豆、煙草、麻布

第五章 併合以後

朝鮮の物産

慶山郡 磁土、朝鮮紙、米、大豆、煙草、苹果
 清道郡 牛、柿、煙草、朝鮮紙
 高靈郡 金、銀、木材
 星州郡 木材、米、豆、麥
 漆谷郡 杞柳、豆、苹果、煙草
 金泉郡 紙、莞草蓆、瓦、綿布、麻、麥、豆、米、金、苹果
 善山郡 綿布、莞草蓆、棉花、杞柳、苹果、襟實、土器
 尙州郡 棉花、繭、紬、金、黒鉛、牛、豆、米、麥、木炭
 開慶郡 木材、明紬、繭、陶磁器、萩細工、襟實、胡桃、山椒油、東柏油、山葡萄
 醴泉郡 棉花、繭、柿、朝鮮紙、綿布、米
 榮州郡 人蔘、明紬、米、繭、柿
 奉化郡 紬、牛、木材、眞鍮器、繭、煙草、金、柿、襟實、山葡萄、蜂蜜
 鬱陵島 白檀細工、烏賊

慶尙南道

府郡別
 釜山府 清酒、醬油、穀粉、杯油、綿布、櫻干、罐詰、硬質陶器、竹製品、牛皮、精米、石鹼、紡績糸
 馬山府 清酒、醬油、絲綿、濁酒

特産

物

晋州郡 木綿、白菜、棉花、竹、竹製品
 宜寧郡 紙、屏風、棉花、楮
 咸安郡 蘿蔔、棉花、煙草、竹、金、銀、銅、陶磁器
 昌寧郡 煙草、落花生、芹、棉花、陶磁器
 密陽郡 鮎、清酒、濁酒、苹果、桐、繭、煙草、牛皮
 梁山郡 蜂蜜、寒天、桐、太刀魚
 蔚山郡 苹果、清酒、鱈、イリコ、鯖、鱈
 東萊郡 海苔、螺鈿漆器、鱈、イリコ、煙管、パルプ、苜蓿、セメント瓦
 金海郡 蘆蓆、桐、梨、煙草、陶磁器、米
 昌原郡 米、叭、繭、煙草、銅、金、銀、鱈、梨、苹果、石灰
 統營郡 螺鈿漆器、鱈、蒺藜草、イリコ、鯖、鱈、鱈、金、銀
 固城郡 高嶺土、桐、鱈
 泗川郡 石花菜、米、棉花
 南海郡 蛤、苧布、鱈、イリコ、貝殻灰
 河東郡 海苔、煙草、蘆草蓆、鱈、葦菜、高嶺土、竹製品、紙、桐、竹、木製器、木炭
 山淸郡 綿布、栗、磁器、陶器、葱、繭、煙草、礪石、高嶺土、木製器、扇子、柿、蜂蜜、竹、竹製品、紙、木炭
 咸陽郡 柿、朝鮮紙、木製器、繭、煙草、漆、木炭
 居昌郡 麻布、紙、繭

第五章 併合以後

陝川郡 莞草蓆、莞草疊表、竹製品、紙、楮、金、三椏

黄海道

郡別

特

産

物

海州郡 硯、墨、陶器、織物、陶土、大理石、莞草蓆、襪質、酒、苹果、石首魚

延白郡 米、大豆、金、泥炭、石粉、石灰、磁器、莞草蓆、襪質、酒、蝦

金川郡 大豆、紙、人蔘、繭、大理石、木炭

平山郡 大豆、木炭、栗、東柏油、人蔘、石灰、蜂蜜、繭、煙草、大理石

新溪郡 紙、栗、大麻、煙草、繭、木炭、藥草、磁器

甕津郡 綿羊、鹽、石首魚、海蔘、鮭、蝦、蛤、鮎、麴、柿、砒、襪質、莞草蓆

長淵郡 甜菜、鹽、金、銀、鐵、硯石、砒砂、東柏油、太刀魚

松禾郡 鹽、金、銀、鐵、甜菜、玉筋魚、抄双魚、磁器

殷栗郡 棉花、鐵、甜菜、鱈、石首魚、陶磁器

安岳郡 棉花、鹽、鐵、酒、蜂蜜、天日草製手提、石首魚

信川郡 棉花、煙草、酒、東柏油

載寧郡 米、大豆、棉花、煙草、亞鉛、鐵鑛、蜂蜜、甜菜

黃州郡 苹果、銹鐵、硫酸肥料、大理石、鐵鑛、コークス、煉炭、人蔘、大豆、棉花、甜菜

鳳山郡 甜菜、棉花、石炭、栗、木炭、白菜、人蔘、蜂蜜、磁器

瑞興郡 眞鍮器、木炭、人蔘、棉花、亞鉛、磁器
遂安郡 金、繭、紙、磁土、磁器、人蔘、棉花、煙草、襪質、木炭、藥草
谷山郡 大豆、木炭、紙、煙草、繭、楮、藥草

平安南道

府郡別

特

産

物

平壤府 燒酎、靴下、清酒、麴、牛肉、牛皮、栗、支那素麵、カルシウム、陶磁器、絹布、煉炭、ハム、ゴム靴、精米、石鹼

鎮南浦府 苹果、白菜、玉筋魚、高麗燒、天日草製品、清酒、醬油、麥粉、精米

大同郡 石炭、煉炭、砂糖、牛、煉瓦、磁土、陶磁器、土管、石灰、苹果、栗、白菜

順川郡 石炭、繭、煙草、生糸、牛、絹布、苧麻、陶磁器、大理石

孟山郡 繭、煙草、苧麻、朝鮮紙、藥草

陽德郡 松材、石茸、松茸、牛、煙草、繭、麻布

成川郡 栗、金、亞鉛、繭、苧麻、明紬、生紬、煙草、牛、朝鮮紙、陶磁器

江東郡 栗、石炭、セメント、石灰、繭、煙草、砒、大理石、蜂蜜

中和郡 苹果、棉花、人蔘、牛皮、白菜

龍岡郡 鹽、石首魚、棉花、苹果、水瓜、牛皮

江西郡 棉花、栗、眞瓜、石炭、蝦、牛皮、蜂蜜

平原郡 米、栗、金、牛、牛皮、牛脂、蝦、汐吹貝
 安州郡 石炭、繭、牛皮、元羅、官紗、花頭、刺繡、杞柳細工品、黒鉛、蝦、汐吹貝
 价川郡 鐵鑛、釜、犁、黒鉛、石炭、繭
 徳川郡 繭、煙草、生糸、元羅、明紬、藥草、楓葉
 寧遠郡 繭、煙草、元羅、明紬、檀木、藥草、牛

平安北道

府郡別

新義州府 材木、燐寸軸木、楓葉エキス、木製品、靴下、豆粕、油糟
 義州郡 パルプ、柞蠶、繭、豚、蔓蔘、木炭、木材、燒酎、鑰器、煉瓦、玉蜀黍、高粱、楓葉、牛皮
 龜城郡 牛、柞蠶、金、牛皮、木炭、稗、蕎麥、大麻
 泰川郡 柞蠶、山蔘、明紬、漆、陶磁器、墨表
 雲山郡 金、銀、栗、黍、木材、柞蠶
 熙川郡 檀木、繭、明紬、麻布、牛
 寧邊郡 牛、山蔘、繭、明紬、麻布、牛皮、亞鉛
 博川郡 麻布、蔓蔘、鑰器、大豆、稗
 定州郡 栗、鑰器、瓦、木炭、石首魚、火魚、蝦、華果
 宜川郡 鞋、栗、牛皮、鑰器、瓦、石首魚、蝦、火魚、金、鷓卵

鐵山郡 燒酎、栗、火魚、石首魚、蝦、蘇魚
 龍川郡 米、石首魚、蝦、火魚、泥炭、鑰器、苜蓿莖、豚、柞蠶、燒酎
 朔州郡 金、柞蠶、燒酎、黒鉛、楓葉、大魚、明紬
 昌城郡 牛、牛皮、大麻、金、繭、柞蠶、蔓蔘、燒酎、楓葉、木材
 碧潼郡 山蔘、黒鉛、繭、玉蜀黍、栗、大豆、木材
 楚山郡 人蔘、繭、蜜蜂、牛、牛皮、鑰器、黒鉛、燒酎、苜蓿、蜂蜜、木材
 渭原郡 藥草、黍、豆、苜蓿、硯石
 江界郡 山蔘、牛、牛皮、豚、蔓蔘、麻布、燒酎、黒鉛、木炭、葛粉、蜂蜜、木製品、栗、馬鈴薯、玉蜀黍
 慈城郡 木材、人蔘、蜂蜜、鞋、青玉石製煙草入、栗、馬鈴薯、玉蜀黍
 厚昌郡 山蔘、栗、馬鈴薯、玉蜀黍、栗、金、銅、蜂蜜、木材

江原道

郡別

春川郡 木炭、薪、大豆、栗、明紬、繭、石灰、金
 麟蹄郡 松の實、繭、木器、蜂蜜、土器、大麻
 楊口郡 磁土、繭、松の實、栗、陶磁器、棉花、煙草、大麻
 淮陽郡 松の實、松茸、木器、木炭、麻、麥、大豆、煙草、麻布、蜂蜜
 通川郡 松茸、石炭、鱒、鯖、鰻、木炭、木材、陶磁器

産

物

高城郡 松の實、松茸、鮑、明太魚、鯨、鱒、山蔘、當歸、芍藥、木材、重石、素燒物
 襄陽郡 蜂蜜、繭、松茸、石茸、明太魚、鯨、鱒
 江陵郡 繭、麻布、串柿、松の實、杞柳、米、大豆、木炭、鐵、牛、鮑、鯖、鯉、蜂蜜、藥草
 三陟郡 竹細工品、鮑、海鼠、鱈、鐵
 蔚珍郡 和布、竹細工品、鱒、鱒、大豆
 旌善郡 金、銀、大麻、麻布、陶磁器、瓦、蜂蜜、煙草、木材
 平昌郡 金、銀、煙草、大豆、粟、稗、大麻、繭、陶磁器
 寧越郡 煙草、金、楮、麥
 原州郡 大豆、小豆、牛、蜂蜜、煙草、繭、明紬、紙、金
 橫城郡 大豆、粟、繭、椎茸、蜂蜜
 洪川郡 繭、金
 華川郡 粟、牛、麥、大豆、木棉、莞席、蜂蜜
 金化郡 牛、大麻、繭、米、麥、大豆、煙草
 鐵原郡 米、果物、繭、明紬、牛、松の實、木炭、金、亞鉛、蜂蜜
 平康郡 大豆、燕麥、蕎麥、松の實、金、大麻、陶磁器
 伊川郡 繭、大麻、大豆、粟、明紬

咸鏡南道

府郡別

特

産

物

元山府 明太魚、牡蠣、海蔘、清酒、燒酎、玉石細工品、牛皮
 咸興郡 石炭、梨、稗、牛、大豆、米、陶磁器、煉瓦、玉石細工品、牛皮
 定平郡 米、大豆、粟
 永興郡 明紬、燒酎、黑鉛、金、銀、牛、牛皮、牡蠣、麻布、米、大豆、繭、麻、漆、蔞蔘
 高原郡 鮭、米、大豆、繭
 文川郡 木炭、麻布、繭、大麻
 德源郡 苹果、梨、米
 安邊郡 大豆、米、繭、燒酎、蜂蜜、麻
 洪原郡 米、粟、大麻、馬鈴薯、明太魚、牛、牛皮
 北青郡 米、粟、大豆、明太魚、牛、牛皮、明紬、繭、鐵鑽、木材、木炭
 利原郡 鐵鑽、明太魚、大豆、大麻
 端川郡 牛、大豆、大麻、繭、明紬、玉石、雲母、鐵、大理石、亞鉛、木炭
 新興郡 馬鈴薯、大麻、麻布、石炭、金、牛、米、燕麥、澱粉、玉石、大理石、漆、木材
 長津郡 馬鈴薯、燕麥、罌粟、石茸、牛、麻布、木材、藥草、蜂蜜、山梨、澱粉、杞柳、大麻、毛皮
 豐山郡 燕麥、馬鈴薯、澱粉、牛、藥草、木材、ツルチツク
 三水郡 麻、黃芪、山蔘、藥草、牛、燕麥、馬鈴薯、澱粉、木材、毛皮
 甲山郡 銅鑽、燕麥、牛、馬鈴薯、澱粉、陶磁器、藥草、ツルチツク、木材

第五章 併合以後

咸鏡北道

府郡別	特産	物産
清津府	枕木、電柱材、燐寸軸木、清酒、燒酎、身缺鍊、明太魚、陶磁器	
鏡城郡	清酒、燒酎、石鹼、醬油、味噌、大豆、鯨、明太魚、鱈、和布、電柱材、牛車、木炭、硯、牛、牛皮、ッ ルチツク、石炭、高嶺土、陶磁器	
明川郡	石炭、耐火粘土、陶磁器、繭、大麻、牛、牛皮、明太魚、鮑、鱈、鱒	
吉州郡	石炭、雲母、大麻、牛、牛皮、明太魚、鱈、鱒	
城津郡	大豆、牛、牛皮、肥料、耐火粘土、黒鉛、石器、陶磁器、大麻、大理石、明太魚、鱈、鱒	
富寧郡	菜豆、木材、木炭、燒酎、明太魚、鱈、鱒	
茂山郡	木材、馬鈴薯、燕麥、澱粉、馬、燒酎、鐵鑛、ツルチツク	
會寧郡	石炭、耐火粘土、亞砒酸、砒礦、金、枕木、電柱材、木炭、陶磁器	
鍾城郡	石炭	
穩城郡	豚、石炭	
慶源郡	豚、馬、石炭、砂金、人蔘	
慶興郡	大豆、菜豆、身缺鍊、明太魚、鱈、鱒、馬、鯨油、鯨肉、燒酎、石炭、木炭	

第二節 貿易の變遷

朝鮮の貿易状態は、日韓併合以前に於ては極めて貧弱なるものであつたが、總督府設置以來、産業上各

種の保護獎勵施設を實行したると、世界大戰の影響により經濟界を刺戟したる結果、近年に至り輸移出入貿易共に急激なる膨脹を來し、併合當時と今日とを比較するときは、殆んど隔世の感があるに至つた。試みに既往の状勢を見るに、明治十九年の頃に於ては、朝鮮の開港場は釜山、仁川、元山の三箇所を數ふるのみで、その貿易額は三百十萬圓内外であつた。殊に輸出額は僅に五十六萬圓に過ぎなかつたのであるから、當時の貿易不振の一斑は略ぼ想像し得るであらう。爾來數年の間著しい貿易の變遷はなかつたが、その後明治三十年には、鎮南浦、木浦、同三十二年には群山、馬山、及び城津を開港し、同三十七年には、日露戰役に依りて、龍巖浦は事實上の開港場となり、斯くの如くして次第に對外貿易を頻繁ならしめ、更に同四十一年には、清津を開港し、貿易總額は明治三十八年に四千萬圓、同四十二年には五千三百萬圓を算したものが、大正二年には一躍して一億圓を突破し、同十二年には六億三千八百萬圓に突進して、その間に於ける異常なる貿易の發展を示したのである。日清戰役前朝鮮の貿易關係は、日本内地及び支那の兩國がその大部分を占め、この兩國の貿易勢力には著しい差異はなかつたのであるが、日清戰役の結果は、遽かに日本内地と朝鮮の貿易關係を密接ならしめ、また延いて諸外國との通商關係も緊密を加へ、米國、英國、蘭領印度、露領亞細亞、英領海峽植民地、暹羅、獨逸等との間に貿易が行はれ、殊に支那及び露西亞とは、地理的關係から内地に亞いで貿易上密接なる間柄になつて居る。試みに大正十三年に於ける貿易總

額を見るに、その輸移出入額は左の通りである。

輸	出	移	出	輸	入	移	入
二二、三七九	三〇六、六六〇	三二九、〇三九	九七、七七六	二一、八一七	三〇九、五九三	二一、八一七	九七、七七六
計			計				計

從來朝鮮に於ける貿易状況は、累年輸移入超過を繼續し、これに依る資金の流出額は、併合以來大正十四年末までに大約七億餘圓に達して居るのであるが、大正十三年に至りて、始めて輸移出超過に轉じたことは、最も注目すべき現象にして、將來果して朝鮮の貿易状態が如何に推移するかは頗る興味ある問題である。試みに併合後に於ける貿易發展の趨勢を明かにする爲め、明治四十三年の貿易額を一〇〇とした、各年の貿易指數を示すと左の如くなつて居る。

輸移出入貿易指數表 (明治四十三年を百とせる指數)

年次	輸移出			輸移入		
	輸	移	出	輸	移	入
明治四十三年	100	100	100	100	100	100
同 四十四年	113	87	95	139	134	136
大正元年	114	100	105	183	161	169
同 二年	113	165	155	226	159	180

年次	輸移出			輸移入		
	輸	移	出	輸	移	入
同 三年	152	186	173	168	154	199
同 四年	189	236	249	232	164	199
同 五年	305	279	285	152	207	187
同 六年	410	432	422	209	287	259
同 七年	374	891	774	284	463	398
同 八年	437	1300	1103	664	730	706
同 九年	498	1101	964	664	565	601
同 十年	460	1283	1096	526	617	584
同 十一年	386	1287	1081	664	632	644
同 十二年	50	1569	1334	681	661	668
同 十三年	491	1993	1652	677	836	778
同 十四年						
昭和元年						

また人口一人に對する貿易額は、明治四十三年には四圓四十九錢であつたものが、大正十二年には二十九圓四十九錢に増加して居る。それでもこれを同年度に於ける、内地の一人當貿易額八十二圓一錢、臺灣の七十七圓六十六錢と比較すると甚だしき遜色のあることが判るであらう。

人口一人當貿易額比較

朝鮮	輸移出		合計
	輸移入	輸移出	
明治四十三年	1,500	2,990	4,490
大正十二年	1,463	2,986	4,449
内地	3,635	4,566	8,201
臺灣	4,995	2,771	7,766

朝鮮に於ける輸移出は農産物が最も重要な部分を占め、礦産物及び水産物も多いが、特にその大宗たる米を始め、大豆、魚類は實に三大貿易品にして、その外、棉花、柞蠶絲、家蠶繭、鐵、石炭、牛皮、生牛、生絲、木材、肥料、金鑽、紅蔘、海藻、海苔等は、いづれも重要な輸移出品である。今左に大正十三年中の主要輸移出品價額及びその比率を示し、以て各品の貿易上に於ける地位を窺ふに便したい。

主要輸移出品價額及び比率表 (大正十三年)

品目	輸移出		品目	輸移出	
	實數	千分比		實數	千分比
米	1,644,830	50.0	牛	4,470	4.4
大豆	251,960	7.7	牛皮	3,256	3.2
綿	131,280	4.0	海苔	1,742	1.7

品目	輸移出		品目	輸移出	
	實數	千分比		實數	千分比
鮮魚	1,012,540	31.3	紅蔘	1,931	1.9
家蠶繭	733,800	23.3	海藻	1,761	1.7
生絲	722,600	22.2	鹽魚	1,682	1.6
木材	626,100	19.1	炭	1,474	1.4
肥料	605,500	18.8	小麥	1,336	1.3
砂糖	599,100	18.6	其他	40,070	1.1
乾魚	501,900	15.5	合計	3,190,300	100.0
銑鐵	453,900	14.0			

要するに朝鮮の輸移出品は食料品及び原料品が大部分を占め、製造工業の不振なることを物語つて居るが、食料及び原料の不足せる内地に對し、その供給の地位に立つ朝鮮の産業は、内地の食料問題及び原料問題解決の爲めにも、將來は益々保護獎勵を加へる必要がある。

朝鮮の産業は農業を主とし、製造工業は極めて幼稚な爲め、輸移入品は多く製造工業品に屬し、就中綿織物は大部分を占め、粟、米、柞蠶絲、木材、絹織物、石炭、機械類、砂糖、綿絲、靴、ゴム靴、肥料、車輛及び船舶、小麥粉、麻布、石油、紙、羅紗及びセルヂス、鹽、印刷料紙等の輸移入も尠くない。内に製造工業の勃興を計ることの必要にして、成るべく朝鮮産品の使用を獎勵すべきは言を俟たないが、官業

民業共に新設擴張すべき事業の多い朝鮮としては、將來各種原料品及び機械類等を大に輸入し、これを利用消化せねば、到底産業の振興を期待することは出来ない。

主要輸入品價額及び比率表 (大正十三年)

品目	輸入		品目	輸入	
	實數	千分比		實數	千分比
生金巾及生シーチング	二〇、四八六	六六	肌衣	二、四四〇	九
粟	一九、六七九	六四	鹽	二、五四九	八
米	一三、〇三九	三九	印刷料	二、五四一	八
柞蠶絲	一一、四九三	三七	葉煙草	二、四六七	八
木材	九、九四三	三一	白木	二、二二七	七
絹織物	八、七七一	二八	鐵電鍍板	二、〇六三	七
石炭	八、〇五六	二六	打磁器	一、九四八	六
ジーンズ綾金巾及雲齋布	八、〇一一	二六	陶磁器	一、八三九	六
機械類	七、三九九	二四	鐵條竿及板	一、七八五	六
砂糖	六、七九六	二三	麥酒	一、六八五	六
晒金巾及晒シーチング	六、五五一	二二	清酒	一、六四五	五
綿織絲	六、五〇六	二二	セメント	一、六二三	五

朝鮮の貿易は、今や世界の各方面を相手として居るが、内地との關係が最も密接を極め、試みに大正十三年の貨物貿易額を見るに、輸出貿易の九割三分、及び輸入貿易の六割八分は實に内地對朝鮮の貿易である。今その割合を比較すると左の如くなつて居る。

種別	輸移出入貿易割合 (大正十三年)		種別	輸移出入貿易割合 (大正十三年)	
	實數	百分比		實數	百分比
外國へ輸出	二二、三七九	七	外國より輸入	九九、七七六	三二
計	三〇、一五八	一〇〇	計	一二、一五五	一〇〇

朝鮮の物産

二二四

内地へ移出 三〇六、六六〇 内地より移入 二二一、八一七 六八

支那及び露領亞細亞は朝鮮と地理上密接の關係を有し、その貿易額も支那は内地に亞ぎ、露領亞細亞も亦重要な地位に在るばかりでなく、朝鮮銀行、東洋殖産株式會社が、その勢力を此等の地域に及ぼすに至つてから、經濟關係も亦従つて一層濃厚となつたので、此等の地方に於ける習俗、好尚、交通關係、取引慣例、市場狀況等を調査するため、總督府職員を派遣し、又は囑託員を置きなどして、各般の調査研究を行つて來たが、今や日露の國交も恢復し、一面我が國內の情勢は、極力輸出貿易に力を致さねばならぬ秋に際會してゐるから、全力を傾注してこれが進展に貢獻せねばならぬ。對内地貿易を除いた國別外國貿易額、及びその比率を示すと左の通りである。

國別外國貿易千分比率 (大正十三年)

國別	輸出	輸入	合計
支那	九五七	七四七	七六六
香港	一八	二	五
英領印度	一	五	四
海峽植民地	六	一	一
露領印度	二	四四	三六

國別	輸出	輸入	合計
露領亞細亞	一〇	一〇	二〇
英吉利	一	五	六
白耳義	一	一	二
獨逸	一	七	八
瑞西	一	一	二
北米合衆國	六	一七	二三
加奈陀	二	二	四
濠洲	四	四	八
其他諸國	五	五	一〇
合計	一、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇

朝鮮に於ける開港場は、仁川、釜山、元山、鎮南浦、群山、木浦、清津、雄基、城津、新義州、龍巖浦の十一港であるが、京城、大邱、平壤には税關支署を置き、開港場より保税運送に依る貨物の輸移出入を取扱ひ、その他陸接國境地方に於て指定せる五十八箇所の交通地點に、税關支署又は出張所を設置し、更に大正十二年四月對内地移入税の大部分撤廢さるゝと共に、一部移入税殘存の貨物その他の爲めに、十一箇所の指定港を設け税關出張所を置いたのである。以上の諸港中、釜山港は貿易額第一位を占め、仁川港これに亞ぎ、この兩港は實に朝鮮の二大關門にして、釜山港は内地朝鮮間貿易の樞要となり、仁川港は支

那、その他歐米諸外國貿易の中心となつて居る。この外、輸移出に在りては、群山、新義州、鎮南浦、木浦、清津等、輸入に在りては、新義州、京城、元山、清津、鎮南浦等が有力なる地位を占めて居る。

即ち大正十三年に於ける港別貿易額は、釜山の二億一千三百九十六萬一千圓を筆頭とし、仁川の一億二千六百二十四萬七千圓これに亞ぎ、群山の四千八百六十八萬八千圓、新義州の四千八百三萬三千圓、鎮南浦の四千八百四十二萬四千圓等の順序であるが、更に各開港場貿易額比率を示すと左の如くなつて居る。

港別貿易千分比率 (大正十三年)

港別	輸出入		移出入		輸移出		計
	輸出	輸入	移出	移入	移出	移入	
仁川	二〇八	一九二	一八二	二三四	一八三	二二三	一九八
釜山	四九	七五	三八二	四八	三五九	三〇	三三五
元山	二七	三五	二四	四三	二四	四〇	三一
鎮南浦	二二	四五	九四	三三	九〇	三七	六四
京城	三三	八六	一	五七	四	六六	三四
群山	二	三	二七	五五	一〇九	四二	六六
木浦	一	三三	六	三五	六二	二八	四六
大邱	三	一六	一	一七	一	一七	八

港別	輸出入		移出入		輸移出		計
	輸出	輸入	移出	移入	移出	移入	
馬山及鎮海	一	二	一八	一七	一七	二二	一五
清津	一六	一八	二六	四四	二七	三六	三一
會寧	四二	五	一	一	三	二	二
雄基	二二	一	七	四	八	三	五
城津	一	一	九	二	八	八	八
新義州	三四三	三七五	八	五	三	一一三	七五
龍巖	三	三一	九	一	八	一〇	九
平壤	二四	五八	一	二四	九	三五	二二
其他	二二	三七	五六	一三	五八	二〇	三九
合計	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

朝鮮の開港場に於ける貿易船舶の入港は、世界大戦中は船腹の不足の爲め幾分減退を示したが、休戦後は漸次回復し、貿易の躍進に伴ひその隻數及び噸數も亦増加して居る。貿易の關係上、入港船舶の大部分は日本船にして、内地朝鮮間の貿易に従事し、外國船は極めて少く、その大部分は支那ジャンクである。各港別に就いて貿易船舶の入港を汽船、帆船、ジャンクに分つとその隻數は即ち左表の通りである。

船舶入港別表 (大正十三年)

朝鮮の物産

港別	汽船	帆船	汽船	帆船	内地間貿易船	
					汽船	帆船
仁川	192	2	351	560	1796	3
釜山	70	1	4	2280	1796	3
元山	33	1	2	295	4	1
鎮南浦	130	2	765	291	1	1
群山	33	1	145	433	8	1
木浦	22	1	3	42	25	1
馬山及鎮海	1	1	3	87	350	1
清津	8	1	166	291	29	1
雄基	32	1	45	151	1	1
新城津	20	1	98	309	1	1
新義州	1	1	554	3	1	1
龍巖	10	7	1399	73	1	1
其他	1	1	1	1451	273	1
合計	661	1573	8461	665	4950	4

これを要するに、朝鮮の貿易状態は未だ幼稚の域を脱する能はず、その貿易総額に於ても人口一人當貿易額に於ても、内地及び臺灣に對しては到底比較にならぬ程遜色がある。この貿易不振は歸する所、殖産

興業の發達せず、國民の消費力の旺盛ならざる結果であるから、極力産業を振興して、民衆の經濟力を涵養するに努むることが必要であるが、就中朝鮮の特産品たる米、大麥、粟、大豆、小麥、魚類、海藻、海苔、生牛、牛皮、棉花、人蔘、麻、果實、蔬菜、家蠶繭、柞蠶繭、生絲、葉煙草、金及び砂金、汰鑛、鐵鑛、石炭、製材、木炭、酒類、織物、朝鮮紙等、氣候、風土、地質等の關係上、將來生産額増加の餘地大なるもの、増殖改良を計ることは、輸移出貿易の發展と民福の増進上最も効果あること、信ずる。個々の貿易品に就いては、後章に於て詳しく説明するから、茲には貿易總額、國別貿易額、港別貿易額の趨勢を表出するに止めて置く。

貿易價額表 (單位千圓)

種別	年次															
	明治四十年	同四十年	大正元年	同二年	同三年	同四年	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年
總額	7,698	6,101	10,100	10,620	10,620	12,328	16,633	23,349	20,833	23,349	23,349	23,349	23,349	23,349	23,349	23,349
輸出	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300
輸入	6,398	4,801	8,800	9,320	9,320	11,028	15,333	22,049	19,543	22,049	22,049	22,049	22,049	22,049	22,049	22,049
移入	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300
移出	5,098	3,501	7,500	8,020	8,020	9,728	14,033	20,749	18,243	20,749	20,749	20,749	20,749	20,749	20,749	20,749
輸入超過	5,098	2,201	6,200	6,720	6,720	8,428	12,733	19,449	17,443	19,449	19,449	19,449	19,449	19,449	19,449	19,449
輸出超過	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300

第五章 併合以後

朝鮮の物産

年次	獨逸		白耳義		其他		合計	
	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出
大正二年	1,311	1,264	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
同三年	1,311	1,264	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
同四年	1,311	1,264	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
同五年	1,311	1,264	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
同六年	1,311	1,264	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
同七年	1,311	1,264	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
同八年	1,311	1,264	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
同九年	1,311	1,264	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
同十年	1,311	1,264	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
同十一年	1,311	1,264	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
同十二年	1,311	1,264	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
同十三年	1,311	1,264	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
同十四年	1,311	1,264	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

備考 一、合計が内容と符合せざるは千圓未満切捨の關係に依る。

陸接國境貿易價額表 (單位千圓)

年次	豆		鴨		輸出合計	
	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出
大正二年	281	535	74	111	356	646
同三年	281	535	74	111	356	646
同四年	281	535	74	111	356	646
同五年	281	535	74	111	356	646
同六年	281	535	74	111	356	646
同七年	281	535	74	111	356	646
同八年	281	535	74	111	356	646
同九年	281	535	74	111	356	646

輸入

年次	豆		鴨		輸出合計	
	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出
大正二年	303	244	263	228	467	833
同三年	303	244	263	228	467	833
同四年	303	244	263	228	467	833
同五年	303	244	263	228	467	833
同六年	303	244	263	228	467	833
同七年	303	244	263	228	467	833
同八年	303	244	263	228	467	833
同九年	303	244	263	228	467	833
同十年	303	244	263	228	467	833
同十一年	303	244	263	228	467	833
同十二年	303	244	263	228	467	833
同十三年	303	244	263	228	467	833
同十四年	303	244	263	228	467	833

備考 一、大正九年迄の貿易價額中には本表の陸接國境貿易價額を含まざるを以て作表掲記せり、大正十年以降は此額を算入し

たれば之を掲げず。

二、合計が内容と符合せざるは千圓未満切捨の關係による。

三、大正二年以前の統計を缺く。

港別貿易價額表 (單位千圓)

港別	輸出入		輸移入		輸移出		合計	
	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出	輸入	輸出
仁川	1,311	1,264	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
釜山	1,311	1,264	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
元山	1,311	1,264	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
合計	1,311	1,264	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000

第五章 併合以後

朝鮮の物産

埠	埠		埠		埠		埠		埠		埠		埠		埠		埠	
	計	輸移入	輸移出	計	輸移入	輸移出	計	輸移入	輸移出	計	輸移入	輸移出	計	輸移入	輸移出	計	輸移入	輸移出
雄基	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0
清津	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0
鎮馬山	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0
大邱	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0
木浦	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0
蔚山	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0
京城	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0
鎮南浦	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0
合計	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0

埠	埠		埠		埠		埠		埠		埠		埠		埠		埠	
	計	輸移入	輸移出	計	輸移入	輸移出	計	輸移入	輸移出	計	輸移入	輸移出	計	輸移入	輸移出	計	輸移入	輸移出
雄基	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0
清津	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0
鎮馬山	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0
大邱	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0
木浦	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0
蔚山	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0
京城	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0
鎮南浦	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0
合計	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0	1,111	1,111	0

朝鮮に於ける貿易の大勢は略ぼ叙述したから、輸移入貿易品中の大宗たる織物と、輸移出貿易品中の首位を占むる米に就き、その貿易上の地位を一言して見たい。明治四十三年の輸移入総額は三千九百七十八萬二千圓にして、織物の輸移入額は一千七百七十一萬七千圓に達し、實に二割九分五厘を占めて居た。それが大正十四年に於ては、織物の輸移入総額は三億四千一萬一千圓に増加し、織物の輸移入額も亦六千四百

七十八萬五千圓に増加して來たが、總輸入額に對する割合は一割九分一厘に減少して居る。これに依つて見るも、朝鮮に於ける織物工業の發展の餘地は頗る大なるものが判るであらうが、殊に棉花、苧麻、繭等の原料の生産多く、且つ織物工業の經營に必要なる、女子の勞力の豊富にして、勞銀の低廉なる上に、水力電氣及び石炭燃料等の利用すべき動力も尠らざる等、斯業の經營には最も好都合である。

輸入貿易中の織物の地位

年次	輸入總額	織物の輸入額	百分比
明治四十三年	三九,七八二	一一,七二七	二九・五%
同 四十四年	五四,〇八七	一四,六六一	二七・一
大正元年	六七,一五五	一八,八四八	二八・一
同 二年	七一,五八〇	一七,三五三	二四・二
同 三年	六三,三三二	一四,七二九	二三・三
同 四年	五九,一九九	一四,五八二	二四・六
同 五年	七四,四五六	一九,二七八	二五・九
同 六年	一〇二,三八六	二五,六七三	二五・一
同 七年	一五八,三〇九	三四,七二〇	二二・九
同 八年	二八〇,七八六	七八,六八二	二八・〇
同 九年	二四九,二八六	五二,三〇六	二一・〇

輸入織物種類別價額累年比較

年次	綿布	麻布	絹布	毛織布	合計
同 十一年	二二,三三一	六四,一九〇	五九,三一一	一七,三五三	二七・六
同 十二年	二五,六〇四	五九,三一一	五二,七六一	一四,七二九	二二・一
同 十三年	二六,五七〇	五二,七六一	六四,一八四	一九,二七八	一九・九
同 十四年	三〇,九五九	六四,一八四	六四,七八五	一九,二七八	二〇・七
同 十五年	三三,〇〇一	六四,七八五	—	—	一九・一
昭和元年	—	—	—	—	—
同 二年	—	—	—	—	—
同 三年	—	—	—	—	—
同 四年	—	—	—	—	—
同 五年	—	—	—	—	—
同 六年	—	—	—	—	—
同 七年	—	—	—	—	—
同 八年	—	—	—	—	—
同 九年	—	—	—	—	—
同 十年	—	—	—	—	—
大正元年	一四,九二九	一五,一八〇	一三,八三三	一〇,一八四	一八,八四八
同 二年	一三,七二一	一三,九六五	一三,三六〇	一〇,五二一	一七,三五三
同 三年	一一,三九七	一六,一七三	九,六四五	七八八	一四,七二九
同 四年	一一,八五八	一五,一〇三	九,七三二	五七五	一四,五八二
同 五年	一五,八三三	一六,六二五	一一,〇七五	五七五	一九,二七八
同 六年	二一,九〇三	二二,九九一	八,四一三	六二二	二五,六七三
同 七年	三一,一七三	二五,七八〇	三,六〇七	六四八	三四,七二〇
同 八年	六九,四三六	七〇,七九九	一〇,一七八	一一,四八八	七八,六八二

朝鮮の物産

二三八

同	九	年	三三、一七七七七	八一〇、四一八	九〇四九三三六	一、八九九二五七	五二、三〇六、六三〇
同	十	年	四七、四三九四六一	五、六二五、一九七	九、六五九、八八〇	一、四六五、七七八	六四、一九〇、三三六
同	十	一年	三七、八四九三、四八	九〇、三五、八六六	九、九三九、一〇六	二、四八六、六六六	五九、三二一、〇〇六
同	十二	年	三五、八一六、三三九	五、四二五、二九八	七、七四二、二九一	三、七七八、三四七	五二、七六二、二七五
同	十三	年	四四、八七四、八九四	五、二四四、二九六	八、七七一、九七四	五、二九二、八三六	六四、一八四、〇〇〇
同	十四	年	四六、八三二、五九四	五、〇六一、七〇八	八、〇三八、二二六	四、八五四、二二三	六四、七五五、七五三
昭和	十五	年					

また朝鮮の輸移出品中、米は實にその過半を占むるもので、明治四十三年の輸移出総額は一千九百九十一萬三千圓にして、その中、米の輸移出額は六百二十七萬七千圓に達し、實に三割一分五厘の多きを占めて居たが、その後米産額の増加に伴ひ米の輸移出額は益々増加し、大正十四年に於ては輸移出総額三億四千一百六十三萬圓に對し、米の輸移出額は實に一億七千三百十六萬三千圓の巨額を占め、その割合は五割七厘に達するに至つたのである。今や内地に於ては急激なる人口増加に對して米の生産額これに伴はず、朝鮮米の供給に依りて辛うじて食糧問題の解決を計らんとして居るの現狀に在る。一方朝鮮に於ける産米増殖計畫は既に着々として進捗して居るから、今後朝鮮米の内地移出額は相當に増加するであらうが、遠き將來を達観するときは、帝國の食糧問題には頗る寒心すべきものあり、根本政策を確立するは實に焦眉

の急務である。

輸移出貿易中の米の地位

年次	輸移出總額 千円	米の輸移出額 千円	百分比
明治四十三年	一九、九一三	六、二七七	三二・五%
同 四十四年	一八、八五六	五、二八三	二八・〇
大正元年	二〇、九八五	七、五四	三五・九
同 二年	三〇、八七八	一四、四九三	四六・九
同 三年	三四、三八八	一七、〇九八	四九・七
同 四年	四九、四九二	二四、五一六	四九・五
同 五年	五六、八〇一	一九、三五六	三四・一
同 六年	八三、七七五	二七、四一六	三二・七
同 七年	一五四、一八九	六一、五四一	三九・九
同 八年	二一九、六六五	一〇〇、三〇	五〇・一
同 九年	一九七、〇二〇	七七、四五九	三九・三
同 十年	二二八、二七七	九二、八二二	四〇・五
同 十一年	二二五、四〇四	九五、八〇五	四四・五
同 十二年	二六一、六六五	一一三、九〇三	四三・五

第五章 併合以後

二三九

朝鮮の物産

同	十三年	三九〇三九	一六四八五	五〇〇
同	十四年	三四一六三〇	一七二六三	五〇七
昭和	十五年			

二四〇

第三節 市場の取引

由來朝鮮に於ける市場は數千年來、物々交換の原始的取引時代より今に至るまで繼續し、その變遷は經濟上並に社會上極めて興味あるものである。市場が文獻に現はれたのは、三國史記、新羅炤知王十二年の條に「初開京師市、以通四方貨」とあるを初めとするが、當時新羅の國都たる慶州のみならず、各地方に市場の存在したことは云ふ迄もない。茲に市場の沿革を説くのが目的でないからこれを省略するが、朝鮮に於ける商業取引上、現に市場は最も重要な部分を占め、殊に常設店舗營業の發達せざる都會地以外に在りては、日用必需品の賣買は殆んど市場に於て行はれ、市場は個人生活上及び國民經濟上甚だ大切な機能を有して居る。大正十二年の市場統計に據ると、第一號市場（場屋を設け又は設けざるも區劃したる地域に於て毎日又は定期に多數の需要者又は供給者來集し貨物の賣買交換を行ふ場所）一千二百三十三、この一箇年の賣買取引高一億九百九十八萬一千圓、第二號市場（十人以上の營業者一場屋に於て主とし穀物食料品の販賣を行ふ場所）七、賣買取引高百二萬六千圓、第三號市場（委託を受け競賣の方法に依り貨

物の販賣を行ふ場所）三十四、賣買取引高八百四十六萬三千圓、第四號市場（毎日又は定期に營業者集會し見本又は銘柄に依り物品又は有價證券の賣買取引を行ふ場所）九、賣買取引高六億一千九十七萬八千圓となつて居る。

而して一號市場と云ふのは在來の朝鮮市場にして、その市日は多く五日毎に月六回開かれ、中には市街地のもので毎日開市さるゝものもある。二號市場は近年物價暴騰に依る生活難の緩和を目的として、都會地に府又は面の公營を以て設立されたものである。三號市場は糶賣の方法に依る、水産物及び蔬菜果實の卸市場である。四號市場は穀物及び有價證券の現物取引市場で、市場規則に依り監督を受けて居るが、その性質が取引所類似のものであるから、これは普通の市場と全然區別すべきものである。四號市場を除いた朝鮮に於ける大正十二年の市場總數は一千二百七十四となつて居るが、その取引高は一億一千九百四十七萬一千圓に達し、これを内譯すると、農産物三千二百六十九萬七千圓、水産物一千八百三十萬二千圓、織物一千八百六十九萬三千圓、畜類二千九百三萬三千圓、其他二千七十四萬三千圓となつて居る。農産物及び畜類の取引高の最も多きことは、その産業状態が尙ほ幼稚にして農業を主とし、國民の生活程度も概して低いことを示して居るものであると見てよからう。今試みに併合以來の普通市場の賣買高を見ると左の如くなつて居る。

市場統計累年對照表

年次	市場數	賣					買		合計
		農産物	水産物	織物	畜類	其他	合計		
明治四十三年	九八〇	三、五三、二九三	四、三二、九〇〇	一〇、〇五、六九六	一三、五九、七三三	八、九六、二八〇	五〇、四三、七六〇		
同 四十四年	一、〇八四	二、四八、八六二	五、一六〇、一八〇	一三、一〇三、二六〇	一三、七五一、九三八	一〇、二五一、三六四	五八、一八二、六四四		
大正元年	一、二二五	二、六三、三三〇	七、一九、三三八	一三、五五、七九六	三三、〇二二、六八四	一三、三七八、九六八	九三、三六〇、一三六		
同 二年	一、四四三	三、四四、五三三	四、八五三、〇三六	七、三九八、九三二	一〇、〇八八、七三二	八、八〇四、二二五	五二、五〇〇、四六六		
同 三年	一、四四三	一、四三、八七三	五、九二二、六六一	六、〇二六、八九〇	九、五五四、三三三	六、九九九、二五九	四三、四四六、一七〇		
同 四年	一、二二一	一、五、一六四、七三三	五、六二五、五四四	五、九三三、四三六	九、七七七、七五〇	七、〇六四、〇七六	四三、五五五、五三九		
同 五年	一、三三〇	一、六、四六二、七三四	六、五三七、六七〇	六、四四八、三三三	一三、七三五、五三九	七、六三四、七三五	五〇、七八八、八九〇		
同 六年	一、三三三	三、〇〇三、九五七	七、〇六〇、四七五	七、五三四、二三四	一六、八六三、五六四	八、九六二、四〇八	六二、四五一、六三六		
同 七年	一、三三六	四、五七四、二〇三	九、八七三、二六六	一三、〇三六、七四六	二六、六九九、二九一	一三、〇六〇、〇三九	一〇八、一〇九、四八五		
同 八年	一、三三三	六、五、一六〇、九七五	一三、五五三、〇三三	二二、五五三、二三三	三六、九九八、八〇四	一九、三六六、三五八	一五六、九五五、七一一		
同 九年	一、三四四	二、三三、九六六、六三三	一三、九三三、二八一	一八、五四三、〇〇七	二九、八三三、一七〇	一七、二五九、三三六	一〇三、五五、四九九		
同 十年	一、三三三	二、六、〇三六、二四七	一五、一八七、七七一	一八、六二五、八〇一	三三、六四四、一五七	一八、七三三、八九三	一一、三九九、八六九		
同 十一年	一、三三七	二、四、七三三、三三八	一六、二九一、四六六	一八、〇四九、二〇七	三三、九六三、〇〇一	一七、二二五、九九九	一〇八、四〇、五八一		
同 十二年	一、二七四	九、九、六〇九	三、六九七、八三三	一八、三三三、六六五	一八、六九三、九五二	二九、〇三三、三三三	二〇、七四三、〇五二		

同 十三年 一、四〇一 一〇、一、七〇六 三、一、五八、九四五 一八、三三三、九四一 二二、〇六六、一三四 七、三三七、五〇八 二四、九四四、七三三 一四、七九一、〇〇一

同 十四年

同 十五年

昭和元年

備考 一、本表には市場規則第一條第四號市場を除いてある。
 二、賣買高とあるも大正元年迄は集散高である。

市場の分布は一郡四五箇所より十箇所内外に及ぶものあり、市場の大小並に季節に依りて商人及び購買者數は一定しないが、數百人より數千人の多きに達し、秋の收穫後は市場の最も繁昌する時で、春より夏に掛けては一般に取引閑散の時である。市場の利用範圍は大抵附近三四里より七八里に及び、出場商人は附近の者及び近郷の生産者が多く、この外に市場巡回の行商者も出店する。一市日の賣上高は市場に依りて異なるが、大正十二年末現在の調査では、年額二十萬圓以上の取引ある市場は全鮮に於て百四十五箇所が多きに達し、その取引歩合は全部の市場取引に對し六六・〇パーセントを占めて居る。更に年額五十萬圓以上の取引ある大市場の分布を見るに、京城南大門、京城東大門、京城魚市場、清州、江景、馬山面新場禮山、天安、全州、大邱西門市、金泉、釜山鎮牛市、釜山魚市、釜山富平町市、統營、統營魚市、河東面邑内、居昌面邑内、信川面邑内、沙里院、平壤司倉市、中和面邑内、安州面鹽慶市、藝明、龍岡舊邑市、齊山、方峴面南市、博川面邑内、宣川面邑内、江陵邑内、橫城面邑内、鐵原面邑内、咸興、永興、鎮興、

惠山鎮、花臺、吉州邑諸市の三十八箇所に及んで居る。試みに最近に於ける市場一箇所當りの面積、人口及び取引高を見ると左表の如くなつて居る。

市場一箇所當の面積、人口及び市場取引高 (大正十三年中)

道名	市場數	實 數			市場一箇所當		
		總面積	總人口	市場取引總額	面積	人口	市場取引額
京畿道	107	830.8	1,877,065	14,837,391	7.75	17,543	138,667
忠清北道	54	481.0	781,335	3,783,654	8.97	14,469	70,068
忠清南道	91	535.6	1,173,518	10,838,881	5.77	12,896	119,109
全羅北道	62	553.1	1,276,972	4,769,837	8.92	20,596	76,933
全羅南道	118	900.4	2,104,734	6,290,555	7.63	17,159	53,310
慶尙北道	165	1,132.2	2,169,902	13,880,545	7.46	13,151	84,125
慶尙南道	147	797.8	1,856,847	13,802,008	5.42	12,633	93,891
黄海道	126	1,084.8	1,344,769	10,531,963	9.35	11,593	90,793
平安南道	129	967.7	1,170,797	15,609,433	7.50	9,076	111,003
平安北道	71	1,844.2	1,309,736	14,611,124	25.97	18,447	205,931
江原道	107	1,701.8	1,110,451	7,033,235	15.92	11,406	65,638
咸鏡南道	85	2,073.4	1,271,113	13,845,591	24.39	14,954	162,889

道名	市場數	總面積	總人口	市場取引總額	面積	人口	市場取引額
咸鏡北道	49	1,392.2	590,887	4,956,995	26.92	12,059	101,163
合計	1,101	14,311.0	18,068,126	134,791,101	11.00	13,888	103,606
1 南 鮮	851	7,033.7	11,380,844	75,336,106	8.25	14,549	88,397
北 鮮	450	7,289.3	5,687,301	59,565,095	16.19	12,639	133,367
表朝鮮	748	7,187.6	1,098,996	8,128,287	9.60	14,651	105,084
裏朝鮮	553	7,241.4	7,109,100	53,508,374	12.88	12,856	96,760
2 南 部	637	4,489.1	9,283,298	53,365,480	7.47	14,585	83,776
中 部	330	3,684.4	4,442,285	33,392,589	10.96	13,462	98,159
西 部	200	2,811.9	2,480,533	30,130,546	14.06	12,402	151,153
北 部	114	3,392.6	1,862,000	18,802,586	25.31	13,896	140,328

備考 1 號南鮮へは京畿、忠南北、全南北、慶南北、江原の八道を含め、北鮮へは黄海、平南北、咸南北の五道を含む。
 2 號表朝鮮へは平南北、黄海、京畿、忠南北、全南北の八道を含め、裏朝鮮へは咸南北、江原、慶南北の五道を含む。
 3 號南部へは忠南北、全南北、慶南北の六道、中部へは京畿、江原、黄海の三道、西部へは平南北の二道、北部へは咸南北の二道を含む。

市場の分布及び取引高は人口數及び經濟力に比例すべき性質のものであるが、大體に於て經濟力の發達せる南鮮地方の方が、西北鮮地方よりも、市場の分布は濃密である。これに反して、常設店舗取引の進歩せる南鮮地方よりは、その發達の幼稚なる西北鮮地方に、却つて巨額の取引高を有する大市場が多いこと

を看取し得るであらう。是れ即ち邊陲の地方に於ては、取引機關として市場利用の極めて大なることを示すものである。

市場取引が一般經濟界の影響を受けて一進一退することは云ふ迄もないが、特に生産額の多寡と消長を共にし、貿易の盛衰と運命を同うし、更に景氣不景氣を卜すべき通貨流通高の多少と歩調を等しくして居る傾向あるは、左の統計に依りて略ぼ察知し得るであらう。

一人當り市場取引額、生産物價額、貿易額、通貨流通見込額累年比較

年次別	生産物價額	貿易額		通貨流通見込額	市場取引額
		輸移入額	輸移出額		
明治四十三年	二〇〇六〇	二九八八	一四九六	二二四六	三七八九
同 四十四年	二八・九二二	三八四八	一・三四二	二・五二九	三・九九七
大正元年	三三・三二九	四五二七	一四二五	二・四〇六	六・二九八
同 二年	三七七六四	四六三〇	一九九七	二・二二九	三・三九七
同 三年	三三・八五六	三・九六九	二・二五九	一・八八二	二・七二五
同 四年	三三・三五六	三・六三七	三・〇四〇	二・六一五	二・六七六
同 五年	三九・三二七	四四七二	三四二二	三・二八二	三・〇五一
同 六年	五一七七	六〇六三	四九七	四・一〇三	三・六八〇

同 七年	八五・五〇〇	九・二八一	九・四〇〇	六・一〇二	六・三三八
同 八年	一〇一・七〇四	一六・三七二	一一・八〇九	七・八五四	九・一三
同 九年	一〇三・〇六三	一三・八二二	一一・一〇三	五・七三一	五・九八五
同 十年	八四・二〇四	一三・三五五	一二・五〇六	六・三三八	六・三三四
同 十一年	九一・〇五三	一四・五二六	一二・三二〇	四・六〇〇	六・一三五
同 十二年	八五四〇一	一四・八六〇	一四・六三〇	五・〇七八	六・六八〇
同 十三年	九六・五八	一七・三五	一八・二一一	五・三六六	七・四六〇
同 十四年					
昭和十五年					

市場取引高が、生産額、貿易額、通貨流通額と極めて密接なる關係あることは前述した通りであるが、朝鮮に於ては、總人口に對する農民の割合約八割を占め、また總生産額に對し農産物の割合約七割四分に達して居る。斯くの如き特殊の地域に在りては、一般經濟事情よりも、寧ろ農産額の豊凶の方が、市場取引高の盛衰に直接影響を及ぼすことが大であると信ずる。而してその傾向は、左の統計に依りて略ぼ誤りにあらざることが説明し得らるゝと思ふ。

一人當り市場取引額、及び農産物價額累年比較

朝鮮の物産

年次別	總數		一人當り	
	市場取引額 千円	農産物價額 千円	市場取引額 円	農産物價額 円
明治四十三年	五〇,四四二	二四,一七二	三七八九	一八,二五七
同 四十四年	五六,一八二	三五,五二三	三九九七	二五,二七六
大正元年	九三,三九〇	四三,五二六	六二九八	二九,三四六
同 二年	五二,五二〇	五〇,八一九	三三九七	三三,八七六
同 三年	四三,四二六	四五,八九七	二七二五	二八,八〇九
同 四年	四三,五六六	四三,七六九	二六七六	二六,三四〇
同 五年	五〇,七八八	五二,〇二八	三〇五一	三二,二四九
同 六年	六二,四五二	七〇,一九三	三六八〇	四一,四三三
同 七年	一〇八,一〇九	一一〇,三九七	六三三八	六四,七三三
同 八年	一五六,二九五	一三九,九二九	九一三三	八二,〇〇四
同 九年	一〇三,五二五	一四三,七二四	五九八五	八七,五五三
同 十年	一一二,三三九	一〇九,七三六	六三七四	六二,八七五
同 十一年	一〇八,一四〇	一一八,四九三	六二三五	六七,三三九
同 十二年	一一九,四七一	一一六,八七三	六六八〇	六五,三四五
同 十三年	一三四,七七一	一二八,五三九	七四六〇	七一,四二二
同 十四年				

昭和十五年

第四節 消費の大勢

生産、消費、及び取引の趨勢を究めんとせば、その對象たり要素たる、人口の状態を詳かにせねばならぬ。茲には遠き過去の朝鮮の人口に就いて説明するの違がないが、先づ併合後の人口に關し概説して見やう。日韓併合以來、諸般の施設改善の結果、文化の普及、經濟の發達、衛生の改善に伴ひて、近來朝鮮に於ける人口の増加は著しきものあり、現住戸口調査に依れば、併合當時の明治四十三年末には内地人五十九萬九千二百七十四戸、朝鮮人二百七十四萬九千九百五十六戸、一千三百三十二萬八千七百八十八人、外國人三千百五十五戸、一萬二千六百九十四人、總戸數二百八十萬四千三百三戸、人口總數一千三百三十一萬三千七十七人であつたものが、大正十三年末に於ては、内地人十一萬一千九百十九戸、四十一萬一千五百九十五人、朝鮮人三百三十萬九千四百五十一戸、一千七百六十一萬九千五百四十八人、外國人一萬一千七百十戸、三萬六千九百八十一人、總戸數三百四十三萬三千八十戸、人口總數一千八百六萬八千八百十六人となつて居る。今試みに各道別の人口數を見ると左表の通りである。

各道別人口總數表 (大正十三年末)

朝鮮の物産

二五〇

道別	内地人	朝鮮人	外国人	合計
京畿道	104,000	176,524	783	1,637,065
忠清北道	7,529	77,009	787	781,335
忠清南道	18,704	152,530	2,284	1,173,518
全羅北道	25,307	125,064	1,601	1,276,972
全羅南道	33,120	199,256	1,058	2,024,734
慶尙北道	39,996	222,843	1,476	2,269,902
慶尙南道	73,110	178,233	1,434	1,856,847
黄海道	14,369	132,846	1,984	1,344,769
平安南道	34,632	113,345	2,761	1,170,797
平安北道	14,902	128,440	9,394	1,309,736
江原道	8,338	121,122	1,011	1,110,451
咸鏡南道	18,854	129,983	2,496	1,271,133
咸鏡北道	20,745	56,728	2,924	590,887
合計	421,595	1,761,954	36,981	1,806,826

右の統計の示す如く、戸口数の最も多いのは慶尙北道の四十萬四千八百四十戸、二百十六萬九千九百二人、その最も少いのは咸鏡北道の九萬八千八百九十五戸、五十九萬八千八百八十七人である。第二回國勢調査

の結果に依ると、大正十四年十月一日現在の一方里平均人口密度は、内地二千四百十七人、朝鮮一千三百六十四人、臺灣一千七百十三人にして、朝鮮は内地及び臺灣に比して著しく人口密度が低いのである。また朝鮮内にありても、人口密度は、概して平野の多い經濟狀態の發達した南鮮地方が高く、山地帯の多い産業の開發が遅れて居る西北鮮地方は人口密度が低くなつて居る。即ち朝鮮の人口密度は現在に於ては、内地及び臺灣に比して遙かに低いのであるが、その人口收容力から云ふと、内地に較べて、地勢上山地帯の面積が多くして耕作に適する部分が割合に少く、氣候も寒暑の差が甚だしく且つ冬期酷寒の地方が多い上に、地質及び地味に於ても遙かに劣つて居る關係上、内地と同程度に人口を收容することは困難である。然るに既に今日に於ても朝鮮の人口は、年々約十三四萬づつ増加して居るから、將來大に産業の開發を計らぬと、遠からずして朝鮮自體が内地と同様に、人口問題及び食糧問題の解決に苦む時代が來る虞れがある。(善生永助著「朝鮮の人口研究」参照) 由來朝鮮は農業國にして、國民の大多數は農業に従事して居る者である。大正十三年末の現住人口に就いて、内鮮外人の職業別人口數を見ると左表の如くなつて居るが、總人口に對する各職業の割合は、農林牧畜業八二・四%、漁業及製鹽業一・三%、工業二・五%、商業及交通業六・七%、公務及自由業二・七%、其他の有業者三・〇%、無職及職業を申告せざる者一・四%である。而してこれを内鮮外人別に就いて見るに、内地人は、商業及交通業の三二・九%が最も多く、公務及自由業の三

一・七%これに亞ぎ、工業一五・六%、農林牧畜業九・〇%、漁業及製鹽業二・九%、其他の有業者五・四%、無職及職業を申告せざる者二・五%となつて居る。朝鮮人は、農林牧畜業八四・二%の大多數を占め、その他のものは極めて少く、商業及交通業五・九%、工業二・二%、公務及自由業二・一%、漁業及製鹽業一・三%、其他の有業者二・九%、無職及職業を申告せざる者一・四%である。また外國人は、商業及交通業五二・七%で過半を占め、農林牧畜業一八・〇%、工業一一・七%、公務及自由業五・〇%、其他の有業者一一・六%、無職及職業を申告せざる者一・〇%となつて居るが、外國人の大部分は支那人であるから、彼等がその商業上に活動して居ることもこれに依つて窺はれる。

現住人口職業別 (大正十三年末)

職業別	内地人	朝鮮人	外國人	合計
農林、牧畜業	三七,四七一	一四八,二四三	六,六九九	一四八,六五五
漁業及製鹽業	一一,三九三	三七,九九八	一三	一四〇,三〇四
工業	六四,一六七	三八,一三三	四,三三〇	四五〇,六一九
商業及交通業	一三五,六一一	一〇五,七〇七	一九,五四七	一,二二一,一九五
公務及自由業	三〇,〇一六	三六,一一八	一,八三三	四九五,〇〇六
其他の有業者	二二,八五七	五七,七一九	四,三〇四	五四三,八八〇

無職業及職業を申告せざる者	合計	三六	二六〇,七六〇
無職業及職業を申告せざる者	一〇,一八〇	二五〇,三四四	三六
合計	四二,一五九	一七,六一九	四〇,四〇
		三六,九八一	一八〇,六八一

最近に於ける朝鮮の人口状態は略ぼ説明したから、これより少しく消費の大勢を叙述して見やう。従來消費に關する調査としては殆んど何等の據るべきものがない。そこで茲には假に生産統計及び貿易統計を基礎として調査した。統計作製の方法としては、大部分の品は、その年の生産額と貿易額とを加減して消費額を推定したのであるが、中には米の如く、その年の貿易額と前年の生産額とを加減して消費額を算出したものもある。勿論これを以て直ちに消費の實額と斷定するは必ずしも當を得ないが、現在のところこれ以上に他に適當なる方法がないのを遺憾とする。現に朝鮮に於て消費さるゝ貨物は頗る多いが、消費統計としては便宜上、食糧品(米、小麥、粟、大豆、麥粉、水産物、獸肉)、嗜好品(鹽、煙草、酒、砂糖)、衣料品(綿布、苧麻布、絹布)、必需品(石油、燐、紙、窯業製品)、原料品(石炭、棉花、金肥、牛皮)の數種を擧げたに過ぎないのである。これ等の貨物は、國民生活上極めて必須缺く可らざるものであるから、これに據つて略ぼ朝鮮に於ける消費の大勢は推測することが出來やう。

食糧品一人當消費額

朝鮮の物産

二五四

年次	米		小麥		粟		大豆		麥		粉		水産物		獸肉	
	數量	指數	數量	指數	數量	指數	數量	指數	金額	指數	金額	指數	數量	指數	金額	指數
明治四十三年	—	—	〇八七	一〇〇	—	—	—	—	二五	一〇〇	〇五九六	一〇〇	〇三二二	一〇〇	—	—
同四十四年	七〇三	一〇〇	〇九九	一〇四	二三八	一〇〇	一四七	一〇〇	四七	一八八	〇四七二	七九	〇四四七	一四三	—	—
大正元年	七四四	一〇五	一〇五	一三二	二四二	一〇一	一六一	二二〇	八九	三五六	〇五六二	九四	〇五三八	一七二	—	—
同二年	六六二	九四	一〇五	一三三	二六六	一〇二	一八二	二三四	一五七	六二八	〇七三三	一三三	〇五五四	一七八	—	—
同三年	六九一	九八	一〇〇	一三五	二九五	一〇四	一九三	二二一	二〇〇	四八〇	〇七四五	一三五	〇五六八	一八二	—	—
同四年	七三三	一〇一	一〇三	一三八	二五四	一〇七	一六一	二二〇	一〇〇	四〇〇	〇八〇一	一三四	〇七三九	二二七	—	—
同五年	六七〇	九五	一〇二	一三七	二六四	一〇一	一八五	二二六	二二七	四六八	〇九四五	一五八	〇六九六	二三四	—	—
同六年	七三三	一〇三	一〇六	一四〇	二九一	一〇三	一八五	二二六	一八一	七二四	一〇二五	二〇二	〇七八五	二五二	—	—
同七年	六八三	九七	一〇八	一四四	三二六	一〇三	一九七	二三四	三三六	一三〇四	一七〇〇	二八七	〇九八六	三二六	—	—
同八年	七二六	一〇三	一〇六	一四〇	三八四	一〇六	二〇九	二四二	四九四	一九七六	二二二八	三七二	二〇六四	六六二	—	—
同九年	六二七	八八	一〇四	一四三	二六七	一〇二	一四一	二四一	五四九	二一九六	一八七一	三四一	一三三五	四二八	—	—
同十年	六五〇	九二	一〇〇	一三六	三五二	一〇七	一七六	二二〇	四三八	一七五二	二二四七	三六〇	一六五八	五三二	—	—
同十一年	六四〇	九一	一〇九	一三七	三七三	一〇七	一八四	二二五	五五一	二〇六〇	二二七九	三八二	一八九〇	三八一	—	—
同十二年	六二八	八八	〇九六	一三〇	三四八	一〇六	一八七	二二七	五三一	二二二四	二四三一	四〇六	一〇七二	三四四	—	—
同十三年	五九五	八五	一〇五	一四四	三六六	一〇四	一九四	二三三	七一九	二八七六	二二〇六	三八七	一二四一	三六六	—	—
同十四年	四九四	七〇	一〇九	一三五	三五三	一〇八	一四三	二九七	六三九	二五五六	二二七〇	三九八	〇九二〇	二九一	—	—

昭和十五年

嗜好品一人當消費額

年次	煙草		酒		砂糖	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
明治四十三年	七二	—	—	—	—	—
同四十四年	一〇五	—	—	—	—	—
大正元年	一三四	—	—	—	—	—
同二年	一二四	—	—	—	—	—
同三年	一一〇	—	—	—	—	—
同四年	一四八	—	—	—	—	—
同五年	一八九	—	—	—	—	—
同六年	一七七	—	—	—	—	—
同七年	二〇二	—	—	—	—	—
同八年	二九八	—	—	—	—	—
同九年	一八二	—	—	—	—	—
同十年	一九八	—	—	—	—	—
同十一年	一八九	—	—	—	—	—
同十二年	二二七	—	—	—	—	—
同十三年	二六六	—	—	—	—	—
同十四年	二六六	—	—	—	—	—
同十五年	二八八	—	—	—	—	—
同十六年	二八八	—	—	—	—	—
同十七年	二八八	—	—	—	—	—
同十八年	二八八	—	—	—	—	—
同十九年	二八八	—	—	—	—	—
同二十年	二八八	—	—	—	—	—
同二十一年	二八八	—	—	—	—	—
同二十二年	二八八	—	—	—	—	—

第五章 併合以後

二五五

朝鮮の物産		原料品一人當消費額	
同	八年	〇・五八四	一〇八
同	九年	〇・五八七	一〇九
同	十年	〇・三八三	七二
同	十一年	〇・三八二	七二
同	十二年	〇・五四三	一〇〇
同	十三年	〇・四九三	九一
同	十四年	〇・六二二	一二三
昭和	十五年		
同	八年	〇・四八八	一〇四
同	九年	〇・三七六	三七七
同	十年	〇・四一五	三七七
同	十一年	〇・四二二	二八七
同	十二年	〇・四〇八	三七七
同	十三年	〇・四六六	三七七
同	十四年	〇・四六六	三四七
同	十五年	〇・四六〇	三四七

年次	石		炭		棉		花		金		肥		牛		皮	
	數量	指數	數量	指數	數量	指數	數量	指數	數量	指數	數量	指數	數量	指數	數量	指數
明治四十三年	一七・四	一〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 四十四年	三三・六	一八八	〇・四一九	一〇〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大正元年	三八・八	二二六	〇・五〇四	一二〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 二年	四四・八	二五八	〇・五五三	一三三	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 三年	四四・八	二五八	〇・五三六	一二六	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同 四年	四六・〇	二六九	〇・五九五	一四二	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

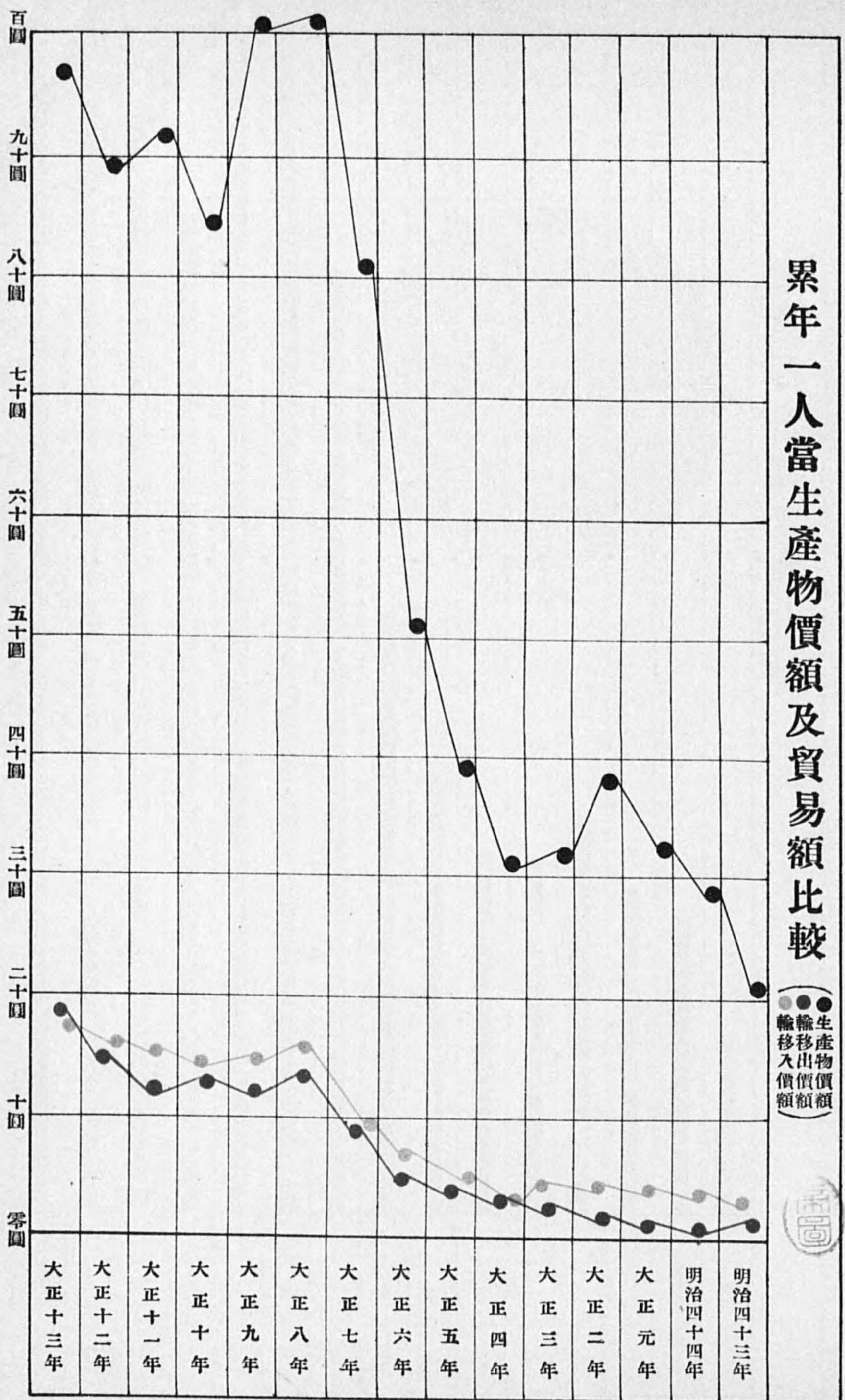
同	五年	四七・七	二七六	〇・七二四	一七〇	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
同	六年	六八・三	三九九	〇・四七七	二二四	四・三三三	三三五	〇・〇九三	—	—	—	—	—	—	—	—
同	七年	八〇・四	四七〇	〇・九三三	三三〇	六・九九三	五四一	〇・〇九〇	—	—	—	—	—	—	—	—
同	八年	九六・二	五八一	一・二五六	二七六	四・八二二	三七二	〇・〇四三	—	—	—	—	—	—	—	—
同	九年	九六・七	五六五	一・五四九	三七〇	五・五七〇	四三一	〇・〇八三	—	—	—	—	—	—	—	—
同	十年	八一・四	四七五	一・八四四	四四〇	五・七八六	四四八	〇・〇八二	—	—	—	—	—	—	—	—
同	十一年	八二・三	四八〇	一・六六八	三九九	六・七九九	五二六	〇・〇〇五	—	—	—	—	—	—	—	—
同	十二年	一〇一・四	五九〇	一・七九〇	四二七	七・四九一	五八〇	〇・〇五一	—	—	—	—	—	—	—	—
同	十三年	八七・六	五二二	一・五〇五	三五九	一・二五五八	八九五	〇・〇一九	—	—	—	—	—	—	—	—
同	十四年	九五・四	五五八	一・八二〇	四三四	二・二二三	九三八	〇・〇三八	—	—	—	—	—	—	—	—

備考 金肥のみは農家一戸當平均を示す。

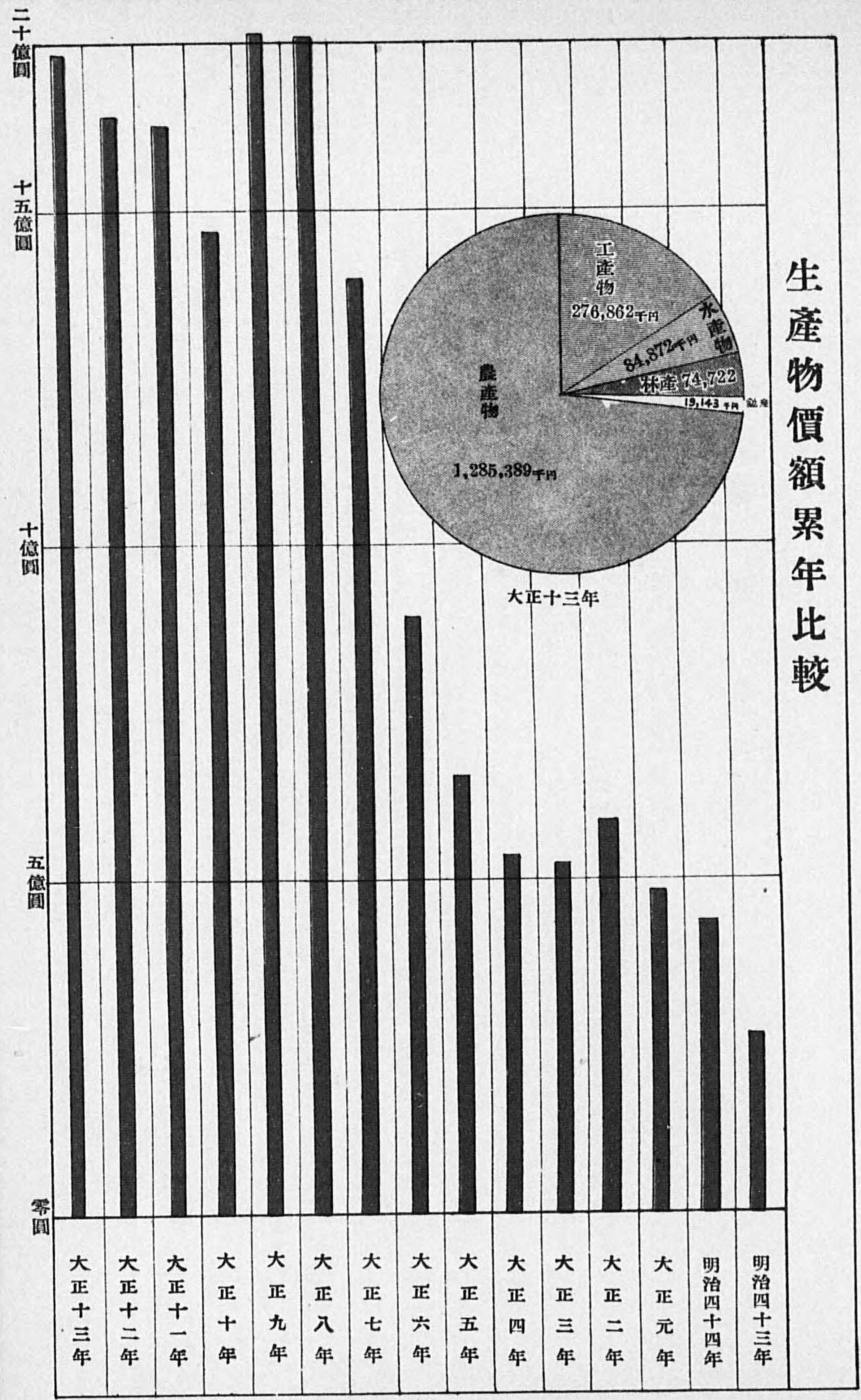
前掲の消費統計を通じて見たる朝鮮の經濟生活は、極めて低級幼稚なることを示して居る。勿論併合以來、各種産業の勃興と經濟力の充實とに依り、漸次生活の向上を見るに至つたけれども、尙ほこれを内地に比較し、または朝鮮人と内地人とを比較すると、その生活程度は著しく懸隔がある。併合以來、生産増加の割合は極めて大なるに拘はらず、消費の増加率が微々たるは如何なる事情に基くものであらうか。消費のみ増加して生産のこれに伴はざるは、國家としても個人としても慶ぶべき傾向でないが、地方の經濟

力が發達し、民衆の生活が向上するに於ては、消費は自然に増大して行く性質のものである。經濟の目的は徒らに富の増加を計るのみではない。社會をより良く進歩させ、生活をより良く幸福にするにありとせば、朝鮮の消費總額が、將來數倍乃至數十倍に躍進して行くことは、寧ろ當然と謂はねばならぬ。果して然らば、朝鮮の人口増加率が現状を以て推移し、更に國民生活の程度が次第に向上するものとして、現在に於ける諸般經濟上の施設が、能く五十年乃至百年の將來を達觀して、遺憾なき計畫をされて居るであらうか。生活問題と産業政策は須らく遠大なる計畫なかる可らず、若し當面姑息の施設を以て満足するに於ては、吾等の子孫は人口の増加と物資の不足の爲めに非常なる窮境に立たねばならぬ。況んや思想は生活の反映であるから、生活問題を閑却して民心の安定は期待出来ないものである。今や人口問題と食糧問題は、漸く朝野の視聽を惹くに至つたが、官民共に須らく大局に着眼し、返す／＼も永遠の計畫を忘れてはならない。

累年一人當生産物價額及貿易額比較



生産物價額累年比較



第六章 農 産 物

第一節 主要農産品

朝鮮は古來農業を以て國を樹て、現に總人口の八割餘が農耕に従事し、農業は實に産業の樞軸を爲して居る。即ち全土到る處農業に適し、殊に南部地方は氣候溫暖にして農産物の發育が最も佳良である。冬季は寒氣強きも麥類の如き冬作物の枯死する虞なく、年中概ね空氣が乾燥して居るので、收穫物の品質は良好である。但し夏作物中水稻の如きは、氣候の關係から云へば生育が良好なる筈であるが、従來用水の不充分であつた爲め屢々旱害を被ることがあつた。然しながら近來に至り灌漑の設備が年々發達した結果、漸次その度を減じて居る。産米増殖に關しては、大正九年度より約十五箇年に亘り、土地改良事業を施行し、地目の變換に依り十二萬町歩、開墾干拓に依り九萬町歩の良畝を得、これと同時に天水畝二十二萬町歩に對し、充分の灌漑水を供給し得る計畫があるから、朝鮮に於ける農業の前途は益々多望ならんとして居る。

大正十三年末現在の耕地面積は、畝百五十五萬三千餘町歩（内二毛作地二十六萬四千餘町歩、一毛作地百二十八萬九千餘町歩）、田二百七十六萬八千餘町歩、耕地合計四百三十一萬二千餘町歩に達し、この外

に土地臺帳未登録見積面積、畝一萬三千餘町歩、田七萬一千餘町歩、火田十六萬町歩を有する。

耕地面積 (大正十三年末)

道名	畝		田
	一毛作	二毛作	
京畿道	一九七,三八二八	一五七,七二六	一八六,二四八六
忠清北道	五五,四二一九	一三,八三三二	八八,六三三八
忠清南道	一三八,九一九二	二一,四三八	八三,七五三・一
全羅北道	一三五,八五六六	三二,三九一〇	六八,〇一三八
全羅南道	一五一,一五〇七	五二,四四四〇	二〇八,一三・七
慶尙北道	一〇七,六六四六	八〇,六六六四	二〇〇,八五七四
慶尙南道	一〇一,二四〇八	六三,五〇八三	一一二,九二四四
黄海道	一三〇,九八四四	一六,二一八	四〇六,九四三・一
平安南道	六四,六四六五	一	三八,二一九九
平安北道	七三,三三八一	五	三三,四二五・九
江原道	七九,三五二二	七九・七	二五〇,八二八・四
咸鏡南道	四四,三五二六	三三三	三二二,二六七九
咸鏡北道	九一,五九二二	一	一九七,九六一五
合計	一,二八九,四六一六	二六四,五三六六	二,七六八,二〇六五

更に右の耕地を、自作、小作に分つと、自作畝五十四萬八千餘町歩、田百五十九萬二千餘町歩あり、小作畝は百萬五千餘町歩、田百十七萬五千餘町歩となつて居る。

朝鮮に於ける大正十三年末現在の農家戸口を人種別によると、内地人九千三百二十七戸、三萬八千二百七十二人、朝鮮人二百六十九萬三千二百四十一戸、一千四百三十四萬三千二百六十二人、支那人一千六百九十六戸、五千八百八十五人、その他の外國人八戸、十九人、合計二百七十萬四千二百七十二戸、一千四百三十八萬七千四百三十八人である。また農家の業態を、専業、兼業に分つと、専業農家二百二十三萬一千八百一戸、兼業農家四十七萬二千四百七十一戸である。更に農家を地主、自作、小作、自作兼小作に分つと、地主(甲)一萬八千六百六十三戸、地主(乙)八萬三千五百二十戸、自作五十二萬五千六百八十九戸自作兼小作九十三萬四千二百八戸、小作百十四萬二千九百九十二戸となつて居る。その各道別の狀況は即ち左表の通りである。

道名	地主、自作、小作、自作兼小作別農家戸數 (大正十三年末)			
	地主(甲)	地主(乙)	自作	自作兼小作
京畿道	三,六三〇	八,六四五	二〇,四九三	七五,四四四
忠清北道	四二一	三,七七六	一六,八八五	四九,八七
忠清南道	七〇九	四,五八二	一四,八四一	六二,三八八
合計				二六三

朝鮮の物産

全羅北道	三五二	二,三九二	一一,六九八	五,二六八二	一三,七四六八
全羅南道	六〇五	四,九二一	六,四三九	一三,四〇六四	一三,三九〇一
慶尙北道	一,一三三	八,四〇八	五,五六〇四	一四,四五四六	一,九五〇四
慶尙南道	八四四	六,五七五	三,七二九二	九,三六三二	一四〇,九三六
黄海道	一,九〇九	八,六四〇	三,八八八〇	七〇,九四九	一〇七,八四六
平安南道	二,三〇九	八,八三三	三,五五五三	六五,三五一	五二,八七五
平安北道	三,八六四	一,二六四四	四,一七五三	四六,五九六	七九,〇九一
江原道	七二七	六,三三四	五,九五二八	七五,三九〇	五三,七二七
咸鏡南道	一,三七九	四,五五四	八,二二五	五〇,一八六	二五,二九二
咸鏡北道	七九二	三,三三五	四,六六七	一四,一八一	四,三四七
合計	一八,六六三	八三,五二〇	五五,六八九	九三,四二〇八	一,一四一,一九二

備考 地主甲とはその所有する耕地を悉く小作せしめ自ら耕作せざる者、地主乙とは所有耕地の大部分に小作せしめ一部分自ら耕作する者を謂ふ。

右の統計を見るときは、朝鮮地方に於ては、小作農多くして自作農少く土地兼併の傾向著しきを認められる。これに反して西北鮮地方に於ては、自作農多くして小作農少く、殊に咸鏡南北道に於ては、土地の分配が最も理想的に行はれて居ることを示して居る。従つて朝鮮地方には小作問題の發生を見ることが多いが、北鮮地方に在りては殆んどその例を見ないやうである。朝鮮に於ける内地人の農事經營は頗る有望

なる爲め、併合以來漸次その數を増加し、現に二百四十餘の多きに達して居るが、試みに最近に於ける三十町歩以上の内地人營農業者に就き、その經營地、所有面積、營農種別、營農方法、創立年月、名稱等を示すと左の如くなつて居る。

内地人農事經營者調 三十町歩以上の經營者

經營地	所有面積			營農種別	營農方法	創立年月	名稱
	町	畝	計				
京畿道、高陽郡	三〇・〇	四〇・〇	六〇	普通農事	小作	大正八年七月	中村義清
同	三〇・〇	—	—	普通農事	小作	明治卅三年三月	勸農會社
同	六六・〇	六四五	二六・五	普通農事	小作	大正九年五月	高島仁左衛門
同	一九・九	四五・四	二六	普通農事、桑栽培	小作	明治卅一年三月	大西文三郎
同	九・五	九	八・三	普通農事	自作	明治卅四年四月	小島經治
同	一〇・六	二・五	四・八	普通農事、果樹栽培、造林	自作	大正三年三月	西村篤雄
同	一三・〇	二〇・〇	四〇・五	普通農事	小作	大正六年	徳川頼倫
同	二七・三	一四三・二	一七・六	普通農事、造林	自作	大正二年八月	振興興業株式會社
同	二二・六	五・四	—	普通農事、果樹栽培	自作	大正二年七月	目良廣
同	四、〇八一・二	八七・四	四八〇・一	普通農事	小作	明治卅一年一月	東山農場

朝鮮の物産

忠清南道、天安郡	二五・九	九三・七	四六四・七	八六・三	普通農事、自作	大正四年十月	赤星鐵馬
全羅北道、沃溝郡	五〇・五	八・〇	三七	五七・二	普通農事	不	明大倉米吉
沃溝、金堤、益山郡	四四・二	四・九	一五・九	四九・〇	普通農事	小作	大正八年六月 森菊農場
益山、金堤、扶安任實郡	四八・九	一五・二	六・二	五九・三	普通農事	小作	不 明 佐藤政次郎
金堤、扶安、益山郡	三三・五	一九・一	九・六	三二・二	普通農事	自作	不 明 石田龜太郎
全州、金堤、益山郡	一、二五・二	一九・〇	一五・二	一、五九・四	普通農事	小作	大正八年十月 東山農事株式會社
全州、金堤、鎮安	六六・六	一三・二	一九・四	八七・二	普通農事	小作	大正九年七月 朝鮮會社二業社
沃溝、益山郡	三六・〇	三六・〇	一七・〇	三三・〇	普通農事	小作	明治四年四月 伊藤農場
全州、金堤、益山郡	一三・八	二九・九	一九・八	一六・五	普通農事	小作	明治四年五月 筑柴農場
全州、金堤、益山郡	八五・〇	一五・〇	三五	一〇三・五	普通農事	小作	明治四年九月 齋藤農場
全州郡	二五・三	三・〇	二・五	三〇・八	普通農事	小作	明治四年十月 北本松次郎
全州、鎮安郡	三三・六	五・三	一・三	四〇・二	普通農事	小作	大正九年一月 久保田彌助
全州、益山郡	三三・〇	四・〇	一・〇	三七・〇	普通農事	小作	明治四年四月 藤本八郎
南原郡	三三・三	五・七	四・〇	七・〇	普通農事	小作	不 明 諏訪善右衛門
同	四七・六	七	一	四・四	普通農事	小作	不 明 辻護一郎
淳昌、南原郡	八五・〇	二〇・〇	一	一〇五・〇	普通農事	小作	大正二年十月 林田農場
同	六五・五	一五・一	三	八〇・九	普通農事	小作	明治四年十月 大賀農場
井邑郡	一四〇・三	二六・六	五・六	一七五・五	普通農事	小作	明治四十四年 松本健三郎

同	二・五	六三・三	五〇・七	一三〇・〇	普通農事	小作	明治四年五月 井深和一郎
扶安、全州、井邑、金堤、益山郡	一八・八	九・八	二・二	二七三・八	普通農事	小作	不 明 赤木峰太郎
井邑郡	二七・七	四・三	三・五	六〇・五	普通農事	小作	大正七年四月 木村全北農場
井邑、扶安郡	三・一	四・二	九・七	五〇・〇	普通農事	小作	不 明 大森誠一
高敞郡	二四三・〇	八・〇	一・〇	二五三・〇	普通農事	小作	大正三年六月 木村健夫新農事部
井邑、扶安、金堤郡	一七・八	一五・三	五・七	一九八・八	普通農事	小作	大正五年一月 前田恒太郎
扶安、井邑郡	一五〇・〇	三・〇	二〇・五	一九五・五	普通農事	小作	明治四年三月 川野長久
扶安、井邑郡	一四〇・〇	五・〇	二・〇	一四七・〇	普通農事	小作	大正元年六月 鈴木農場
扶安郡	六七・五	七・三	九	七五・七	普通農事	小作	不 明 川野澄生
同	四五・六	二・七	一	五七・四	普通農事	小作	不 明 三宅助六
金堤、井邑、扶安郡	一、四三・一	六四・〇	九五・八	一、五七・九	普通農事	小作	明治四年五月 石川露農事株式會社
金堤、井邑、高敞郡	五三〇・〇	九・四	三〇・〇	六六・四	普通農事	小作	明治四年五月 榊富農場
金堤、扶安、井邑郡	七三・四	四四・一	六・五	八六・〇	普通農事	小作	大正元年八月 何部農場
金堤、沃溝郡	四九〇・六	一四八・八	四九・三	六八・七	普通農事	小作	大正七年十月 中柴産業株式會社
全州、金堤、益山郡	一四三・八	三九・三	九・七	一九・七	普通農事	小作	明治四年三月 井上農場
金堤、井邑郡	一五〇・〇	一五・〇	一・五	一七・五	普通農事	小作	明治四年三月 溝手農場
金堤、益山郡	九三・三	四〇・八	一〇・五	一四三・六	普通農事	小作	大正八年二月 加賀美農場
金堤郡	一九八・〇	一三・六	七・〇	二二六	普通農事	小作	大正二年八月 橋本農場

第六章 農産物

朝鮮の物産

全羅北道、金堤郡	四三三	一一一	—	四三四	普通農事	小作	不	明橋田鶴次郎
全州、井邑、扶安、金堤、沃溝、益山	二六二六	二〇〇一	—	二、九六四	普通農事	小作	明治三十年七月	熊本農場
沃溝郡	五〇七〇	二二七	—	九七三	普通農事	小作	明治三十七年	嶋谷農場
沃溝、益山郡	四九一三	一〇八	—	五〇三六	普通農事	小作	明治三十年二月	宮崎農場
益山、沃溝郡	三三九五	七三九	九〇〇	四九四	普通農事	小作	明治三十年八月	川崎農場
沃溝、益山郡	五五四八	六四	—	五三一	普通農事	小作	明治三十年三月	大倉農場
沃溝郡	四八四六	一五	—	四五一	普通農事	小作	大正六年二月	大倉農場
同	三五六	六〇	—	四三九	普通農事	小作	大正二年	灘谷農場
同	—	—	—	—	—	—	—	—
沃溝、益山、金堤郡	一一三〇	六九	—	一五二六	普通農事	小作	大正三年三月	横農場
沃溝郡	九三三	八	—	九三二	普通農事	小作	明治三十八年	甲斐農場
同	八三〇	一〇〇	—	九七〇	普通農事	小作	大正三年一月	高久農場
沃溝郡	三三八	三	—	三七三	普通農事	小作	明治三十八年	井上農場
同	五三〇	三〇	—	五六六	普通農事	小作	明治三十年九月	池田農場
同	三三八	一〇	—	四〇八	普通農事	小作	大正十一年	清池農場
同	三九七	四三	—	四〇〇	普通農事	小作	明治四十年	片山農場
同	二六九	二八	—	三〇七	普通農事	小作	大正八年	山崎農場
同	二、〇四七・八	七九	—	二、二六七	普通農事	小作	大正十年四月	右近商事株式會社
同	—	—	—	—	—	—	—	南鮮出張所
同	一、五八・八	四三〇	六七三	二、五三九	普通農事	小作	大正七年四月	多木農場

第六章 農産物

扶安、金堤、全州、沃溝、益山郡	五〇七〇	一〇八〇	三五〇	六五〇	普通農事	小作	明治三十年四月	眞田農場
益山、全州、金堤、群山、高敞、扶安、全州、益山、金堤、井邑、沃溝郡	一、一七五	一五八	二四三	一、七七六	普通農事	小作	明治三十年九月	徳濟川家製菓場
益山、沃溝郡	九七・〇	一四〇	一七二	一、三三二	普通農事	小作	大正三年三月	不二興業株式會社
益山、金堤、沃溝郡	九七・四	一〇七・四	七三・八	一、五三六	普通農事	小作	明治三十年九月	株式會社大橋農場
扶安、全州、金堤、益山、沃溝郡	五九三・二	一三三・八	二五・九	八五九	普通農事	小作	大正六年九月	三重農場
益山、全州、金堤郡	一八三・〇	一一七・二	一六・五	三六・七	普通農事	小作	明治三十年八月	今村農場
益山郡	二九〇・〇	二〇・〇	—	三〇・〇	普通農事	小作	大正二年三月	内外土地株式會社
金堤、益山郡	三六〇	五〇	—	二八〇	普通農事	小作	明治三十年四月	片桐農場
益山郡	六三三	二・五	—	二四五	普通農事	小作	大正元年一月	西岡岩太郎
金堤、益山郡	八〇・〇	一五〇	七〇	二〇三・〇	普通農事	小作	明治三十年八月	田板農場
金堤、益山郡	九七・六	一四七	三〇	二五七	普通農事	小作	大正三年五月	永田農場
益山、沃溝、金堤郡	八七・六	—	—	八七・六	普通農事	小作	大正五年二月	笠松譽行
益山郡	三七・七	四三・七	一八・六	一〇〇・〇	普通農事	小作	大正六年六月	關宗一郎
全州、金堤、沃溝、益山郡	八九・六	六〇	一四・一	二九・七	普通農事	小作	大正四年四月	板井信藏
益山郡	二五・〇	一五・〇	一七・〇	五七・〇	普通農事	小作	大正三年三月	板木登
益山、金堤、全州、沃溝、井邑郡	二〇・八	三六	六四	三〇・八	普通農事	小作	大正九年七月	全北商事株式會社
全羅南道、木浦府	二、九七五・〇	八四二・〇	—	三、八六〇	普通農事	小作	明治三十年八月	實業會社
同	三三九・〇	三三三・〇	—	七三〇	普通農事	小作	大正二年二月	國武農場

全羅南道、木浦府	800.0	1,200.0	—	1,700.0	普通農事	小作	大正九年九月	福田農事株式會社
同	1,000.0	1,100.0	—	1,270.0	普通農事	小作	明治三十八年十月	鎌田産業株式會社
光州郡	170.0	170.0	—	390.0	普通農事	小作	大正五年三月	徳川農場
同	330.0	1,270.0	—	470.0	普通農事	小作	大正九年	全南殖産株式會社
同	75.0	36.0	—	110.0	普通農事	小作	大正五年	株式會社森平組
潭陽郡	470.0	89.0	—	550.0	普通農事	小作	明治四十四年九月	細川農場
麗水郡	230.0	140.0	150.0	550.0	普通農事	小作	明治四十四年九月	高瀬合名會社
順天郡	70.0	10.0	—	90.0	普通農事	小作	大正四年三月	栖原幸太郎
同	200.0	100.0	—	400.0	普通農事	小作	不	明滋賀鮮農株式會社
高興郡	80.0	8.0	—	80.0	普通農事	小作	大正三年	前田慶治
同	80.0	50.0	—	130.0	普通農事	小作	大正三年	長浦善興
寶城郡	390.0	30.0	—	400.0	普通農事	小作	明治四十四年	金谷商會
海南郡	100.0	100.0	300.0	700.0	普通農事	自作	明治三十二年三月	花原農場
同	50.0	10.0	—	60.0	普通農事	小作	明治三十九年三月	藤中農場
靈岩郡	109.0	10.0	—	119.0	普通農事	小作	明治三十八年	黒住農場
羅州郡	160.0	170.0	30.0	350.0	普通農事	小作	明治四十年	杉本農場
同	65.0	16.0	—	80.0	普通農事	小作	大正七年二月	北御門農場
同	140.0	26.0	30.0	190.0	普通農事	小作	明治三十九年四月	西見農場

慶尙北道、善山、達城郡	870.0	4,610.0	520.0	5,450.0	普通農事、林	小作	大正八年十二月	東山農事株式會社
同	265.0	1,600.0	60.0	4,350.0	普通農事	小作	大正九年十二月	高力農場
震光郡	110.0	110.0	60.0	70.0	普通農事	小作	大正五年三月	川崎農場
同	1,280.0	2,230.0	600.0	2,100.0	普通農事、林	小作	明治四十四年四月	阿部農場
同	—	90.0	—	90.0	柵柳栽培	直營	大正五年八月	東洋柵柳株式會社
同	20.0	75.0	—	95.0	普通農事	小作	大正元年六月	大橋松太郎
同	455.0	1,067.0	—	1,522.0	普通農事	小作	明治三十九年四月	清水徳太郎
同	50.0	103.0	—	153.0	普通農事	小作	大正二年三月	宮井正一
同	55.0	20.0	—	75.0	普通農事	小作	大正四年七月	向阪歴吉
同	30.0	16.0	—	46.0	普通農事	小作	明治三十九年二月	木村竹太郎
同	50.0	139.0	—	189.0	普通農事	小作	明治三十七年	内山好亮
同	35.0	8.6	—	43.6	普通農事	小作	明治四十二年五月	龜石磯太郎
同	17.6	24.6	—	42.2	普通農事	小作	明治四十二年五月	江頭勝之助
同	6.0	105.5	—	111.5	普通農事	小作	大正八年三月	高田眞豊
同	97.0	77.0	—	170.0	普通農事	小作	大正七年八月	大池源二
同	1.6	6.5	—	6.1	普通農事	直營	大正五年八月	堀内昌吉
同	27.1	3.3	—	30.4	普通農事	小作	明治四十九年四月	増田三津次
同	16.0	15.3	—	31.3	普通農事	小作	大正二年七月	上田源治郎

朝鮮の物産

平安北道、龍川郡	四、三九〇	—	—	四、三九〇	普通農事	小作	大正三年六月	不二西鮮農場
同	三、〇〇〇	—	—	三、〇〇〇	普通農事	小作	大正三年三月	滿鮮殖産電氣會社
同	三、〇〇〇	—	—	三、〇〇〇	普通農事	自作	大正十年五月	中村農場
鐵山郡	三、〇〇〇	—	—	三、〇〇〇	普通農事	小作	大正十一年	片倉農場
邊寧郡	四、五〇〇	—	—	四、五〇〇	普通農事	小作	大正六年	瑞穂農場
同	七、七六六	—	—	七、七六六	普通農事	小作	大正九年十二月	齊藤農場齊藤進
定州郡	五、五三三	—	—	五、五三三	普通農事	小作	大正九年四月	齊藤農場齊藤久哉
同	七、〇三三	—	—	七、〇三三	普通農事	小作	大正九年四月	齊藤農場齊藤久哉
同	七、〇三三	—	—	七、〇三三	普通農事	小作	大正九年四月	齊藤農場齊藤久哉
江原道、淮陽郡	三、五〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇三〇	普通農事造林	自作	大正二年	佐藤浩天
同	三、〇〇〇	九、二〇〇	八、七〇〇	九、二〇〇	普通農事造林	自作	大正二年	佐藤浩天
高城郡	三、〇〇〇	九、二〇〇	八、七〇〇	九、二〇〇	普通農事造林	自作	大正二年	佐藤浩天
同	三、〇〇〇	九、二〇〇	八、七〇〇	九、二〇〇	普通農事造林	自作	大正二年	佐藤浩天
春川郡	九、〇〇〇	三、〇〇〇	—	九、〇〇〇	普通農事	小作	大正二年	福豐社
同	二〇、八〇〇	二、三三三	—	二、三三三	普通農事	小作	大正九年二月	不二興業株式會社
鐵原、平康郡	一、六〇〇	五、三〇〇	—	一、六〇〇	普通農事	自作	大正八年三月	增田農場
同	一、〇〇〇	三、三〇〇	—	一、〇〇〇	普通農事	自作	大正六年四月	富田農場
同	三、〇〇〇	八、〇〇〇	—	三、〇〇〇	普通農事	自作	大正五年四月	田中農場
成鏡南道、永興郡	一、五〇〇	二、二六六	—	一、五〇〇	普通農事	自作	明治十四年十月	中島農場
同	二、七〇〇	四、八〇〇	—	二、七〇〇	普通農事	小作	大正五年七月	笹川農場

備考 東洋拓殖會社は特殊のものにつきこれを省略した。

朝鮮に於ける農業は近時長足の進歩を爲して居るが、尙ほその改良の餘地は頗る多く、各種農産物の收穫高の如きも今後大に増加する見込がある。試みに主要農産物に就き、その一段歩收穫高の併合以後に於ける全鮮平均の消長を見ると左表の通りになつて居る。

主要農産物一段歩平均收穫高

年次	米	大麥	小麥	大豆	小豆	粟	陸地棉	在來棉	大麻	煙草	甘藷	馬鈴薯
明治四十三年	七、七五	八、二四	四、九七	五、六三	四、〇五	六、三三	五、三	三、五	九、四	八、三	—	—
同 四十四年	八、三三	九、三三	五、五二	五、七六	四、三三	六、三三	九、〇	四、一	二、八	一、七六	—	—
大正元年	七、七三	九、四一	五、七八	六、〇五	四、六七	六、七五	九	四、九	二、八	一、九〇	—	—
同 二年	八、四〇	一〇、一一	六、一四	五、六七	四、五五	七、一四	八、五	四、八	一、三九	一、九三	—	—
同 三年	九、六	八、八六	五、四七	五、四五	四、五〇	六、一九	七、三	四、三	一、三八	二、三九	—	—
同 四年	八、六六	九、四七	五、四九	五、六六	四、四四	六、四五	八、三	四、〇	一、三八	二、七一	—	—
同 五年	九、二七	八、八四	五、六一	五、九六	四、四五	六、九六	六	四、〇	一、四〇	二、六六	—	—
同 六年	九、〇四	九、一四	五、三六	五、八四	四、四六	六、九四	六	四、〇	一、五五	二、五三	—	—
同 七年	九、九八	九、七七	五、六一	六、五五	四、九八	七、四七	六	四、八	一、七四	三、三〇	—	—
同 八年	八、四〇	九、〇六	四、八三	六、五五	四、九八	七、四七	五	三、三	一、六九	三、三三	—	—
同 九年	九、六七	八、九四	六、〇四	六、三二	四、六七	七、八一	六	一、九〇	三、五	三、六	—	—

第六章 農産物

朝鮮の物産

二八〇

同	十	年	九・四五	九・四三	六・〇七	五・九三	四・〇九	七・五三	六	五	一九・五	三・〇	三・九	一・五
同	十	一	年	九・七三	八・三	五・七	五・七	三・四	六・五	五	一九・四	三・九	三・三	一・七
同	十	二	年	九・八	七・三	四・七	五・七	三・九	六・七	六	一八・九	三・八	三・三	一・四
同	十	三	年	八・四九	八・八	五・九	四・六	二・四七	六・六	九	一八・〇	三・八	三・〇	一・九
同	十	四	年											
同	十	五	年											
昭和	十	五	年											

備考 大正元年以前の甘藷及び馬鈴薯の統計を缺く。

米

朝鮮に於ける米作の状態を見るに、其の氣象、土質等、天然の要素は米作に好適し、耕地を改良擴張して米作に供すべき餘地頗る多く、耕作に従事すべき農民の數もまた頗る多數である。李朝時代に於ては、多年秕政の結果農家は疲弊し、土地は荒廢し、生産の改良増殖を企圖すべき意氣と資本と設備とに缺如せる爲め、生産の改良増殖が行はれなかつたが、近來に於ける科學的施設を行ひ、適當の方法を以て農民を指導するに於ては、産米事業の振作を期し得べきこと明かである。そこで當局は積極的施設として、(イ)生産の増加と品質の改良を行ひ、(ロ)産米の半島内に於ける消費を抑制するの方針を採つて來た。此の方針に基きて施設獎勵せる事項としては、(一)栽培地の擴張及び改善、(二)品種改良、(イ)優良品種の普

及、(ロ)優良品種の種子更新、(ハ)在來種の改良、(三)陸稻栽培の改良、(四)苗代の改良、(五)肥料の施用、(六)種拔、(七)害蟲驅除豫防、(八)適期の刈取、(九)乾燥調製の改良、(十)玄米調製、(十一)米穀検査、(十二)販路の擴張にして、從來課て來た米及び粳に對する朝鮮輸出税を廢し、内地及び滿洲への出荷を獎勵し、次いで内地に於ける移入税を撤廢し、以て内地移出に便し、また一面産米改良の實績擧がるに及び、内地取引市場に於ける受渡代用米として使用せしむること、した。その結果、今や朝鮮米の内地に於ける仕向地は、茨城、岩手、秋田、沖繩の四縣を除き、一道三府三十九縣の廣きに亘り、此の仕向量の多きは地理的竝に商取引の關係上、本州西部、中部九州及び四國等の順位にあるも、近時關東地方に於て頗る歡迎せらるゝところとなり、東京府に對する仕向高は年額三十有餘萬石を算するに至つた。以上諸般の施設獎勵事項中、成績最も良好なるは、優良品種の普及にして、今や如何なる僻陬の農民と雖も、早神力、穀良都、若くは日の出等、其の地方に獎勵せらるゝ米種の名稱及び其の栽培の有利なることを知らざるものなく、これに依りて擧げらるゝ年增收額は大約三百有萬餘石と推定せられ、また乾燥調製の改良に就いては、農家に於ける實行未だ充分でないが、米穀検査施行の結果と相俟つて、輸移出玄米の改良せられたることは争ふべからざる事實にして、内地市場に於ける朝鮮米の聲價大いに揚り、始政以來十餘年の今日全く朝鮮米の面目を一新せりと稱するも過言でない。斯くの如くして、朝鮮米の品質を向上し、

其の産額及び輸移出額を増加せることは頗る大なるものあり、明治四十三年に比較すると大正十四年に於ては實に左の如き進歩を示して居る。

米生産高及び輸移出高比較

種別	明治四十三年		大正十四年	
	町歩	同指数	町歩	同指数
作付	二,三二七,七九七	100	一,五八五,二二六	二二七
收穫	一〇,四〇五,六一三	100	一四,七三三,一〇三	一四二
段當收益	〇,七六九	100	〇,九三三	一二二
輸移出高	五,四四〇,六三三	100	四,七五八,〇六八	八七五

更に大正九年度より一部の實行に着手せる朝鮮産米増殖計畫は、その後改訂を加へられ、大正十五年度以降の十四箇年を期し、所期の目的を達する爲めに全般的實行を見るに至つたので、今後は米産の増殖改良に一段の進歩を見るであらう。所謂朝鮮産米増殖計畫は、土地改良事業と耕種法の改良とを併せ行ふものにして、その内容は耕種法の改良に就いては、(イ)金肥の使用を奨励すると共に其の購買資金を斡旋すること、(ロ)系統的採種番の設置を助成すること、(ハ)米作改良に關し實地指導に當らしむる爲め地方廳に農業技術員を配置すること等各般の施設を爲し、右計畫完成の曉に於ては、産米大約八百二十一萬石を増殖すると共に、其の品質を向上し、以て(一)内地食糧問題の解決に資すると共に、(二)鮮内に於ける食糧

需要の増加に備へ、且つ(三)農家經濟の向上し、延いては朝鮮經濟の振興を圖るに在り、其の結果として將來、年額一千万石の朝鮮米を内地へ移出し得る見込である。さればこれに依りて、年々不足を訴へつゝある内地の食糧問題解決に、寄與する所も從つて亦大なる譯である。

大 麥

南鮮地方は氣候溫和なるを以て、秋蒔大麥の栽培に好適するも、中部以北に於ては冬季の氣溫低きに失し寒害を被ること多く、特に平安南道及び咸鏡南道以北に於ては、秋蒔大麥の栽培は甚だ困難なるを以て、春蒔とするのが普通である。然しながら春季及び初夏に於ける乾燥は往々大麥の生育を阻害し、子實の品質及び収量に悪影響を及ぼすこと少からず、就中中部以北に於ける本期間の乾燥は春蒔大麥の栽培に對し大なる障害を與へ、爲めに西鮮地方に於ける大麥栽培の進展を阻害するの結果を呈する。併合當時に於ける大麥作の状況を見るに、其の作付面積約五十七八萬町歩内外、これが收穫高四百七十八萬石内外、一段歩當収量八斗内外にして、當時内地に於ける段當平均収量約一石五斗に比すれば約半に過ぎず、改良の餘地甚だ大なるものであつた。また其の需給状況を見るに、貿易額は輸移出入共に極めて僅少にして算ふるに足らず、生産額の殆んど全部は半島内の消費に供せられたのである。當時に於ける一般農家の經濟

は極めて貧弱にして、秋收期小作料を納め、且つ多少の米、豆等を放賣して舊債を償ふに於ては、殘餘幾許も無く、早春既に食盡き、或は地主に高利の食糧を借り、或は山野に草根木皮を搜り辛じて露命を繋ぐの状態に在り、爲めに春季農繁の時期に入るも、食糧不足の爲め完全な勞役に服する能はざる者が甚だ多かつたのである。そこで當局は始政以來農家の食糧として好適せる麥類特に大麥の増殖を行ひ、以て農家の食糧充實を圖るの必要を認め、一面米、大豆、小麥等の如き、輸移出に適せる穀類の消費の節約を爲すの方針を採つて來た。大麥の改良増殖に付き始政當時より當局の採り來れる施設獎勵要項を擧げると、(一)作付段別の擴張、(二)肥料の増施、(三)適期の刈取、(四)病害蟲の驗除豫防、(五)乾燥調製の改良、(六)ゴールデンメロンの栽培等にして、これ等の結果、生産統計に現はれたる生産の増加は著しいのである。即ち大正十四年に於ては大麥の生産額約七百八十一萬五千石に達し、始政當時に比し大約六割餘の増額を爲し、其の貿易額は曩年穀價の異常なる騰貴に際しても、尙ほ輸移出年額二三萬石に過ぎず、生産額の殆んど全部は鮮内の食糧充實に充當せられ、一面米、大豆、小麥等の消費を節約し、其の輸移出増加に資せることが少くない。

小 麥

元來小麥は其の特性大麥に比し寒氣に對する抵抗力強きを以て、咸鏡北道及び平安北道の嚴寒地を除き、全鮮を通じ秋蒔小麥の栽培に適し、春蒔小麥は咸鏡北道及び平安北道の一部に僅に栽培せらるゝのみである。小麥の成熟期は大麥に比し稍後れるので、其の收穫期に於て雨期に際會すること大麥に比して多いが、農家の食糧品として寧ろ大麥作を有利と爲す場合多きを以て、南鮮に於ける小麥作は大麥作に比し作付著しく少く、麥作段別廣大なる慶尙北道に於て、其の作付段別の稍多きを見るのみである。京畿以北では、江原、黄海、平南の各地に於ては氣候上大麥に比し小麥の栽培を有利とするを以て、麥作段別に對する小麥作付の歩合は著しく多く、就中黄海道の様子は麥作總面積の八割餘に當り、半島に於ける小麥總作付面積の三割五分を占めて居る。朝鮮小麥殊に西北鮮地方産のものは、粘性に富み品質極めて良好であり、製粉原料として敢て濠洲並に米國品等に對し遜色なき特質を有するを以て、朝鮮に於ける小麥作の前途は實に有望である。小麥は製粉原料として輸移出せられ、始政前に於ける輸移出額は米及び大豆に次いで多量に上り、一二萬石乃至五萬石内外を上下した。一面小麥粉の輸移入額は小麥粒に換算し輸移出額と殆んど同額に達し、其の額は漸次輸移出額を超過するの傾向を示したのである。即ち明治四十四年には小麥粉の輸移入額は、小麥粒に換算して八萬二千餘石に達し、著しき輸移入超過を示し、爾後輸入の數額に激増し、歐洲大戰前に於ては大約十萬石以上の入超あり、戰時中一時出超を見たこともあるが、最近の輸

移入額は入超實に二十餘萬石の多きに達して居る。始政當時の小麥作の状況を見るに、其の作付面積は二十四五萬町歩にして、麥類總作付面積の三割内外を占め、收穫高は年に依り差違ありたるも、大約百二十萬石内外、段當收量平均僅に五斗内外に過ぎず、其の生産状態は貧弱にして調製法も粗放で、米、大麥等と同様石の混入の如きを意とせず、乾燥も亦不良であつた。そこで當局は小麥の生産を増し品位を高め、以て鮮内の需要を充實すると共に、成るべく多量の輸移出を爲さしめ、農家經濟の向上に資せしむるの方針の下に、これが改良増殖に力を致し、其の施設獎勵事項としては(一)作付段別の擴張、(二)優良品種の普及、(三)乾燥調製の改良、(四)病害蟲の驅除豫防、(五)輸移出検査等を行ひ、その結果として、生産の増加は大麥と同様甚だ顯著なるものあり、大正十四年に於て二百十七萬九千石に達し、始政當時に比し約八割の増額を爲し、貿易額は戰時中多少の輸移出超過を見、大正六年の輸移出額十六萬石に達し、約七萬石の出超を示したが、戰後に於ては依然輸入超過の大勢に在る。

大豆

往時朝鮮に於ては、大豆に對して農家は他作物と同様に品種の改良耕種法等に力を致さなかつたが、それでも其の生産品は良性美質にして、内地及び滿洲品に優つて居る。是れ天與の惠澤即ち風土の然らしむ

るもので、内地殊に大豆の主産地たる日本海沿岸地方に於ては、生育期間中多雨多濕なるが爲め、大豆の子粒美大なるを得るも、乾燥を欲する成熟期に於ても依然多濕なるを以て、多少成熟を不完全ならしむる嫌あり、加ふるに收穫後降雨の爲め乾燥不良となり、或ひは一度乾燥せる子粒の再び膨軟となり、品質を損することが尠くない。然るに朝鮮に於ては生育期に相當の降雨ありて敢て内地に譲らざる天恵あり、加ふるに成熟期に於て乾燥するを以て、生育期に充分發育せし子實は完全に登熟し、豐滿鮮麗にして養分充實せる良品を産出する。滿洲に於ては大豆の産額多きも、生育期の雨量尠く、爲めに子實小さく豐滿ならず、蛋白質に乏しく、食用大豆として朝鮮大豆に遙かに劣つて居る。朝鮮は大豆に對し内地滿洲等に比し風土優秀にして、比較的粗笨なる農法に依るも、尙ほ相當の收穫を得るを得、各種の作物は悉く内地の生産状況に比し著しい遜色あるに拘はらず、獨り大豆の生産に就いては内地と大なる逕庭なく、殊に咸鏡南道の端川、安邊、及び京畿道の長湍の如きは、遙かに内地産を凌駕する優良品種を生産して居る。朝鮮大豆は内地及び滿洲産に比し脂肪含量は伯仲の間にあるも、蛋白質は遙かに多きを以て、食用大豆として内地又は滿洲産の到底及ぶ所にあらず、従つて價格も亦高價にして、内地市場に於ける朝鮮大豆の聲價高き所以である。

始政當時に於ける大豆生産額は一箇年三百萬石に達しなかつたが、最近に於ては四百萬石乃至五百萬石

に達し、漸時増加の有様を示して居る。大豆の鮮内消費は人口の増加と生活程度の向上と共に伴ひ、味噌、醤油等の醸造盛んとなりたる結果、大豆の需要増加し、始政當時に於ける消費は約二百餘萬石であつたが、今や約三百萬石に達し、尙ほ年々若干増加の傾向を示して居る。内地に於ける大豆の需要状況を見るに、南は沖繩より北は北海道に亘り、到る處にこれを栽培して居るが、其の主産地は東北及び北海道にして、北海道大豆は開拓事業の進歩と共に大體増加すべき趨勢にあるも、其の他の地方に於ける作付段別は寧ろ減少するの趨勢なるを以て、内地の不足高は年と共に増加し、今日に於て食用大豆としての不足百五十萬石に達し、其の内百萬石内外を朝鮮大豆に、他を滿洲大豆に依り補足しつゝあり、それでも尙ほ其の不足額は歳々増加するの狀態にありて、大正十三年の如きは朝鮮大豆の輸移出額は百四十萬二千石に達し、これが需要は將來益々多くなつて行くものと思はれる。

小豆

朝鮮の氣候は大豆と同様小豆の栽培に適し、品質收量共に優秀にして、北鮮地方殊に咸鏡北道の東海岸に於ては、大粒にして外皮薄き良質を産し、内地市場に於て歓迎せられる。然しながら小豆は、これを米、粟に混じ常食と爲すを以て、鮮内の消費量甚だ多く、年々多少の輸移入超過を示す傾向にあつたので

ある。小豆の産額は年々百萬石以上に達し、始政當時に比すると約三四割の増加を示し、北鮮地方は南鮮地方に比し其の産額多く、今後更に適當に耕種法の改善を行ふに於ては、將來有望なる作物である。

粟

粟は其の特性乾燥せる氣候風土に適するを以て、朝鮮の氣候はこれが栽培に恰適し、殊に西北鮮地方に於ては畑地面積廣大にして、しかも冬季の嚴寒酷烈なると、春季及び夏季に於ける乾燥甚だしきものある等、麥類の栽培稍や困難の事情あるを以て、該地方に於ける主要食糧品は主として夏作に求めねばならぬ狀態に在りて、夏作中、粟は實に其の主要食糧品である。併合當時に於ける粟の作付面積は五十萬町歩に達し、米麥に次いで大面積を占め、其の耕種法も他の作物に比し割合に進歩し、能く朝鮮の風土に適應せる措置に出でたのである。然しながら尙ほ品種の選定、施肥、及び病害蟲の驅除豫防等に就いては、甚だしい缺點あり、爲めに收量は著しく少く、一段歩常平均收量僅に六斗内外にして、内地の約半に過ぎず、また其の總生産額も三百五十萬石内外であつたので、鮮内の需要を充す能はず、年々數萬石の輸入を爲し、漸次これが増加の傾向を示して居た。そこで當局は施政以來粟の増殖に付ては相當力を致したけれども、其の作付面積の擴張に對しては遽かに實行すること困難なるを認め、積極的獎勵を行はず、専ら耕種

法の改良に力を致し、(一)優良品種の普及、(二)肥料の増施、を行つて來た結果、生産額は多き年に於て約六百萬石を超え、併合當時に比し實に八割餘の増加を示し、段當平均收量七斗五升内外を示すに至つた。鮮内の需要も亦大に増加したので、年々百萬石以上の精粟を支那より輸入し、殊に凶作に際しては、多量の輸入を行ひ、最近に於ては、大正十四年に百六十八萬石、大正十五年に二百十八萬石の輸入を見て居る状況にして、米の移出増加に伴ひ粟は年々多く輸入を爲しつゝある。斯くの如く粟の需要の増加したのは、生産の増加に伴ふ民度の向上に依る食糧の充實の結果でもあらうが、一面より見るときは、米、大豆、小麥等の輸移出に適する食糧品に粟が代用せられることの多くなつた爲めである。

林 檜

朝鮮は概して春秋乾燥し、盛夏曇天多く降雨潤澤にして果樹の生育に適し、土質も亦その栽培に好適せるを以て、各種果樹の栽培が行はれ、就中林檎の如きは來禽と稱せられ古くより植栽されて來た。在來林檎はクラブ林檎と同一系統に屬し、形小さく品質劣等にして全鮮に亘り分布して居り、優良種の移入植栽の必要なるを認め、これが普及奨励に努めた結果、果樹園組織に依る栽培者に於ては、殆んど全部優良種に改めて居る。近來内外に於ける林檎の需要は甚だ多く、且つ貯藏に耐えるを以て、其の栽培は頗る有利

となり、中生種に在りては、祝、旭、柳玉等は栽培成績良好であるが、更に貯藏に耐える晩生の種類は、將來最も有望にして奨励の價值が多い。即ち赤色種にては紅玉、國光、及び倭錦あり、黄色種に在りては白龍、鳳凰卵、及びエロー、ニウタウンピン等がある。林檎の産額は累年増加し、品質も向上した結果、支那及び西伯利地方に於ける需要を喚起し、上海方面では有名なる米國産の優良種を壓倒するが如き状態である。林檎の主産地には大抵一郡を單位とした果物組合があり、其の他重要物産同業組合令に依り設けられた果物組合が、大邱、三浪津、鎮南浦の三箇所に在り、製品の検査、販賣の斡旋、栽培方法の改良等を行つて居る。

甜 菜

朝鮮の風土は甜菜の栽培に有望なるを認められ、明治三十九年より勸業模範場は全鮮各地に亘りて、これが栽培に關する試験を行ひ、西鮮地方は其の成績最も良好なりしを以て、漸次世人の注目する處となつた。即ち大正六年には平壤に朝鮮製糖株式會社が創立せられ、朝鮮總督府は大正七年甜菜糖助長の目的を以て甜菜に關する技師一名、技手一名を平安南道廳に配置し、これに黄海道在勤を兼務せしめ、以て平安南道種苗場に於て専ら甜菜に關する試験調査を行ひ、且つ兩道農民に對し栽培上の指導を爲さしめ、それ

に要する経費を右兩道に補助し、その他農民の所要種子に對し其の半量を給與せしむるため、兩道を合せ七萬五千圓の種子代補助を交付し、甜菜栽培の奨励を行ひつゝある。

大正八年に至り朝鮮製糖株式會社は大日本製糖株式會社と合併し、其の工場を大同江岸の船橋里に設置し、大正九年より製糖作業を開始するに至つた。會社は平安南道及び黃海道の兩道に亘り農民と一定の契約を結び、栽培者に金肥の全部及び種子の半量を無償給與し、且つ不作の際には事情に應じ一定の補償を爲すこととした。大正八年迄は單に試作に過ぎなかつたが、大正九年には其の作付前記兩道に亘り二千五百町歩に達し、同年産の原料を以て同年冬期より最初の製糖作業を開始するに至つた。

大正九年以降に於ける栽培成績は事業の初期なると、害蟲其の他の障害に依り豫期の成績を收め得なかつたが、從來試作の成績に徴すれば、根中糖分十四%以上を含有し、段當收量約二噸を得ること難からず、故に今後品種、其の他肥培、管理に就いて改良を計るときは、所期の目的を遂ぐることも敢て困難なことがあるまい。

白 菜

朝鮮の氣候は概ね春季降雨少く乾燥に失する爲め、蔬菜の下種發芽に不利を來し、また各種害蟲の發生

を旺んならしめ、時に蔬菜の栽培に損害を與ふることがある。夏季は高温多濕なる爲め時に過度の生長に陥らしめ、柔軟多汁なる蔬菜は往々その品質を害し、且つ諸病害の發生を誘致することあるも、日照多き爲め夏季産苺果類の如きは優良なるものが多い。秋季の乾燥にして冷涼なる氣候は各種の蔬菜類栽培に好適し、秋季産の葉菜類、根菜類等は成績良好にして、就中白菜の如きは頗る優良なるものを産出する。白菜は古くより栽培せられたもので、蔬菜類の中にてその成績は最も優良である。就中開城の白菜、平壤の白菜の如きは著名にして、生菜または朝鮮漬物用として珍重される。白菜の大なるものに至りては一株にして優に一貫匁を越ゆるものあり、その質軟柔にして水分多く味ひ佳良なるを以て、内外共にこれが需要は尠くない。

家 蠶 繭 繭

養蠶に關しては各朝歴代農民に奨励せられた所であるが、李朝末期に及び整綱漸く弛み、官吏の苛斂誅求を極めた結果、農家はその業に安んずる能はず遂ひに遊惰の惡弊に陥り、養蠶業の如き有利なる事業も愈々衰退し、隣邦支那より年々多額の絹布を輸入して居た。明治三十九年統監府の設置せらるゝや、時の政府は統監府と協力して、京城南部に蠶業試験所を設け、蠶業に關する試験を行ふこととし、一面生徒を

養成し、朝鮮貴婦人を以て組織せる大韓婦人會は、女子蠶業講習所を龍山に設けて女子の爲めに蠶業の講習を行ひ、隆熙三年即ち明治四十二年に於て、從來久しく廢して顧みられなかつた親蠶の復興を見るに至り、歴代不振の蠶業再興の光明を認めらるゝに至つた。然しながら是等の施設獎勵は各種の事情に依り、十分なる事績を舉ぐることが出来なかつたが、統監府は蠶業の前途大に有望なるを認め、韓國政府をして適切なる施設を爲さしむると共に、統監府に専門の技術官を置き直接間接に保護獎勵に努めたる結果、漸く朝鮮蠶業革新の端緒を見るに至つた。明治四十三年日韓併合に依りて總督府設置せらるゝや、總督府は先づ(一)養蠶は農家の副業とし、養蠶者一戸に對し春蠶種一枚の飼育を程度として、専ら農家過剰の勞力を利用し、就中婦女子をしてこれに従事させることを奨励し、(二)それに要する蠶種は當初内地より移入したが漸次自給自足の方法を講じ、その漸く發達するに従ひ、大正八年朝鮮蠶業令及びその附屬法令を發布し、蠶病豫防、蠶種の検査、及びその販賣移入等に關する取締を勵行することとなつたので、養蠶に従事する者は逐年増加し、産繭額も頗る増加を見るに至つた。

今これを地方別に見るに、繭産額の最も多きは慶尙北道の三萬七千石にして、尙州郡、安東郡はその主要産地である。平南、忠南、平北、江原の諸道之に次ぎ、最も少きは咸鏡北道の一十石である。以上主要養蠶地の狀況を見るに、忠清南道は改良桑に依る新進の養蠶地にして、その他は山桑及び在來桑に依るも

の少からざるを以て、従つてその進歩の度も遅れ、動もすれば忠清南道の爲めに凌駕せられんとする傾向がある。これ前者は改良桑田に依るを以て年々收葉量増加するに反し、後者は山桑在來桑なるを以て逐年樹勢衰へる結果、斯の如き現象を呈するのである。

朝鮮の在來蠶種は一化性三眠蠶にして、その成繭に黄白緑の混淆なるを普通とし、その蠶兒は體軀矮小にして不齊一なるのみならず、その成繭の品質頗る雜駁にして、絲量も亦僅少なるを以て、内地蠶種の下繭にも及ばない。されば併合後總督府に於ては種々蠶種の改良施設を行つて來たが、大正八年發布の朝鮮蠶業令に依り蠶種の種類を限定せられたるを以て、爰に全く蠶種の種類は統一せられ、朝鮮在來の三眠蠶の如きは何時しか驅逐せられて今やその影を潜め、全鮮到る處優良品種のみとなつた。

從來朝鮮に於ける養蠶は自家用の目的を以て營んだものであるから、蠶室は極めて狹隘なる居室即ち温突を使用した。温突室内は稍々乾燥するに嫌あるが、晝夜の氣候に劇變ある朝鮮に在りては、保温上恰好の育蠶室である。在來の蠶兒飼育法は地方に依り多少異なるも、概ね祖先傳來の舊貫を墨守し、單に給桑すれば事足れりと爲し、殆んど自然の生育に放任した爲め、その成繭は大小不同にして、品質極めて雜駁なるを免れない。斯くの如く養蠶の智識乏しき者に對しては、蠶業講習所や講習會を開催して育蠶法を周知せしむると共に、一面その育蠶技術を最も簡易に且つ迅速に習得させる方法として、稚蠶共同飼育を行

はじめ、これに對し國庫補助金を交附し、また地方費に於ても夫々補助金を交附し、各技術者をして直接指導獎勵を施す等、極力飼育法の改善に務めつゝあるも、從來稚蠶共同飼育は徒らにその數多く、且つ教師にその人を得ざるの關係上、豫期の成績を挙げ得ざりし傾向あるを以て、近時各道共その數を減じ、教師の選抜に注意し、以てその實績を擧ぐるに努力しつゝある。

繭の取引は、蠶業組合、養蠶組合、郡農會等に於て、入札の方法を以て共同販賣を行つて居る處が多く、その成績は頗る良好であるが、近時内地商人にして鮮内に入込み、仲買人等を派して、大口に買纏めて移出するものも斯くない。

製 絲

朝鮮に於ける從來の製絲は専門的にこれを行ふ者なく、養蠶者は即ち製絲業者にして、各養蠶者は自己の飼育して得たる産繭を取りて、簡易なる繰絲器にすら依ることなく殆んど自ら手を以て紡出し、自己の衣服の資に供するが如き状態であつたから、始政以來總督府及び地方廳に於ては、座繰器を配付して改良製絲法の普及を圖りたるも、優良品種の漸く旺盛なるに従ひ、上繭は鮮内に於て拙劣なる製絲を爲すよりは、寧ろ繭の儘内地に移出するの有益なるを認め、繭運賃の割引、繭、生絲移輸出税の撤廢、乾繭の改

良、販賣の斡旋等、當業者に對し最も有利なる方法を講じてこれを獎勵して居る。

在來の繰絲法はその使用する器具の種類に依りて同じからず、即ち繰棒を用ふるものに在りては先づ合わせの土釜に湯を沸して後繭一握を之に投入し、長さ一尺内外の太き二本の箸にて攪拌し、熨斗絲を取らずして直ちに緒絲を求めて「チャサ」(臺板に二本の柱を立て竹管を通せる鐵線二條をその柱に支持せしめて管擦掛の作用を爲さしめ、臺の一端に肘壺を打込集緒を爲さしむる様作りたるもの)の肘壺の中を通し、擦管に掛けて棒に繋ぎ左手にてその棒を回轉すると同時に、右手に持てる二本の箸端にて接緒しつゝ、繰絲し、また單に「チャサ」のみを用ふるものは、前者の方法と同様の手續を経て擦掛管を通し、これを盆又は箱の如き器中に手繰り、又三角木を用ふるものは、前同様の方法によりて緒絲を求め、三角木の横竹(又は木)の上部三角形内に通し、繰絲者の右膝上に於て右の手掌を以て擦を掛け、左側に豫め用意せる木鉢又は盆上に抽出するを普通とする。斯くて繰絲中は絶えず釜下に火を焚きて湯を沸騰せしめ、釜中の繭量減少したる時は随時新に投入して繰絲するが故に、その製造したる生絲は概ね著しき硬軟がある。

叙上の如き狀況なるを以て折角優良なる繭を收穫するも、生絲としてその品質を損傷し聲價を失墜すること甚しきを以て、始政以來總督府及び地方廳に於ては、前述の如く座繰器を配付して改良生絲の生産を勵行せしめ、その配付臺數大正四年迄の累計五百九十二箇に達した(以後配付せず)。而して製絲場の設立

としては、明治四十三年、宋秉峻が信州小口組と協同し、受産の目的を以て繰絲釜數三十二釜を有するものを創立せるは、朝鮮に於ける工場組織に依る製絲場の濫觴である。大正四年十月この事業は、經營難の故を以て京畿道に譲渡し、京畿道は恩賜授産事業として直接その經營に當ることとなつた。

大正七年に至り一般財界の好況に伴ひ蠶業も亦大に振興し、産繭の増加を見るに至るや、製絲業經營の氣運大に漲り、京城製絲場は更に三十釜を増設し、全羅北道全州に於ては全北繭絲合資會社設立せられて百釜を備付け、京城府三坂通に於て齊藤製絲會社百三十釜、大邱に山十組製絲場四百六十釜の新設を見るに至り、翌八年には京城府東大門外に朝鮮製絲株式會社百釜、大邱に朝鮮生絲株式會社三百釜、片倉製絲場二百釜の新設ありて、朝鮮製絲業の一大勃興を見るに至つた。然るに大正九年の春以來經濟界の激變に逢ふや、斯業も亦尠からざる打撃を蒙り、且つ經營その人を得ざりし爲め、全北繭絲合資會社、及び齊藤製絲會社は、何れも事業中止の已むなきに至つたが、他の製絲業に於ては今尙ほ相當の成績を擧げつゝある。次に朝鮮産生絲の品質に就いて見るに、内地生絲に比しその品質は一般に優つて居るものゝあることを認むるも、獨り小節多きは遺憾とする所である。その原因は種々あらうが、主として乾繭の不良に歸せねばならぬ。故に完全なる乾繭を爲すに於ては容易に之れが缺陷は補はれやう。これが經營狀況を見るに、現時産繭の各地に點在せる爲め購入費夥しく、且つ工女募集に多大の費用を要するを以て、尙ほ稍經

營難の傾向があるが、向後産繭額の増加を見るに至らば、製絲業の將來は益々有望である。

柞 蠶 繭

朝鮮の中部以北の地は、柞蠶業の旺盛なる對岸滿洲地方と風土酷似せると共に、柞蠶飼料の楮、櫟、榲等繁茂せるもの尠からず、且つその經營には資本、勞力を要すること比較的少くして相當收益あるを以て、始政當時、總督府にては、勸業模範場をして柞蠶の調査研究を行はしむると共に、年々蠶種の無償配付、國費の補助等を行ひ來りしも、元來柞蠶飼育は蠶兒を山地の自然木に放置するものなるを以て、天然的障害を排除し又は防禦するの手段なく、従つてその豊凶は常ならず、且つ當業者の育蠶技術幼稚なりしと、その經營方法適當ならざりし爲め、漸次飼育を廢止し、目下平北の一部に於てのみこれが飼育を行ふのみである。柞蠶絲は大正二年頃、義州に會社組織にて國費及び地方費補助の下に經營したものが在つたが、大正九年には該會社解散となり、後ち義州にまた會社組織を以て斯業を營むものが出來た。朝鮮に於ける柞蠶業は平北以外の他道にては未だこれが發達を見ざるも、飼育に適する林地は頗る多きを以て、その技能經驗を有する者の經營を行ふに於ては、相當の成績を擧げ得べき見込がある。

棉 花

朝鮮の風土は棉花の栽培に適し、古來各道に亘り廣く所謂朝鮮在來棉の栽培が行はれて來た。その種類は一種であつてハロー、トレーの分類に依れば、ゴシビユウム、ハーバシウム種に屬し、支那棉、印度棉、日本棉等の東洋棉に酷似し、收量、繰綿歩合共に多からず、爲めに専ら自家用として地木棉の原料及び中入綿等に供せらるゝも、機械紡績原料としては品質優良ならざるを以て、明治三十七年以來可紡價值の多き、米國種陸地棉キングス、イムブルード種を試作した。その結果南鮮地方に適することを明かにしたので、これが栽培を京畿道以南の各道に奨勵し、今や陸地棉は著しく普及して、地方に依つては農民の經濟を緩和し、商工業の發達に貢獻するに至つたので、將來一層その生産増加に努むると共に、在來棉の適地たる西鮮地方に對しては、専らその栽培を奨勵し、益々朝鮮棉花の産額を増加し、以て内地に於ける紡績原料の一部を補ひ、一面鮮内農家の經濟の向上を圖り、且つ朝鮮に於ける重要特産物として産業上貢獻せしめんとする計畫の下に斯業の發達を期して居る。

朝鮮に初めて棉花の栽培が行はれたのは、高麗朝の末葉であるらしいが、李朝になつてからも、往時に於ける交通の不便と家計的經濟の要求とに依つて、自家用の目的を以て各農家のこれを作付するもの逐年

増加し、咸鏡北道を除くの外全鮮に擴るに至つた。在來棉栽培の増加に伴ひ、明治三十四年初めて内地へ移出せられ、太絲紡績混棉材料として相當價值を認められ、偶々明治三十七年木浦日本領事館在勤の若松領事が、同港の對岸高下島に、朝鮮在來棉に較べ紡績的價值の大なる米棉キングス、イムブルード種を試作せしに、其の成績見るべきものありしを以て、遂ひに此の新品種の栽培を奨勵することとなり、朝鮮に於ける陸地棉栽培の端緒が開くるに至つたのである。

明治三十八年に至り、原敬、野田卯太郎、大石正己等相謀りて棉花栽培協會を發起し、農商務省と交渉の結果、更に試作を農事試験場に委託せしめ、試験の結果成績見るべきものがあつたので、その栽培を舊韓國政府に建議した。舊韓國政府はその建議を容れ、明治三十九年より同四十一年に至る三年間に十萬圓を支出し、全羅南道に棉採種圃を置き、且つ繰綿工場を設け、收穫物より得た棉種子を一般に配付することとなり、同四十一年臨時棉花栽培所を設置し、棉花栽培事業の全部を舉げて政府の直營に移すに至つた。

陸地棉栽培開始以來六箇年の經驗成績に鑑み、南鮮六道は陸地棉の栽培に適することを認め得たので、茲に棉作擴張計畫の樹立を見、大正元年より六箇年を期し、栽培面積を十萬町歩に擴張するの目標を以て(一)道及び主要郡に棉作に經驗ある技手を配置し、栽培の指導に従事せしめ、(二)在來設置の棉作組合の

改善及び新に棉作組合を作らしめて、必要に應じ補助金の下附を行ひ、又は農工銀行より低利資金の融通をなさしめ、(三)種子の無償配付をなし、(四)棉花の共同販賣を行ふ等極力増産に努めたのである。

以上は第一期の擴張計畫であるが、大體に於て豫期の成果を擧げたるも、尙ほ有利に栽培し得る餘地が少くないのと、一面内地市場に於て取扱はるゝ朝鮮棉の量少きに失し、品位相當の聲價を發揮するに至らなかつたので、今後生産額を増加するの必要益々切實なる事あるを認め、大正八年より十箇年を期し、南鮮六道には主として陸地棉を、京畿道及び西鮮三道には在來棉の栽培を獎勵し、作付段別に於て陸地棉十萬町歩、在來棉三萬五千町歩を擴張し、既往の擴張面積とを合せて總面積二十五萬町歩に達せしめ、尙ほ同時に栽培法の改良を圖り、生産棉花を約二億五千萬斤(實棉量)に達せしめんことを企圖し、生産棉花の半量を朝鮮内に於ける紡績原料その他の用途に充て、朝鮮に於ける棉花の自給自足を圖り、残りの半量を内地に移出し、内地棉業界の期待せる十萬俵以上の供給をなし、以て紡績原料需要の一部に充んことを期し、年額約三十萬圓の國費を支出し、その一部を以て技術員を配置し、大部分を地方費に補助して前記の獎勵業費に充て、地方廳は更に經費を附加し、棉作獎勵に使用して居るので、これ等の施設に要する公費は五十萬圓の巨額に達するのである。

農民の生産せる棉花は陸地棉に在りては多く共同販賣法に依り販賣せられ、在來棉は産出が多くないの

で生産地に於て大部分自由販賣が行はれる。共同販賣に依るものは棉作組合斡旋の下に、一定の場所に於て棉作組合員たる農民の棉花を、仲買人又は繰綿工場を經營する棉花移出商に販賣する方法なるを以て、買受人は一箇所にて多量の棉花を買収するの便がある。西鮮地方の在來棉主産地に於ては、その集散少からず、地方小仲買人に依り買収され、更に地方の需要者又は棉花移出商に轉賣される。移出商の買入高は實棉にて百萬斤以上に達し、繰綿の上移出するを常とする。木浦は米の群山に對し棉の木浦と稱せられ、其の取引高並に移出高は全鮮第一である。

大 麻

大麻は織物を主とし、また草鞋、漁網、網等の原料としても使用せられ、特用作物中重要な地位を占めて居る。内地に於ける大麻の栽培は外國麻に壓倒せられ、近來著しく衰退を來しつゝあるも、朝鮮に於ては逐年多少増加の趨勢を示し、明治四十三年に於てはその作付段別一萬八千町歩餘、收穫高百七十五萬貫匁であつたが、大正十四年には作付段別二萬九千町歩餘、收穫高五百五十四萬貫匁に増加した。各道中作付段別の最も多いのは江原道にして、慶尙南道、平安北道及び慶尙北道これに亞ぎ、その他の各道も亦相當の作付面積を有する。大麻は適地を選び多量の施肥を要する作物にして、且つその用途は自家用を主

とするを以て、各戸の耕作面積は他の食用作物の如く大ならず、概して一戸當り一段歩以内に過ぎぬを常とする。従つてその生産は單に鮮内需要の一部を充たすに止まり、輸移出を行ふほどの餘裕はない。從來栽培せられつゝある大麻の品種は主として朝鮮の在來種であつて、内地種の朽木は各地で試作の結果收量品質共に在來種に優つて居るが、その栽培は全道を通じて僅かに約二百餘町歩に過ぎず、今後栽培法の改良を圖るに於ては地方に依り尙ほこれが普及の餘地はある。

従來朝鮮に廣く行はるゝ製麻法は原始的の石蒸法にして、燃料を要すること多く、且つ製品の品質を低下せしむるの缺點あるを以て、始政後各主産地に於て箱蒸法を奨励し、これが改良を圖りたる結果、地方に依り相當の効果を收めたけれども、未だ廣く一般には普及するに至らない。

苧 麻

苧麻は氣温の關係上、南鮮地方にのみ栽培せられ、明治四十三年には僅に四萬七千貫匁の收穫に過ぎなかつたものが、年々植栽奨励の結果、大正十四年には百四萬貫匁の多きに達した。而してその栽培面積の最も大なるは、全羅南道にして、忠清南道及び慶尙南道これに亞ぎ、その他の道に於ては僅少の産額を示すに過ぎない。

煙 草

朝鮮人の煙草に對する嗜好は頗る普遍的にして、少年の頃よりこれを嗜み、中年に達すると殆んど喫煙しないものはない、随つてその消費量頗る高率を示し、これが栽培は古來普く各道に行はれて居た。舊韓國政府は煙草に對する賦課を以て一大財源と爲し、將來專賣制度を布く方針の下に煙草耕作税を制定した。同法は爾後數次の改正を見たるも、當時未だ所期の効果を擧ぐるに至らず、仍て朝鮮總督府は大正三年、煙草製造工場の設置地域を限定すると共に、製造煙草消費税を新設し、同七年更にこれが改正を爲し、耕作税を廢止して葉煙草消費税を設け、以て製造煙草との權衡を執つたのである。爾來時勢の進展に因り專賣實施の機運著しく促進せられ、大正十年四月一日朝鮮煙草專賣令を公布し七月一日より實施した。煙草の專賣は、完全なる製造專賣を爲すに非ざれば、所期の目的を貫徹することは不可能であるが、朝鮮の民度慣習等に鑑みるときは、直ちに決行することを得ないので、先づ煙草の製造を政府の事業とし、幾多の例外を認め漸を逐ふて制度の完璧を期することとした。大正十三年度に於ける收納葉煙草の耕作人員は八萬二千二百五十五人、この耕作組合數三十八、耕作面積は一萬一千九百七十一町九段歩である。而してその葉煙草收納高は朝鮮種百八十三萬四千二百三十二貫、内地種四十八萬九千八百十八貫、外國種六十萬五千

六百九十一貫、總計二百九十二萬九千七百四十一貫に達した。葉煙草の生産高(自家用を除く)は製造原料その他の需要數量を超過して居り、且つ專賣令の實施に際して徵收したる葉煙草亦多量なるのみならず、各地に散在する耕作地中不適當のものも尠くないので、これ等の不適當なる産地を整理し耕作を必要の程度に制限したる結果、大正十一年度には二千二百三町歩餘、大正十二年度には四百四十町歩餘の耕作面積を減少した。また一面に於て從來僻陬の地方民に全葉喫用として拂下げたる葉煙草の代用に、價格の低廉なる荒刻煙草を製造供給したところが、一般の嗜好に適したるものと見え、需要旺盛にしてその所要原料著しく増加したるを以て、大正十三年度に於ては現産地及び現産地に接續し、將來産地として發達の見込ある地域に於て三千六百五十九町歩餘の耕作面積を擴張して、葉煙草需給の圓滑を圖つたのである。今大正十三年度の耕作面積を大正十年度に比較するに一千十五町歩餘を増加した。

朝鮮に於ける煙草の製造は、日韓煙草商會が京城に於て、明治三十六年中、口付紙卷煙草、刻煙草の製造を開始したるを嚆矢とし、爾來これが製造に従事する者各地に續出し、煙草專賣實施當時に於てその數三十有餘を算するに至り、その主なるものは東亞、朝鮮兩煙草株式會社(前者は明治四十二年後者)である。就中東亞煙草株式會社は大正二年英米トラスト退去の後、廣江、大石兩商會の事業を買収するに及び、その製造能力全鮮需要高の八割以上を占むるの盛況を呈した。專賣局に於ける煙草の製造は、專賣實施と同時に

京城・全州・大邱及び平壤に於ける東亞煙草株式會社その他の主なる民間煙草製造工場、並にその器具機械を徵收して、當該專賣支局の工場に充當し、大正十年七月二日よりその作業を開始した。然るに徵收工場は設備頗る不完全にして、事業開始と同時に應急的補足改善を加へたが、製品の改善、職工の衛生及び能率の増進上遺憾の點尠からず、殊に事業の擴張に伴ひ狹隘を告ぐるを以て、漸次根本的改造を必要とし、差當り設備最も不完全なる大邱工場の改造急を要するを以て、同地に最も進歩せる理想的の工場を新築することとし、大正十一年度初起工、同十二年度末竣功、同十三年度初期より作業を開始した。製品は口付敷島・朝日・松風・兩切ジョーシー・カイダ・ビジョン・マコー・メーブル、細刻サツキ・アヤメ、荒刻長壽煙・鷲煙等にして、大正十三年度に於ける煙草製造數量は、口付紙卷煙草八億五千三百餘萬本、兩切紙卷煙草三十一億八千五百餘萬本、細刻二萬餘貫、荒刻百一萬七千餘貫に上つた。

煙草の販賣事務は京城・全州・大邱及び平壤の四支局、仁川外二十三出張所及び春川外八派出所、計三十七官署をしてこれを取扱はしめ、その管内煙草元賣捌人に現品を賣渡すこととし、煙草元賣捌人は製造煙草と葉煙草と各別にこれを指定し、製造煙草元賣捌人六十三名、その營業所數三百九十六箇所に達した。大正十三年七月一日更改したが、大部分從來の元賣捌人を繼續指定したるものである。その内十六名は會社組織(内十五名株式一名合資)、二十一名は組合組織、七名は匿名組合組織にして、他の九名は個人である。葉

煙草元賣捌人も大正十三年七月一日更改したが、製造普及と共に全葉喫用者は漸減し、從來の如き多數の元賣捌人の必要を認めず、繼續指定を希望する者の中より三十七名を指定し、營業所數八十四箇所に達し、内會社組織二名(株式一名)、組合組織六名、個人二十九名である。專賣施行前煙草稅令に依り免許を受けたる煙草卸賣業者、及び小賣業は、悉く專賣令に依り小賣人に指定したるものと看做したる結果、市街地集團地に密集し奥地に少なく、且つその後の移動整理に未済の點が多かつたのを、大正十三年七月一日指定更新に際し、市街地集團地は整理して配置を完成し、奥地の配置に對しては種々の施設計畫を樹て、達成に努めたる結果、年度末には小賣人員五萬九千二百十名となり、全鮮の各里洞毎に一名配置の第一期計畫の九割迄進行し、その完成と共に第二期計畫を樹て販賣網の完成を期して居る。專賣局に於て販賣するものは、製造煙草及び葉煙草の二種にして、製造煙草は本局に於て製造する煙草の外、外國に於て製造する葉卷・紙卷・刻煙草、並に内地專賣局に於て製造する刻煙草中、白海以上の上級品、臺灣專賣局に於て製造する葉卷煙草を輸入したるもの、葉煙草は收納葉煙草の中より賣渡すのである。大正十三年度に於ける賣渡實績は本局製品口付紙卷煙草九億五千九百萬本、兩切紙卷煙草三十一億九千九百萬本、刻煙草九十六萬五千八百貫、此の賣渡價額二千三百三十五萬六千二百四十八圓、移入刻煙草四千七百四十貫、此の賣渡價額十一萬二千六百五十五圓、輸入煙草各種七萬四千六百十九圓、製造煙草賣渡價額合計二千五百五十

四萬三千五百二十二圓にして、葉煙草の賣渡高は十一萬八千七百九十貫(内輸出四萬八千九百二十六貫)、此の價額三十二萬一千六百五十四圓(内輸出十萬六千三十一圓)である。

人 蔘

人蔘は五加科に屬する多年生の宿根植物にして深山中に自生し、往々數百年を經過せるものを發見することがある。其の原産地は朝鮮及び滿洲にして、野生のものを山蔘と稱し、其の年齢の多き程醫藥上偉效ありとなし、古來東洋諸國特に朝鮮及び支那に於ては、萬病の靈藥として尊重せられて居る。山蔘の採取せらるゝこと多きに從ひ、次第にこれを得ること困難となり、遂ひにこれが栽培の開始せられ、現今の隆盛を見るに至つた。朝鮮は咸鏡北道を除く外到處其の栽培を見ざる地なきも、著名なる高麗人蔘を産するは開城附近にして、紅蔘原料採取區域は京畿道、黃海道、平安南道に亘る九郡一帶の地である。從つて該地方は其の栽培法が最も進歩して居る。普通移植より五年目の秋、即ち六年根を九月下旬より十月中旬に採掘するもので、畦の一方より順次採收し特に根の損傷せざるやうに注意し、直ちに風の當らぬ小舎に運び、これを秤量し適當に荷造して、專賣支局開城出張所に搬入し、片級を區分して納付するものである。採掘したるまゝの人蔘を水蔘と稱し、これを用ひて白蔘、又は紅蔘を製造する。水蔘を日光にて乾燥した

るものを白蔘と稱し、南鮮地方には曲蔘と名け脚尾を彎曲せるものがある。紅蔘は政府の専賣に屬し、民間に於ては其の製造、販賣、輸出入することを得ざるもので、専賣局開城出張所に於て秋期に製造を行ふ。元來白蔘も紅蔘も形體の大なるを貴び、二十片、三十片等の稱呼を用ゐて、其の品位價格を區別して居る。是れ一斤(百六十匁)に對する本數の謂ひにして、紅蔘は普通五十片品を最小とし、それ以下のものは紅蔘に製造しないのであるが、白蔘には二百片に及ぶものが尠くない。

開城郡外八郡の特別耕作區域内に於ける水蔘は悉く政府に納付せしめ、形態劣悪なるもの又は病害品の如きは、これを納付者に還付して白蔘に製造せしめ、其の政府に收納したる水蔘に對しては、所定の賠償金を交付することになつて居る。賠償價格は最低一斤(二百匁)金四圓八十錢より、最高金十七圓三十錢である。

人蔘の耕作に付ては、一般白蔘に製造するものとこれを區分する爲め、明治四十一年、開城、豐德、長湍、兎山、金川、瑞興、平山、鳳山の八郡を人蔘特別耕作區域と指定し、次て大正二年、平安南道中和郡、黃海道黃州郡、遂安郡の三郡を追加し、翌大正三年三月府郡廢合の結果、更に左の如く指定した。

京畿道 開城郡、長湍郡

黃海道 金川郡、瑞興郡、平山郡、鳳山郡、黃州郡、遂安郡

平安南道 中和郡

特別耕作區域外に於て産した人蔘は府郡島の管轄に屬し、白蔘の原料に供せられる。特別耕作區域外の人蔘多産地としては、忠清北道の丹陽、慶尙北道の豐基、全羅北道の錦山地方が著名である。

特別耕作區域内に栽培した人蔘は、秋季に於て其の成育した六年根乃至七年根が、採掘の上耕作者より専賣支局開城出張所に納付され、掘り出した儘の生人蔘即ち人蔘は、收納室を経て鑑定室で係員の鑑査を受け、合格品は秤量して洗蔘室に廻り、合格のものは一定の賠償價格で收納され、不合格のものは後蔘と稱し耕作者に還付される。鑑査に合格の水蔘は洗蔘室で洗ひ、蒸蔘室で蒸し、乾燥室で乾かした上、更に日光乾燥をなすと自然に飴色を帯びた紅蔘となる。それを更に調理室で、根や枝根を去つて完全な紅蔘に仕上げ、二重箱に入れ、包装をして、更に大箱に入れ、拂下げられるのである。紅蔘は天蔘と稱し、下等のもものは地蔘又は喫蔘と稱せられ、枝根や細根は、大尾、中尾、中々尾、夾尾、細尾と稱せられて居る。

白蔘 白蔘は前記の不合格品、及び特別耕作區域外に於て産したものを原料として製造したもので、開城蔘業組合は大規模の共同白蔘製造場を有し、收納の際不合格として還付された水蔘を、水で洗ひ、皮を剥ぎ、日光乾燥をして白蔘となし、組合の検査を受け、「レツテル」を附して市場に出すのである。

紅蔘 紅蔘は政府の専賣事業にして、朝鮮總督府専賣局開城出張所に於て製造を行ひ、包装を施して市

場に出すのであるが、その特約拂下を指定競争入札に付し、隆熙三年度（明治四十二年）より五箇年間に三井物産株式会社と契約し、更に大正三年度より三箇年間に、大正八年度より三箇年間に、大正十一年度より五箇年間に引き継ぎ拂下の契約をした。

粉末紅蔘 紅蔘は政府の専賣に屬し、専ら支那に輸出せられ、日本内地及び朝鮮に於てはこれが供給を行はなかつたのである。ところが最近紅蔘の效能に就き、専門學者の注目研究する處となり、其の效驗噴々として傳唱せらるゝに至り、内鮮人の渴望する者多きに拘らずこれを得るの途なきを以て、其の服用に輕便なる粉末となして、内鮮人を限り廉價に供給することとし、大正六年以降三井物産株式会社をして一手にこれを販賣せしむることとした。

蔘精 紅蔘製造の副産物たる蔘精は從來殆んど顧みられなかつたが、近年種々なる試験研究を重ね、其の醫藥的效果の顯著なるを認めてこれを廣く世に紹介するや、大に好評を博して頓に其の需要を増進し來り、大正六年三月より開城蔘業組合をして一手販賣を爲さしむることとした。

而して紅蔘の普通賣下値段は、本蔘一斤約八十圓内外、喫蔘約四十圓内外にして、白蔘の普通値段は一斤約八九圓から十六七圓で、尾蔘は六圓内外であるが、それが支那などに輸出されると忽ち數倍の價格となり、高麗人蔘は、花旗蔘（米國産）の約五倍、東洋蔘（内地産）の約十倍、關東蔘（滿洲産）の約十五倍位

になつて、他の追隨を許さぬ聲價を有して居る。

繩 叭 蔴

由來朝鮮に於て使用し來りたる叭は、藁を以て編みたる菰様の袋にして、長途の輸送に使用する包装としては、中途内容物の脱漏するもの多く、且つ重量過大にして甚だ不便なりしを以て、一般に改良叭の必要を認めたと、穀物輸移出量の増加、其の他各種産業の發達に伴ひ、其の需用を増加し、年々數百萬枚の移入を見るに至りたるに依り、朝鮮に於てこれが製作を獎勵するに至つたのである。また繩及び蔴に付も、在來品は品質不良且つ製作法の拙劣なる等の缺點ありて、到底需用の増加に應ずること能はず、内地産品の激増を見るに至りたるを以て、叭と同様製作の獎勵を開始した。

本業の獎勵に關する當局の施設としては、（一）叭及び蔴の製造に關し蔴織機の普及と共に傳習會を開催し、一箇所に付數日間に亘り其の製法を傳習し、特に叭に付ては品質を一定する爲め製作標準を定めて一般に示し、主なる生産地には標準品を備へて生産品の統一に便し、（二）叭の製織に要する器具に就ては手織機台、箴の無代配付を爲し、或は補助金を與ふる等極力これが普及に努め、（三）繩叭の主産地に於ては一郡或は數郡を區域として生産組合を組織せしめ、生産數量の増加、生産品の検査、共同販賣等に當らし

め、(四)生産品の検査は道にて定めた検査規則に基き、又は道監督の下に組合規定に従ひ標準を定めて施行して来た。然れども總督府は各道の検査標準區々に亘るを惧れ、各道をして標準品を統一せしめることにした。繩吠の検査に際しては一定の手數料を徴して、組合の維持其の他の經費に充てしめて居る。

繩吠の獎勵は全羅南道を最先とし、大正元年の頃より着手し、大正四、五年の頃より、各道に於ても其の獎勵に努めた結果、全南は勿論全北、慶南北、忠南北、京畿、平南北の各道は主産地と目せらるゝに至つた。而して其の生産數は改良吠に至りては二千萬枚に近く、獎勵着手以前の二十倍餘に達し、鮮内消費額の九割餘を占めたことある内地吠は今日に至りては二割餘に下つた。また繩は三千五百萬貫にして、往年の産額に二倍し、内地産移入繩の使用一割に達したものが、現在では二分又は三分に下つた。今や繩吠共に移入を防遏して自作自給の實を擧げ、進んで滿洲方面へ相當輸出を見て居る。

莞 草

莞草(莞草)は朝鮮特有の作物にして、在來農家の自用する莞簾の原料として各地に栽培せられたが、内地との交通頻繁を加ふるに及び、草履其他各種の用途に利用せらるゝに至り、累年産額を増加し、大正十三年中の收穫高は百十八萬餘貫に及んだ。慶北、忠北、京畿、忠南、全南の各道は何れも十萬貫以上

の産額を示してゐるが、其の他の道は未だ多くない。莞草の栽培は春季四、五月頃、畚苗代の一部適當の場所を選びて播種し、苗を育成して六月下旬頃本田に移植する。本田は畚の一部にて、用水取入口或は下水の流入口を選び、又は家屋の附近、便所の傍ら等の濕地を掘り下げて栽培することがある。八月中下旬に至り刈取列織し、乾燥して蓆蓆等の製造に供せられる。各道生産の莞草は大體其の道内に於て消費せられ、他道に移出する餘裕があるものは少い。

牛

朝鮮の牛は其の起源が詳かでないが、種類は支那の黃牛と同祖に出で、これが歴史亦極めて古く、新羅朝智證王の時州郡に命じて始めて牛耕を用ひしめ、高麗朝には屯田牛を置き、李朝世祖の代には農牛官給の例を啓き、或は醫生四人をして養牛法を習はしめ、其の他耕牛の必要を諭し、耕牛不足の時には、官牛、屯牛の配給を行ひ、或は屠殺を制限したるが如き、牛を重要視したる事例は史上に多く散見する。耕牛を重要視したのみならず、耕牛補給の機關として牛市の開設も各地に行はれ、共同購入或は増殖を目的とする牛契の習慣あり、更に細民に耕牛を得させる爲めに、富豪の所有牛を貸與し、或は農耕期に臨時借牛するなどの習慣は古くより行はれて来た。また牛肉を食する習慣も古く、祭祀吉慶は勿論日常の食膳に

も供し、内臓、血液、骨すらも賞味する處がある。

牛は朝鮮全道に亘り普く飼養せらるゝが、其の分布の度は未だ一様でない。農家戸口數に對する比例より見て、平北、江原、咸南北の四道は最も多く、全南北、忠南等は少い。これに反し耕地面積に對する濃度は慶南北が最も密である。これを要するに耕牛としては北鮮より東海岸に沿ふ山地帯に豊なるも、西鮮、南鮮の耕地帯は貧弱にして、其の半にしか過ぎない。

朝鮮牛は同一原種に屬し體型概ね一樣にして、牡は大き四尺乃至四尺六寸、牝の大き三尺八寸乃至四尺四寸であつて、概して京城以北は大に、以南のものは小さい。朝鮮牛として世に其の名を有するは西北鮮牛にして、平壤附近のものは平壤牛と稱せられ有名である。角は一般に短大にして蒙古原種と著しく異なる。毛色は赤毛を主とし、黒毛、縹毛等あるも少い。被毛の長短は南北に依り差あり、密度もこれに伴ひ赤毛々皮用として通例京城以北のものを好適とする。牛の飼料は稻藁、粟稗を主とし、これに菽莢、粃穀、稗糠等を加へ、夏季は専ら青草を採らしめ、耕作期には多く大豆を與へ、一般に煮熟して一日二回乃至四回に飼與する。飼槽は刳木の大きなるものを用ひる。牛舎の構造は南部は一般に簡粗にして、納屋又は住屋の外壁に沿ふて設くるも、北部に於ては住屋の一部を畫し、屋内温突の燃口に面して飼槽を横へ外方に向けて小なる出入口を設けてゐる。飼料以外牛體の保護として、寒地にては冬季莖にて背を被ふことの外特

に手を加ふること少きも、近來は梳拭手入を行ふものもある。朝鮮牛は性質温順にして體質强健、殊に持久力に富み、農家の役畜として最も理想的なものに近い。蓋し從來朝鮮に於ける力役は農耕にホーミを用ひ、運搬に擔軍を利用する外、耕作に運搬に専ら牛力に依り、其の利用範圍極めて廣く、農耕には犁を主として用ひる。南方は單用し、北方は多く牝牡を駢用する。何れも頸上に轆を懸けて牽く、運搬には南は多く駄用し、北は轆用する。駄鞍は粗大にして鞍褥は藁製莖を用ふること多く、肥料土砂等の運搬には牛脊を用ひる、一頭の負擔量は三十乃至六十貫、通例四十貫、牛車は地方に依りて異り大抵二輪車なりしが、近來四輪車、台車等を用ひる。

農家の牛を使用するは年約百日乃至百八十日とし、春より秋は専ら耕作に用ひ、冬は必要に應じて運搬に供する。南部は多く蹄蹄北部は蹄鐵を多く用ひ、蹄鐵は薄き鐵片を内外兩蹄趾の外側に釘着し、其の形式は頗る簡單である。

朝鮮に於ける牛は農家の必須用畜なるのみならず、古くより牛市發達し、これが賣買は極めて自由にして、農家の金融上に便利なるが爲め牛の賣買は頗る盛んである。牛市場は月六回開市されるもの多く、各地の市場は交通順路に従ひ順次開催されるから、牛を賣買せんとする農民は市日を待ちて賣買し、また牛商人は順次轉々と市場を巡つてこれを商ふ。市場には居間と稱する仲介人ありて賣買兩者の間を斡旋する

のであるが、各居間は専門的に従事する者、農商業者の傍らこれを營む者もある。取引方法は總て居間の仲介により、相互商量に任ずる普通とし、糶賣の習慣はない。従つて其の間に居間の私利を恣にする弊害がある。大正三年市場規則公布の後は、經營者は地方公共團體に限られ、畜産組合は特に市場に於て取引の仲介を爲すことを認めらるゝに至つた。現在牛市場數は全鮮を通じて七百餘、一箇年の出場頭數二百三十萬、賣買頭數五十七萬以上に達して居る。

内地への移出牛は年々其の數を増加して居るが、内地向移出牛の仕入は鮮人牛商を介して行はるゝものがあり、内地商人の直接奥地に入り込み買入るゝものもある。南鮮地方のものは陸路釜山へ送られ、西鮮地方のものは陸路鎮南浦、或は鐵路釜山へ送り、北鮮地方のものは陸路清津、元山等より船積にて移出される。露西亞への輸出は一時盛況を呈したが、西伯利動亂後全く衰へ、支那へ向ふものは安東縣方面を主とし年々千餘頭に及んで居る。牛は朝鮮の農業組織上必要缺くべからざるもので、其の在來種は性質温順、體質强健、殊に持久力に富み、飼養及び管理容易なる爲め、朝鮮農家の用畜として殆んど理想的であるばかりでなく、其の肉味優良なるを以て、内地に於ても役肉用として聲價が高い。朝鮮總督府に於ては始政以來専ら其の改良増殖に意を用ひ、朝鮮牛種の保存、保護、種付の獎勵、妊牛及び犢屠殺の取締、獸疫の豫防、移出牛の檢疫等を主とし、これが保存獎勵に努めて居る。

牛 皮

朝鮮に於ける牛皮に就いては、文獻に徴すべきものなきも、古來皮革の利用せられたる遺跡より推考すると、數百年前より利用せられたことが知られる。始政以前に於ては其の輸出數、明治三十二、三年頃より年額六十七萬圓に達し、主として日本内地及び支那、露國に輸出して居た。然しながら其の品質は鞍傷、挫傷、烙鐵痕あるの外、剥皮法も亦拙劣にして損傷多く、其の乾燥法は生皮を道路に布き、通行人をして之を踏まして、曝乾する状態であつたので、品質は一般に甚だ劣等たるを免れなかつた。

依つて總督府は地方廳をして直接に、又は各郡の畜産組合をして、牛皮改良組合を組織せしめて、其の地方の生産牛皮の改良を圖り、主なる地方には曬乾皮製造所を設置せしめて獎勵し、屠夫教育の爲め時々講習會を開き、管内畜産技術員の爲めには會同の機會を利用し、特に専門技術者を聘して講演を行ふの外、左の如くこれが改良に努めさせることゝした。

(一) 鞍具を改良し裝鞍法に注意せしめて鞍傷痕の原因を除き、牛舎の清潔及び皮膚の手入に注意せしめて寄生蟲性病患を豫防し、糞塊の附着による所謂糞焼けを防ぐこと。

(二) 在來牛醫を教育訓戒して、彼等の慣用する鍼療烙鐵等の濫用を禁ずること。

- (三) 剥皮法及び剥皮刀を改良し傷痕を防ぐこと。
 - (四) 鹽乾皮製造法を獎勵して牛皮保存法を改良し龜裂損傷を防ぐこと。
 - (五) 乾燥法を改良し蹂み疵爛疵等を防ぐこと。
 - (六) 捲き方折疊方を改良し龜裂損傷を防ぐこと。
- に努めた結果、近來效果の見るべきものあり、即ち改良牛皮は其の數量に於て牛皮生産總額の四十五%、價額に於て五十二%に達し、殊に忠南、慶南北の如きは殆んど其の全部を改良し、其の他に於ても著々改良の實を擧げてゐる。

馬

在來の朝鮮馬は體格極めて矮小である。この種の由來に就いては文獻の憑るべきものが無いが、その存在の古きこと、遠き以前よりその體格の矮小であつたことは記録に依つて察せられる。一説には古の朝鮮馬は總て矮小なものゝみではなかつたが、時々支那より貢馬として良駿を抜かれたる爲め、矮小なものゝみ残つたのだとある。明代に貢馬の盛んであつたことは史上に明かで、この説も亦全く無關係ではあるまい。現に朝鮮に於ける産馬は全羅南道濟州島、咸鏡南道及び咸鏡北道に多いが、これ等の地方は古くよ

りその名が著はれて居る。李朝以前は常に馬政を以て國の重事となして居たが、末世に至り國勢の衰頽に因り各官牧は全く廢滅に歸し、今は僅に民間の産馬としてその餘喘を南北兩鮮の端に止むるのみである。由來朝鮮馬は全く兵用、官用を目的として生産を圖られたもので、民間に在りては僅に山間險路の小貨運搬、旅行者の乗用若は祭葬儀禮の用に供せられたのみであつた。これが産業上に利用されしことは極めて尠く、その體格の如きも單に矮小な上に、失格、缺點多く、見るに足るべきものは甚だ稀である。唯在來鮮馬の特徴と認むべきものは體格の小なることゝ、その矮小なる割合に力の強い點にある。

日韓合併以來總督府に於ては産馬の改良に種々施設を行ひ、蒙古牝馬を基礎とする新朝鮮馬を造る目的の下に、江原道蘭谷に牧馬支場を設け、咸鏡北道産馬改良の目的を以て、同道地方費經營の下に雄基に種馬所を設置し、その他民間に於ける貨物運搬用挽馬の需要増加せし機に乗じ、益々これが輸入の便宜を圖り、成るべく多數の馬を朝鮮に輸入せんが爲め、大正八年以後はその輸入税を廢し、また鐵道運送には特定の低減運賃を設くる等種々なる施設を行つた。民間に於ける馬匹思想の勃興は近來頗る著しく、京城、大邱、釜山、平壤、雄基等の乗馬俱樂部、若くは競馬會の如きは非常なる盛況を呈し、挽馬の需要も次第に増加の趨勢に在るから、これを助長するに於てはその將來は甚だ多望である。

豚

朝鮮には古より豚を養ひ、農家の副業としてこれを奨励されたことが記録の中に散見する。古老の言に依ると、四十餘年前までは其の數現在よりも多かつたと云ふが、事實は固より明かでない。其の種類は黒色にして、體格極めて矮小、體量六貫乃至十貫を出せず、頭長く尖りて肚腹徒らに垂れ、成熟晚く肥臚性を缺き、恐らく豚種中最劣等で、經濟的價值甚だ少きものに屬して居る。只體質は強健にして、蕃殖力も亦盛んであり、其の肉味は最も鮮人の嗜好に適するやうである。始政以來豚の經濟的價值を進めんが爲め、パークシャー種を入れ、これが雜種改良を奨励した。パークシャー種は奨励の初期に於ては多量の飼料を要すると、脂肪多くして肉味嗜好に適せざる等の理由にて不平の聲も多かつたが、漸次其の價值を了解し、近來は飼養希望者が次第に増加した。

改良豚の種畜は勸業模範場にて育成してこれを道種苗場に配付し、種苗場より一般に頒つこととして居たが、近時道地方費を以てそれを補ひ、或は希望者の共同購入を斡旋して居る。養豚の盛んなるは京城、仁川、平壤、大邱、馬山等にして、つまり飼料と販路との關係に依るものであり、これが奨励に付ても各地普遍的なる能はざるを以て、各道に於ては適當の地を選び、此に集中して改良豚を飼養せしむることに

努めて居る。

朝鮮に於ける養豚の習慣は、稀には放飼するものもあるが、多くは小舎内に飼養するのである。豚舎は最も立派なるものにありても、數尺の松丸太を框に二三尺組上げ、藁または松葉にて屋根を葺いた不完全なものである。飼料には多く殘菜、糠、醬油糟、酒糟、豆腐滓等を與へる。其の飼養管理は一般に非衛生的にして、且つ飼料の損失多きを以て、近年大にこれが改良を計つて居る。

鶏

朝鮮の在來鶏は其の羽毛「褐色レグホン種」に類似し、體質強健活潑にして飛翔力に富み、孵化育雛最も巧みなるも、體重軽く雄は三百五十匁内外、雌は二百五十匁内外にして、其の産卵力は一箇年僅に七十顆内外を生産するに過ぎぬ。依つて體重及び産卵力に富み、朝鮮の風土に適する「白色レグホン種」、「名古屋コーチン種」、「ブルマスマロック種」を以て改良奨励種とし、最初各地方に於て適當なる地を選び、集團的に改良増殖を奨励し、これを中心として漸次一般に及ぼすこととし、其の種禽及び種卵は、勸業模範場、道種苗場をして配付せしめ、極力奨励に努めたる爲め年と共に其の普及を見るに至つた。就中集團的のものはこれを養雞模範里と唱へ、他の模範たらしめんことに努めて居る。養雞は年々發達を遂げて居る

年	比	較	大	正
同 三年	一、〇〇〇、〇〇〇	六、一七〇、七五二	一、六五九、〇九	二、九〇九、〇八八
同 四年	一、〇七五、〇六九	六、七三三、五三三	一、六九〇、〇六一	三、四〇四、〇三
同 五年	一、一〇七、〇三八	六、五三七、〇六七	一、七〇〇、〇九七	三、〇一〇、〇六六
同 六年	一、一四四、〇〇八	六、九三三、五五五	一、七〇八、〇二五	三、〇〇八、〇七五
同 七年	一、一九一、九〇〇	七、七七八、二一九	一、九三三、三三六	三、〇七八、〇六一
同 八年	一、二〇三、七三三	七、七〇〇、〇六〇	一、六七〇、〇八〇	三、〇三三、〇三六
同 九年	一、三三三、四九〇	七、三三六、八〇〇	二、一四五、〇四一	三、〇〇八、〇四二
同 十年	一、三二七、六三三	七、六五五、五〇〇	二、一七〇、五五五	三、〇〇三、〇六五
同 十一年	一、三三三、三六四	六、八一九、七三三	二、〇五七、〇四九	三、〇〇七、〇〇〇
同 十二年	一、三〇四、六三三	六、〇〇〇、九一九	一、六七九、〇七三	二、九〇七、〇〇〇
同 十三年	一、三二七、六三三	七、一六八、〇〇〇	二、一三三、〇六〇	三、〇〇〇、〇〇〇
同 十四年	一、〇七五、〇六九	五、六三三、三三三	一、六五九、〇九	二、八〇〇、〇〇〇
同 十五年	一、〇〇〇、〇〇〇	四、七三三、五三三	一、六九〇、〇六一	二、七〇〇、〇〇〇
昭和元年	一、〇〇〇、〇〇〇	四、七三三、五三三	一、六九〇、〇六一	二、七〇〇、〇〇〇
京畿道	一〇七、〇〇七	五、六三三、三三三	一、六五九、〇九	二、八〇〇、〇〇〇
忠清北道	七九、八八四	四、七三三、五三三	一、六九〇、〇六一	二、七〇〇、〇〇〇
忠清南道	七二、八八九	四、七三三、五三三	一、六九〇、〇六一	二、七〇〇、〇〇〇
全羅北道	五五、四八五	二、五〇〇、三三三	七、七三三、五三三	一、六五九、〇九
全羅南道	一五八、七九九	一、三〇〇、一〇三	一、六五九、〇九	二、八〇〇、〇〇〇

年	十	三	
慶尙北道	三三八、六九三	一、五〇四、八一九	三、一〇一、〇一
慶尙南道	一六三、五三三	一、三三三、七三三	一、三三三、七三三
黄海道	一四三、九三三	一、二二二、六六六	七、九二七、七
平安南道	五〇、五三三	一、六三三、九九九	一、七二七、二七
平安北道	九、四三三	六、七二四、九九	三、五九八、一
江原道	六六、五三三	二、九二七、七三三	三、一〇九、〇
咸鏡南道	四七、七三三	二、〇〇八、五〇〇	三、九二七、二
咸鏡北道	四七、六三三	二、〇〇六、六六六	三、九二七、二
合計	一、三三三、七三三	七、一六八、〇〇〇	二、一三三、〇四〇

備考

一、大正八年に於ては南部地方を除くの外旱害の爲め收穫高減少せり。
 二、作付段別は單位以下の端數を四捨五入したる爲め合計がその内容と符合せざるものなり。

豆類

年次道別	種別	作付段別	收		高		價	
			大豆	小豆	大豆	小豆	大豆	小豆
明治四十三年			七〇七、五五五	二、七六六、三三三	八、八八八、三三三	三、六三三、六三三	二、九二七、二二二	五、三三三、三三三
同 四十四年			七〇七、五五五	二、七六六、三三三	八、八八八、三三三	三、六三三、六三三	二、九二七、二二二	五、三三三、三三三

朝鮮の物産

三三三〇

年	比	較	大
大正元年	八四一、三三〇	三、五六六、六三二	一、〇〇四、九六六
二年	九〇九、二四〇	三、六三三、〇四〇	一、二二二、九九五
三年	九三三、七三三	三、六三三、九七二	一、二〇〇、六六九
四年	一、〇〇七、〇三三	四、〇〇六、八八八	一、〇七五、七九一
五年	一、〇〇七、六六八	四、三三五、七七七	一、二四三、九三三
六年	一、〇三三、五五六	四、三九九、六六六	一、一九九、六六〇
七年	一、〇六六、三三六	四、六八八、三三二	一、三三三、五三〇
八年	一、〇七三、三三三	三、三〇〇、六三三	四〇〇、三三八
九年	一、〇七三、六六八	四、七七一、九七七	一、三三三、九四九
十年	一、一〇八、四〇〇	四、六九七、六八八	一、〇七四、四一八
十一年	一、二四四、六四四	四、五五五、八五五	九三三、六四七
十二年	一、二五五、六六〇	四、六二二、四七七	九八八、四四〇
十三年	一、二三三、六六八	三、六七七、六三三	六五五、九七七
十四年			六五五、九七七
十五年			一、五七四、四三三
昭和元年	一、〇二二、七七七	高四、三六六	一、〇二二、七七七
京畿道	四、四四四	一、七二〇、七二〇	二、四〇〇、六六六
忠清北道	四、四四四	一、七二〇、七二〇	二、四〇〇、六六六
忠清南道	四、四四四	一、七二〇、七二〇	二、四〇〇、六六六

年	正	十	三	合
全羅北道	四〇、八七〇	一三三、〇八八	一五、四六六	三、三六七
全羅南道	四、八七二	一九六、六六〇	二六、五九六	八、九六六
慶尙北道	一四、〇四四	五三三、八七一	一五、八七九	七、八六一
慶尙南道	六、〇〇三	三三七、五九九	三三、五九四	一、四四九
黄海道	一七五、七七七	三七六、七〇九	一七〇、四〇九	二九、四八二
平安南道	一〇九、五九九	三三三、三九九	一一二、八二七	一六、六四二
平安北道	二二、〇八一	三〇九、四四五	八七、三六五	一四、一一二
江原道	九三、三三九	二四六、一七九	五九、三三三	二、四七三
咸鏡南道	八、七九九	二八三、七三三	三三、三六九	一一、〇六三
咸鏡北道	六七、八三〇	二六二、三三五	七三、七三三	一七、一六七
合計	一、二二二、八八八	三、六五七、六三三	六三三、九〇七	一、五七四、四三三

備考

- 一、其の他の豆は落花生、綠豆及びその他を合計せるものなり。
- 二、大正八年に於ては中部以北旱害激しかりし爲め收穫高を減少せり。その最甚しかりしは、黄海、平南、平北、京畿の四道にして、咸南、江原、忠南、忠北、咸北の諸道これに亞ぐ。
- 三、作付段別は單位以下の端數を四捨五入したる爲め合計がその内容と符合せざるものあり。

第六章 農産物 雜穀收穫高

三三三一

朝鮮の物産

年次道別	種別					
	粟	稗	黍	蜀黍	玉蜀黍	燕麥
明治四十三年	三、三六六、〇〇〇石	八四、三三三石	九六、七五五石	四〇〇、九六六石	四二〇、九七六石	一七、七三三石
同 四十四年	三、六三三、六四〇	九〇、七五三六	一〇一、三六四	五二九、七三〇	四〇〇、二七五	三〇、八六六
大正元年	三、八二一、九八二	九八、七、〇〇一	一〇四、二八七	五九三、二五六	四四一、九六六	三六、一七五
同 二年	四、五七六、一〇四	九八、五、一八三	九三、〇七一	六五八、九七三	四八〇、八六三	五七四、〇九九
同 三年	四、〇四四、七三三	八七五、〇九五	八六、四〇二	六〇九、五九八	四九二、六六九	五八二、三〇〇
同 四年	四、三六三、五三三	九五一、三六〇	九〇、二六八	六二五、九五七	四九五、三〇九	七〇一、三三三
同 五年	四、八三〇、七〇〇	一、〇〇〇、八五四	九三、九八二	七二〇、二〇九	五七五、三三二	七六〇、七五五
同 六年	五、一八二、三三八	九五三、三三四	九七、五七二	七六四、三四四	五八四、六四三	七〇五、九三三
同 七年	五、六六二、九三五	一、〇四二、五九〇	一〇〇、五三七	七九三、六三二	六二四、〇三三	九四四、〇八
同 八年	三、八六二、三三三	六五四、七四四	七六、三三六	五三七、六四六	三九一、二六	四七五、〇九四
同 九年	六、〇〇五、四五一	一、〇七三、三三五	一一七、一三三	八五八、八三三	六二六、一三五	八二七、三三五
同 十年	五、八六二、六四五	一、〇七三、六三二	一一、七六〇	八二七、二四八	六二〇、八四七	九八三、四八〇
同 十一年	五、二九一、〇〇六	八八二、七九九	一一三、三九六	七〇五、九五二	五六一、六八四	九四六、五七七
同 十二年	五、二九八、一三五	九二二、七五五	一〇三、九八八	七〇五、八〇二	五〇三、〇一一	八二四、九四七
同 十三年	五、〇七三、六七七	八〇八、七五四	九八、〇四四	六八三、〇七四	四九九、六二三	七三三、四四四
同 十四年						五三七、〇三〇

年次道別	種別					
	粟	稗	黍	蜀黍	玉蜀黍	燕麥
昭和十五年	一六六、九七七	二八、六五三	二、二六	三、八五五	一、七三三	二、三三九
京畿道	六六、〇九元	六三三	四、八六九	一七、七五〇	二、一九三	九〇
忠清北道	三三、七三三	四四五	一、一五一	一〇、八三三	一、六七九	三、二七〇
全羅北道	九、七四一	四三	八九八	三、五〇一	二〇一	九、六八二
全羅南道	三三〇、八六六	二、二五八	三、三八〇	一七、七四六	三、五六八	一七
慶尙北道	二二、七三三	三、六六六	一、八五四	九、三三四	七、五三九	三、三三九
慶尙南道	二二、二七二	四、一〇四	三、〇五五	五、四九六	一、七六〇	二四
黃海道	一、〇七三、七二一	四四、七九八	七、六七六	八七、一四三	一七、四四五	一、二七四
平安南道	一、〇七三、〇三三	八二、四五六	一、九、八〇〇	三三三、〇三五	八七、七五五	三、六五四
平安北道	六四四、〇七七	一五、六六二	一五、二六八	一一三、三六一	二四四、四〇五	一五、四二六
江原道	四〇五、六六六	五九、六七九	二、五五七	一五、四六七	五九、一四四	七三、九三二
咸鏡南道	五七、三三二	三九、二九九	二、八六六	一一二、二七四	一八、七三九	六二五、八〇〇
咸鏡北道	四三、四三三	一〇一、八八四	六、八七五	三〇、七五八	二、七三二	五七、三三三
合計	五、〇七三、六七七	八〇八、七五四	九八、〇四四	六八三、〇七四	四九九、六二三	七三三、四四四

一、大正八年に於ては早魃に依り收穫高激減せり。その被害の激甚なりしは、黄海道、平安南道、平安北道にして、京畿道、咸鏡南道、江原道、忠清南道、忠清北道及び咸鏡北道これに亞ぐ。

第六章 農産物

朝鮮の物産

特用作物收穫高

年次道別	種別	
	煙草	荏菹
明治四十三年	三,三六八,七三	四,五七六
同 四十四年	二,八二六,一四一	六〇,八二三
大正元年	三,三七〇,五三五	六〇,六三〇
同 二年	三,七九三,九〇〇	六二,五三三
同 三年	二,六三三,六九九	五九,九三三
同 四年	三,六七五,二一八	六六,七六六
同 五年	三,四八九,二〇〇	六九,五三〇
同 六年	三,七九九,九四〇	七〇,三三三
同 七年	三,八八四,七〇〇	七三,二四六
同 八年	三,八三三,四四五	五〇,七七一
同 九年	四,一三五,五六九	六七,四〇〇
同 十年	三,六六六,〇〇八	七三,一七九
同 十一年	二,八二二,六八九	六〇,八四四
同 十二年	三,〇五〇,四三九	六七,四六五
比較年		
同 七年	三,八八四,七〇〇	七三,二四六
同 八年	三,八三三,四四五	五〇,七七一
同 九年	四,一三五,五六九	六七,四〇〇
同 十年	三,六六六,〇〇八	七三,一七九
同 十一年	二,八二二,六八九	六〇,八四四
同 十二年	三,〇五〇,四三九	六七,四六五
果		
大正元年	三,三七〇,五三五	六〇,六三〇
同 二年	三,七九三,九〇〇	六二,五三三
同 三年	二,六三三,六九九	五九,九三三
同 四年	三,六七五,二一八	六六,七六六
同 五年	三,四八九,二〇〇	六九,五三〇
同 六年	三,七九九,九四〇	七〇,三三三
同 七年	三,八八四,七〇〇	七三,二四六
同 八年	三,八三三,四四五	五〇,七七一
同 九年	四,一三五,五六九	六七,四〇〇
同 十年	三,六六六,〇〇八	七三,一七九
同 十一年	二,八二二,六八九	六〇,八四四
同 十二年	三,〇五〇,四三九	六七,四六五
胡麻		
明治四十三年	—	—
同 四十四年	—	—
大正元年	—	—
同 二年	—	—
同 三年	—	—
同 四年	—	—
同 五年	—	—
同 六年	—	—
同 七年	—	—
同 八年	—	—
同 九年	—	—
同 十年	—	—
同 十一年	—	—
同 十二年	—	—
莞草		
明治四十三年	—	—
同 四十四年	—	—
大正元年	—	—
同 二年	—	—
同 三年	—	—
同 四年	—	—
同 五年	—	—
同 六年	—	—
同 七年	—	—
同 八年	—	—
同 九年	—	—
同 十年	—	—
同 十一年	—	—
同 十二年	—	—

年次道別	種別	
	煙草	荏菹
同 十三年	四,三三四,三九元	七〇,三九七
同 十四年	—	—
大正十五年	—	—
昭和二年	—	—
京畿道	三三八,七五五	八,五三四
忠清北道	一,〇三一,〇六六	五,二七三
忠清南道	一,二八,〇九二	四,九九九
全羅北道	三六〇,六三四	二,三五三
全羅南道	六〇,一四四	二,九二六
慶尙北道	四五六,九一〇	三,三五〇
慶尙南道	二八五,三七五	三,六三七
黃海道	一四二,〇六三	三,一三三
平安南道	四五〇,四三三	二,四九九
平安北道	二七三,三三八	九,二四五
江原道	五三七,九八一	七,二六六
咸鏡南道	一六三,四三七	五,五七九
咸鏡北道	一〇四,三三三	一,六五四
合計	四,三三四,三九元	七〇,三九七
同 十三年	—	—
同 十四年	—	—
大正十五年	—	—
昭和二年	—	—
京畿道	三三八,七五五	八,五三四
忠清北道	一,〇三一,〇六六	五,二七三
忠清南道	一,二八,〇九二	四,九九九
全羅北道	三六〇,六三四	二,三五三
全羅南道	六〇,一四四	二,九二六
慶尙北道	四五六,九一〇	三,三五〇
慶尙南道	二八五,三七五	三,六三七
黃海道	一四二,〇六三	三,一三三
平安南道	四五〇,四三三	二,四九九
平安北道	二七三,三三八	九,二四五
江原道	五三七,九八一	七,二六六
咸鏡南道	一六三,四三七	五,五七九
咸鏡北道	一〇四,三三三	一,六五四
合計	四,三三四,三九元	七〇,三九七
同 十三年	—	—
同 十四年	—	—
大正十五年	—	—
昭和二年	—	—
京畿道	三三八,七五五	八,五三四
忠清北道	一,〇三一,〇六六	五,二七三
忠清南道	一,二八,〇九二	四,九九九
全羅北道	三六〇,六三四	二,三五三
全羅南道	六〇,一四四	二,九二六
慶尙北道	四五六,九一〇	三,三五〇
慶尙南道	二八五,三七五	三,六三七
黃海道	一四二,〇六三	三,一三三
平安南道	四五〇,四三三	二,四九九
平安北道	二七三,三三八	九,二四五
江原道	五三七,九八一	七,二六六
咸鏡南道	一六三,四三七	五,五七九
咸鏡北道	一〇四,三三三	一,六五四
合計	四,三三四,三九元	七〇,三九七

第六章 農産物

蔬菜收穫高

朝鮮の物産

年次道別	種別	
	甘藷	馬鈴薯
大正元年	二,六七一,四六六	三,八〇〇,六六九
同二年	五,六六六,三三九	五,七七,九五七
同三年	八,七九九,三〇〇	六,〇〇六,二六一
同四年	一四,〇〇七,〇七七	七,七,九四九,六三三
同五年	二〇,六六九,〇〇元	八,五,〇六六,一五七
同六年	一八,〇〇九,七六六	九,六,三三六,五〇〇
同七年	二〇,九七七,〇七五	一三,四八八,七七七
同八年	二二,三二七,八四〇	一〇,九,八六三,九七七
同九年	二五,六三三,〇〇五	一四,〇,四九九,九四五
同十年	二六,五三三,六九九	一三,三,四一六,六一
同十一年	二五,五九九,六三三	一三,四三三,六五三
同十二年	二四,四四九,五七七	一〇,七,九四六,〇六一
同十三年	二四,四四九,三三六	一〇,三,二二二,三九一
同十四年	二七,〇,九四九	一八,四五六,四五五
同十五年	二七,〇,九四九	一八,四五六,四五五
昭和元年	二七,〇,九四九	一八,四五六,四五五
京畿道	七,〇,九四九	二,七六六,七〇五

三三六

果樹優良品

年次道別	種別	
	梨	苹果
大正元年	一,三〇,三七七	四,三三,三九七
同二年	六四一,六三七	一一,三九九,四九五
同三年	八四八,一七四	七,七三三,八五一
同四年	一五,八六一,六六七	一三,一三七,五九六
同五年	四九,一四二	一三,〇七三,三六七
同六年	四,三七七,六三七	八,一九一,五〇〇
同七年	六三,一七三	二二,五六一,二八九
同八年	七五,五六三	一五,四九七,三六一
同九年	八九,八四一	一七,八五九,四八三
同十年	九七,七九〇	八,六五五,四〇五
同十一年	六一,六九九	六,六六三,五二八
同十二年	—	一,七三三,一三三
同十三年	二四,四四九,四八四	一,七三三,一三三
同十四年	二四,四四九,三三六	一,七三三,一三三
同十五年	二四,四四九,三三六	一,七三三,一三三
昭和元年	二四,四四九,三三六	一,七三三,一三三
京畿道	二四,四四九,三三六	一,七三三,一三三

年次道別	種別	
	樹數	收穫高
大正二年	五〇,三三三	二七,八七四
同三年	—	—
同四年	—	—
同五年	—	—
同六年	—	—
同七年	—	—
同八年	—	—
同九年	—	—
同十年	—	—
同十一年	—	—
同十二年	—	—
同十三年	—	—
同十四年	—	—
同十五年	—	—
昭和元年	—	—
京畿道	—	—

三三七

第六章 農産物

朝鮮の物産

年	同六年	同七年	同八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年	同十五年	昭和元年	京畿道	大正	忠清北道	忠清南道	全羅北道	全羅南道	慶尙北道	慶尙南道	三黃海道	
比較年	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
比	二四、二五、三〇五	三、六六、六九九	二六、六六、三〇三	三〇、一五、〇四九	三六、五五、〇四五	三七、二四、五五五	三六、二九、八五三	四六、八五、三二八	四六、八五、三二八	四六、八五、三二八	四六、八五、三二八	三六、二四、四九九	一三、五五、五三五	七六、八八、八八五	一、四一、五、六八九	三、四九、八七四	一、八二、二、二九六	一五、九八、五三三	九、八四、七、三三三	三六、七六、九	
較	一、四三三、九三三	三、八七九、五五九	四、五九二、四九九	五、六八三、七七五	八、七五二、一七九	九、四〇三、一〇四	一、一七五、六九二	一六、六〇〇、七六六	一六、六〇〇、七六六	一六、六〇〇、七六六	一六、六〇〇、七六六	六〇、五二〇	一、四一、五、六八九	三、四九、八七四	六、二四三、七四四	一七、七六五	五、三六四、三六四	五、三六四、三六四	五、三六四、三六四	五、三六四、三六四	
同	二四、九一〇	一七、六三八	二八、七八八	一九、四七三	一九、三〇八	二〇、〇六三	三三、五五九	九三、四〇九	九三、四〇九	九三、四〇九	九三、四〇九	一、一五〇	二、一〇〇	一、五三〇	一、八二〇	一、七九〇	一、八二〇	一、八二〇	一、八二〇	一、八二〇	
同	四三、五五四	一三、六一一	六五、九三七	五三、七二〇	一九、五〇四	一三、九六三	七、一〇五	三、五六七	三、五六七	三、五六七	三、五六七	二五〇	一、〇〇〇	二、三〇〇	一九、六〇〇	五、六〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	
同	一九、七〇六	三三、九七五	四〇、一八七	五三、〇七〇	二二、三三三	八、三三六	二、四〇六	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	一、九六二、八五	二、一〇五、〇三四	四、〇九九、五三九	二、四、三七二、四〇〇	一六、〇〇二、九四七	一五、二二三、〇三七	一五、二二三、〇三七	一五、二二三、〇三七	一五、二二三、〇三七	
同	三六、三三七、〇七	四一、三五六、八四五	三三、〇七三、三九七	三八、四〇一、八六五	四八、七九一、二九九	四六、四二四、七七四	四八、八三三、四五二	六三、八六一、六六〇	六三、八六一、六六〇	六三、八六一、六六〇	六三、八六一、六六〇	三六、二四九	一九六、二八五	二、一〇五、〇三四	四、〇九九、五三九	二、四、三七二、四〇〇	一六、〇〇二、九四七	一五、二二三、〇三七	一五、二二三、〇三七	一五、二二三、〇三七	

年次道別	種別	陸地		在來	
		收穫高	價額	收穫高	價額
明治四十三年	平安南道	二、七、七、五〇	二、四、六、一、五五	三、三、九、〇、一三六	一、三、〇、〇、一、二四
同	平安北道	七、二、六、一、三三	七、七、七、五、九	三、七、〇、七、一、三六	一、一、七、七、〇、〇
大正元年	江原道	一、三、四、四、五、一七六	一、〇、一、〇、三、九、〇	二、六、〇、三、三、七、三三	二、四、七、七、七、二
同	咸鏡南道	一、七、四、七、〇、七	一、四、五、四、二、四、五	三、三、〇、〇、一、〇、一、五	一、七、九、二、三、三
同	咸鏡北道	二、六、六、八、七、七	三、二、五、三、八、六、三	一、九、二、八、三、三、八	一、八、二、六、八、四、八
同	合 計	三、三、三、一、四、四	五、一、八、二、四、三、六	一、六、一、三、九、四、六	一、七、九、五、五、四、四
同	同	五、四、五、五、六、六、五	一、四、四、三、五、六、五	一、七、七、〇、一、四、七、六	三、三、四、三、三、三

第六章 農産物

朝鮮の物産

比較		較		比	
同七年	六〇、六八〇、九三〇	同七年	一四、六七、八六九	同七年	一七、三三、五四〇
同八年	八六、〇二四、六〇三	同八年	二七、一七、二〇七	同八年	一一、三三、七五五
同九年	八八、四六一、三九六	同九年	一〇、三三、二二五	同九年	二六、二五、六一
同十年	六七、八五七、七七一	同十年	八、七五、七三三	同十年	二七、五八、五五〇
同十一年	八八、七八、六三三	同十一年	一五、五五、三三七	同十一年	二九、九三、七三〇
同十二年	九六、八六、七三六	同十二年	三、三〇、八八一	同十二年	三〇、七二、二七三
同十三年	一〇六、九六、九七七	同十三年	二七、〇九、六六六	同十三年	三〇、九三、三〇八
同十四年					
大正五年					
昭和元年					
京畿道	三七、五二〇		九、四五三		三、三九、六一〇
忠清北道	五、三六、九三三		一、二〇四、四八八		六、七四、七五三
忠清南道	六、〇三、七〇九		一、三六、八二六		九、五、九六三
全羅北道	八、〇〇、〇七〇		一、七三、三〇五		二六、三三、五
全羅南道	五、三三、七五三		一四、六六、四四四		四六、八六、六
慶尙北道	二四、三〇、六九三		三、五五、一七三		七〇、三九、四
慶尙南道	一八、六六、〇三三		四、四八、七〇九		九
黄海道	一六七		八		五、三三、七七七
平安南道					一六、三六〇、四六六
合計	一〇六、九六、九三七		二七、〇九、六六六		三〇、九三、三〇八
平安北道					三、五三、一三三
江原道	四、〇六六		九、五		九四八、八四一
咸鏡南道	三五		八		二七、八七九
咸鏡北道					
合計	一〇六、九六、九三七		二七、〇九、六六六		三〇、九三、三〇八

備考 大正八年に於ては在來棉は京畿、黄海、平安南北、江原、及び咸鏡南北の各道に於て旱魃の被害に依り收穫高激減せり。

年次道別	種別	大		苧	
		收穫高	價額	收穫高	價額
明治四十三年	麻	一、七四九、七四〇	一、四三三、三三〇	四七、五三九	一、七四、七三〇
同四十四年	麻	二、二三三、三七三	一、七三二、〇三三	六五、〇八三	一、五七、六三三
大正元年	麻	二、五四六、五五八	二、四六〇、一七七	九五、九〇五	一、〇五、六〇一
同二年	麻	二、八五九、七〇〇	三、三三六、七五五	一〇九、九九二	一、三三、九九七
同三年	麻	三、〇三六、三三六	四、一七三、九四九	一二五、七八〇	一、四〇、三六六
同四年	麻	三、一〇〇、四四四	三、八二二、四八二	一〇六、三六九	一、四〇、三六六
同五年	麻	三、三三四、四七七	四、〇四三、〇〇〇	九六、一五六	一、三九、九二一
同六年	麻	三、九〇五、三三八	五、五三〇、三九九	九一、二二八	一、三九、三三三
同七年	麻	四、五九八、三五五	八、四三三、八二二	一〇二、六九二	一、七二、九三三

第六章 農産物

年次道別	種別		牛		馬		騾		豚		緬羊		山羊		鶏	
	年	果	年	三	年	三	年	三	年	三	年	三	年	三	年	三
明治四十三年	同	同	七〇三、八四〇	三九、八六〇	七、四三三	八二二	五、五七五	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七
明治四十四年	同	同	九〇六、〇五七	四〇、九七六	九、四四〇	三、八三三	五、七二八	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七
大正元年	同	同	一、〇四〇、七二〇	四六、五五五	一一、五八七	五、六〇〇	六、二六九	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七
同二年	同	同	一、一一一、〇一一	五〇、六五二	一三、三三五	八〇三	七、六一八	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七
同三年	同	同	一、三三八、四〇一	五三、五四五	一三、七三七	一、〇六九	七、五七〇	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七
同四年	同	同	一、三三三、五三一	五〇、六三九	一三、一八六	一、〇六六	七、六六〇	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七
同五年	同	同	一、三三三、一〇八	五三、〇四四	一〇、六三三	一、四三四	七、八〇〇	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七
同六年	同	同	一、三三三、〇六九	四九、八六〇	一一、八三四	一、八六六	八、三二〇	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七
同七年	同	同	一、四八〇、〇三七	五八、二二七	一三、一七三	二、三三三	九、三九九	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七	一、一八七
合計			三三〇、一一三	五、一三五	二六、五九六	二四三、八五三	一、六五〇	一、六五〇	一、六五〇	一、六五〇	一、六五〇	一、六五〇	一、六五〇	一、六五〇	一、六五〇	一、六五〇

家畜家禽現在高表

第六章 農産物

三四七

年次道別	種別		牛		馬		騾		豚		緬羊		山羊		鶏	
	年	果	年	三	年	三	年	三	年	三	年	三	年	三	年	三
同六年	同	同	七六、〇一一	四、六七九	一、四九四	九七、一八五	一、四九四	一、四九四	一、四九四	一、四九四	一、四九四	一、四九四	一、四九四	一、四九四	一、四九四	一、四九四
同七年	同	同	九六、二四四	五、三四五	一、七、五八〇	一一、〇六九	一、七、五八〇	一、七、五八〇	一、七、五八〇	一、七、五八〇	一、七、五八〇	一、七、五八〇	一、七、五八〇	一、七、五八〇	一、七、五八〇	一、七、五八〇
同八年	同	同	九九、一二七	五、〇〇二	一、八、一八六	一一、三〇五	一、八、一八六	一、八、一八六	一、八、一八六	一、八、一八六	一、八、一八六	一、八、一八六	一、八、一八六	一、八、一八六	一、八、一八六	一、八、一八六
同九年	同	同	一一五、八六七	四、〇九四	一、三、九八五	一三、九四六	一、三、九八五	一、三、九八五	一、三、九八五	一、三、九八五	一、三、九八五	一、三、九八五	一、三、九八五	一、三、九八五	一、三、九八五	一、三、九八五
同十年	同	同	一二三、五二五	四、四三三	一、五、七二六	一三、六五三	一、五、七二六	一、五、七二六	一、五、七二六	一、五、七二六	一、五、七二六	一、五、七二六	一、五、七二六	一、五、七二六	一、五、七二六	一、五、七二六
同十一年	同	同	一八、六六六	六、九七〇	一、七、〇五五	一四、六六一	一、七、〇五五	一、七、〇五五	一、七、〇五五	一、七、〇五五	一、七、〇五五	一、七、〇五五	一、七、〇五五	一、七、〇五五	一、七、〇五五	一、七、〇五五
同十二年	同	同	一七三、三三三	九、〇四六	二、五、三四四	一四、七三二	二、五、三四四	二、五、三四四	二、五、三四四	二、五、三四四	二、五、三四四	二、五、三四四	二、五、三四四	二、五、三四四	二、五、三四四	二、五、三四四
同十三年	同	同	二二〇、一一三	五、一三五	六、九五六	一四、三三二	六、九五六	六、九五六	六、九五六	六、九五六	六、九五六	六、九五六	六、九五六	六、九五六	六、九五六	六、九五六
同十四年	同	同														
同十五年	同	同														
昭和元年	同	同														
京畿道			一三、七六六	七、九	三、五七九	一七、〇九四	三、五七九	三、五七九	三、五七九	三、五七九	三、五七九	三、五七九	三、五七九	三、五七九	三、五七九	三、五七九
忠清北道			一四、九〇三	二、四九	一、九八七	一七、一三九	一、九八七	一、九八七	一、九八七	一、九八七	一、九八七	一、九八七	一、九八七	一、九八七	一、九八七	一、九八七
忠清南道			三、三三三	八、六九	二、六四	二、八三	二、六四	二、六四	二、六四	二、六四	二、六四	二、六四	二、六四	二、六四	二、六四	二、六四
全羅北道			二〇、一九	二、九七	二、八二〇	一三、三〇五	二、八二〇	二、八二〇	二、八二〇	二、八二〇	二、八二〇	二、八二〇	二、八二〇	二、八二〇	二、八二〇	二、八二〇
全羅南道			一五、九四四	九、九	六、三三五	三、三三六	六、三三五	六、三三五	六、三三五	六、三三五	六、三三五	六、三三五	六、三三五	六、三三五	六、三三五	六、三三五
慶尙北道			三、〇六八	七、八	三、〇八四	七、一五二	三、〇八四	三、〇八四	三、〇八四	三、〇八四	三、〇八四	三、〇八四	三、〇八四	三、〇八四	三、〇八四	三、〇八四
慶尙南道			五、五〇一	二、三	三、三三六	八、八五〇	三、三三六	三、三三六	三、三三六	三、三三六	三、三三六	三、三三六	三、三三六	三、三三六	三、三三六	三、三三六
黄海道			一〇、八二六	三、三	六〇六	一一、四六七	六〇六	六〇六	六〇六	六〇六	六〇六	六〇六	六〇六	六〇六	六〇六	六〇六
合計			七六、〇一一	四、六七九	一、四九四	九七、一八五	一、四九四	一、四九四	一、四九四	一、四九四	一、四九四	一、四九四	一、四九四	一、四九四	一、四九四	一、四九四

朝鮮の物産

三四六

年次道別	粟		豚		蜂		蜜		蠟	
	年	量	價	量	價	量	價	量	價	
明治四十三年	同	二六、六〇〇	一六、六五〇	八七、三三〇	九、八三三	四六七、二六七	一四九、五三〇	七、〇〇六	二七、〇三六	
同 四十四年	同	二七、四〇〇	一六、五〇〇	一〇〇、三三〇	二〇、六八〇	五三三、六四〇	一七、五五〇	八、三三〇	三三、三三三	
大正元年	同	二四、九〇〇	一八、七四〇	三三三、六四〇	六、五五〇	五五九、七三〇	一七、一一三	八、五七〇	三三、〇六六	
同 二年	同	二五、八四三	二八、六七二	三五四、七二五	八、三六〇	五六五、六五〇	一八、〇〇八	一八九、九九〇	三五、九九〇	
同 三年	同	二五、七〇〇	三三、八七〇	三〇四、八三〇	七、五五〇	六四三、三三〇	一五、七七七	一九六、五五五	二九、四三六	
同 四年	同	二六、三〇〇	三〇、〇一四	三六六、七〇四	八、七四〇	五五〇、九〇四	一五、七七七	一九六、五五五	二九、四三六	
同 五年	同	二七、〇六五	三五、三二八	三九六、九九元	九、九〇元	五五〇、九九三	一八、二四九	一八九、七九六	三六、〇一九	
同 六年	同	二五、四七九	四一、〇三〇	四七〇、〇六九	一一、二〇六	五五九、〇七	二六、二四九	一〇三、〇七二	五三、八四八	

第六章 農産物

三五二

年	平安南道		平安北道		江原道		咸鏡南道		咸鏡北道		合計
	年	量	價	量	價	量	價	量	價		
三	同	七六、三六八	二五、〇〇一	九六、〇九六	二二、四四八	三三、七一六	一〇、四七七	二六、八五七	一、九四三	四七、八二七	
同	同	六九、一〇〇	二五、一六二	四〇、八五六	二二、四四八	一〇、四七七	二六、八五七	一、九四三	四七、八二七	二六、八五七	
同	同	二四、八五	九、〇六五	二二、二二八	四、七六	八三、六七五	一、九四三	一〇、八三三	一、九四三	八、九四三	
同	同	五、五、六六	一、七四、九一	二七、九三七	四、七六	八三、六七五	一、九四三	一〇、八三三	一、九四三	一〇、八三三	
同	同	三、七、八〇	一、八、〇三三	二九、四四九	四、三六〇	四、六六	一、九四三	一〇、八三三	一、九四三	一〇、八三三	
同	同	六、四、八、六〇	二、五、三、二九六	五、四、四、四九四	二、七、三、三三	一、四、六、八三三	二、七、三、三三	二、七、三、三三	二、七、三、三三	二、七、三、三三	

(其の二)

年	京畿道		忠清北道		忠清南道		全羅北道		全羅南道		慶尙北道		慶尙南道		黄海道		
	年	量	價	量	價	量	價	量	價	量	價	量	價	量	價	量	價
同 六年	同	五、一七、八八三	三、三三、三三七	五、一七、〇三二	一、四三、一五八	一、二四七、四四五	一、一四七、四四五	一、一四七、四四五	一、一四七、四四五	一、一四七、四四五	一、一四七、四四五	一、一四七、四四五	一、一四七、四四五	一、一四七、四四五	一、一四七、四四五	一、一四七、四四五	一、一四七、四四五
同 七年	同	三、七三、〇五三	二、六三、〇五八	四、〇七、七六三	一、三三、六二四	九七、七九八	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七
同 八年	同	五、一八、七、七九	四、六九、六三三	六、四〇、三三三	二、三六、六二九	九七、〇八二	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七
同 九年	同	五、三三、四三〇	二、八三、六六九	六、五五、〇七四	二、七四、七六五	二、七四、七六五	二、七四、七六五	二、七四、七六五	二、七四、七六五	二、七四、七六五	二、七四、七六五	二、七四、七六五	二、七四、七六五	二、七四、七六五	二、七四、七六五	二、七四、七六五	二、七四、七六五
同 十年	同	六、四九、一三七	二、六七、四九四	六、八八、六四七	一、七八、八九九	一、三六、一三〇	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七
同 十一年	同	五、五〇、一五三	一、八三、五六〇	五、七四、九七八	一、八四、二七三	一、〇六、五六七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七
同 十二年	同	五、八三、〇一一	二、一〇、七〇五	五、三六、〇五二	一、九七、八七五	一、二四、〇五七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七
同 十三年	同	六、四八、六四〇	二、五、三、二九六	五、四、四、四九四	一、九七、三〇三	一、四六、八三三	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七
同 十四年	同	一、三、八、三三三	六〇、七、六三三	一、二六、〇、二七六	五、五、〇、三三	三、八、二、七五	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七
同 十五年	同	一、五、四、六八	六三、二、五〇	一、四九、九六八	六、三、四、四	三、五、二	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七	三六、八七
昭和元年	同	三、〇、九四六	一、七、八、八九五	四九七、七九三	二、二、八、五二	九二、〇一一	一、八、六、九一	一、八、六、九一	一、八、六、九一	一、八、六、九一	一、八、六、九一	一、八、六、九一	一、八、六、九一	一、八、六、九一	一、八、六、九一	一、八、六、九一	一、八、六、九一
同 十五年	同	三、六、五、四九	一〇、八、〇〇一	一、五、一、四三三	五、四、五、六	六、〇、九、四六	一、一、一、三三	一、一、一、三三	一、一、一、三三	一、一、一、三三	一、一、一、三三	一、一、一、三三	一、一、一、三三	一、一、一、三三	一、一、一、三三	一、一、一、三三	一、一、一、三三
同 十五年	同	二、九、九、七二	一、九、九、七六	二、三、四、〇、三六	六、三、七、七	五、三、五、四	一、〇、九、四四	一、〇、九、四四	一、〇、九、四四	一、〇、九、四四	一、〇、九、四四	一、〇、九、四四	一、〇、九、四四	一、〇、九、四四	一、〇、九、四四	一、〇、九、四四	一、〇、九、四四
同 十五年	同	四、九、〇、三七一	二、〇、六、三、九八	三、四、二、六、四	一、八、九、九、五	一、一、三、〇、〇〇	九、〇、一、六	九、〇、一、六	九、〇、一、六	九、〇、一、六	九、〇、一、六	九、〇、一、六	九、〇、一、六	九、〇、一、六	九、〇、一、六	九、〇、一、六	九、〇、一、六
同 十五年	同	三、八、一、五八	一、六、四、六、九四	三、五、六、〇、七一	一、八、九、九、五	一、一、三、〇、〇〇	九、〇、一、六	九、〇、一、六	九、〇、一、六	九、〇、一、六	九、〇、一、六	九、〇、一、六	九、〇、一、六	九、〇、一、六	九、〇、一、六	九、〇、一、六	九、〇、一、六
同 十五年	同	四、八、一、三三	一、四、六、六、〇三	四、四、〇、二、五〇	一、一、六、五〇	一、〇、六、五〇	一、八、七、〇、八	一、八、七、〇、八	一、八、七、〇、八	一、八、七、〇、八	一、八、七、〇、八	一、八、七、〇、八	一、八、七、〇、八	一、八、七、〇、八	一、八、七、〇、八	一、八、七、〇、八	一、八、七、〇、八

朝鮮の物産

三五〇

朝鮮の物産

年	同八年	同九年	同十年	同十一年	同十二年	同十三年	同十四年	同十五年	昭和元年	京畿道	忠清北道	忠清南道	全羅北道	全羅南道	慶尙北道	慶尙南道	黄海道	平安南道	平安北道
数量	1,421,600	1,489,977	1,534,136	1,607,707	1,600,977	1,655,073				1,210,744	56,851	56,889	180,445	180,445	161,201	161,201	101,942	198,050	
皮額	53,240	54,531	55,432	53,994	53,276	55,146				1,636	489	694	1,683	4,944	2,791	5,491	5,047	4,547	
骨数量	11,073	10,444	9,898	9,633	8,933	8,440				244	27	133	80	56	66	1,233	1,576	1,733	
骨額	2,033	2,267	2,253	2,159	2,094	2,190				35	26	89	44	26	26	581	542	413	
脂数量	963	1,547	1,916	2,153	2,176	2,539				19	3	3	3	2	4	63	1	37	
脂額	4,984,483	5,374,435	5,540,629	6,772,666	6,093,168	5,991,176				457	1,662	2,831	2,957	5,533,563	3,888,888	6,030,500	5,533,564	6,658,839	

三四八

備考 一、大正三年以前は調査不精確の嫌あり。

年	江原道	咸鏡南道	咸鏡北道	合計
数量	188,871	176,645	84,036	1,655,073
皮額	1,430	5,903	4,700	55,432
骨数量	596	323	2,655	8,440
骨額	8,577	14,219	9,755	1,247,916
脂数量	468	115	540	2,539
脂額	4,080,000	4,051,100	2,812,791	5,991,176

主要畜産物生産統計表

(其の1)

年次道別	牛		皮		骨		脂	
	数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額
明治四十三年	4,386,675	1,891,430	1,823,500	3,376	1,336,639	3,079		
同四十四年	6,036,700	3,019,355	1,851,000	26,263	1,670,836	3,400		
大正元年	5,903,350	2,931,175	1,883,700	26,451	1,653,656	3,400		
同二年	5,278,235	3,171,300	2,255,500	37,447	1,644,911	3,333,000		
同三年	6,779,450	4,067,670	3,376,600	38,487	1,896,246	3,964,631		
同四年	10,016,500	6,510,735	4,327,900	93,360	2,804,600	3,888,976		
同五年	6,945,372	4,343,716	7,077,711	154,339	2,186,044	4,001,930		

三四九

第六章 農産物

朝鮮の物産

		比		較		大		正		十	
同	七年	三〇八、四二八	六、九四〇	六、九四〇	一八、九八〇	六六、六七〇	三七、四七三	九、五七八	七、三三三	五、五四〇	
同	八年	三〇〇、一七三	九〇、八七九	八、四〇五	二九、〇三九	六四、一七九	六九、四五一	一五、〇四六	八、三二一	四、八二〇	
同	九年	二七七、二六四	五三、六五五	六、四〇五	一八、六七九	六三、六〇〇	五三、〇〇六	一五、四三三	一五、四三三	一、五〇四	
同	十年	二七二、二五五	三、三三三	六、二五五	一七、六七八	六三、七六八	五〇、八二五	一〇、四〇六	一三、四五六	八、六五〇	
同	十一年	二〇六、九五五	元、六〇九	五、六九四	一九、八八七	七九、七五七	五〇、九六五	一〇、八六四	一〇、八六四	七、五三三	
同	十二年	三三七、五五〇	五、四四八	五、七三六	一八、八二六	六三、〇六六	五〇、九六五	一〇、八六四	一三、二七一	八、八一九	
同	十三年	一九九、三七七	四、二二五	四、六〇九	一八、八二六	九四、二六六	六五、九四〇	一三、二七一	一三、二七一	八、八一九	
同	十四年										
同	十五年										
昭和元年											
京畿道		一三、七二六	三、二四一	三、三三三	八、一四七	五五、三〇三	四九、一六六	七、三三三	五、五四〇		
忠清北道		六、九二九	五、二	一、四、八四六	四、三六	四〇、六九九	三九、〇三三	八、三二一	四、八二〇		
忠清南道		一四、〇五〇	三、三三三	一、三、三三三	二、八〇五	一六、三三九	一三、七五六	三、八八八	二、五三三		
全羅北道		九、四一一	一、一八二	一、三、三三三	三、五六九	三三、七九〇	二六、八四一	五、三三〇	五、〇七五		
全羅南道		九、四四四	二、六七七	二、五三三	七、五三三	四五、五四四	三六、一〇七	一〇、〇一八	七、八七〇		
慶尙北道		八、二五	一、二五	八、五五五	一、七九	四、七三三	三、七七五	七、八四	三、八二一		
慶尙南道		二、二五	元	五、一八八	七、三	三、三三三	三、三三三	四、六六	三、三三三		
黄海道		三〇、七三三	五、六三二	九、六、〇〇七	四、〇六〇	四七、五三三	四六、四三九	九、五三三	七、〇〇七		
平安南道		六〇、六六四	一三、四〇〇	九、九、一四一	五〇、五八	三三、五六〇	八〇、三三三	一三、三三三	一〇、三六一		

三五二

第三節 農産品貿易

朝鮮に於ける人口の八割以上が農民にして、物産の約八割は農産であるが、更にその貿易額の八割以上が亦農産である。而して輸移出の大宗は米で、繅綿、繭、生牛、牛皮、小麥、大豆等も重要輸移出品に屬して居る。輸移入額の大きなものは粟及び外米にして、葉煙草、柑橘類、小豆、打綿及び繅綿等の輸移入も亦相當に多い。今各種農産品の貿易統計を示すと即ち左表の通りである。

農産品輸移出統計

年次	数量	價額	年次	数量	價額
明治四十三年	一、〇一九、七四三 百斤	三、五〇〇、八六八 円	明治四十四年	一、六二二、四三三 百斤	三、五三三、九六九 円

第六章 農産物

三五三

朝鮮の物産

年次	数量	金額	年次	数量	金額
大正元年	四九六、四四	二、九二七、九四	大正九年	一、〇五七、一〇一	四〇、四七七、七六
同二年	八四四、〇六	六、二六四、五五	同十年	一、五八三、二一〇	四二、三三九、九四
同三年	六三九、一〇七	七、六〇五、二四	同十一年	一、三六二、〇四	三九、四六四、〇〇
同四年	一、三三三、九六	二、五五五、二九	同十二年	二、二七八、二三〇	六二、〇三三、三三
同五年	六四二、八七三	七、三五六、五八〇	同十三年	二、六九九、九一八	九九、〇九七、二九一
同六年	五三三、八九三	七、九八〇、三五五	同十四年	二、七六六、三〇一	一〇〇、七三三、九四三
同七年	一、〇〇〇、〇〇一	二九、七四四、五九九	昭和十五年		
同八年	一、五九九、〇五	六〇、四九七、八四三			

精米

年次	数量	金額	年次	数量	金額
明治四十三年	五〇二、五五四	二、二〇〇、五〇五	大正八年	一、〇七九、九四六	四六、五五七、七〇六
同四十四年	三三三、二八三	一、八七〇、〇四三	同九年	八四七、九八三	三六、六六一、二九三
大正元年	四六四、〇〇〇	三、三三三、六八	同十年	一、六三〇、五〇四	四七、七六〇、九六
同二年	八三二、四七四	六、七六八、九七	同十一年	一、五七一、四七	五〇、六五五、六三
同三年	五〇六、九六七	七、九四四、三二	同十二年	一、五三三、一〇四	四九、一〇三、四四〇
同四年	八〇九、〇三〇	九、八三二、四五五	同十三年	一、六二一、八六二	六三、八七五、六四
同五年	七六三、三九八	二〇、四九五、七五	同十四年	一、六九九、〇六	七、二七六、五七

粗

年次	数量	金額	年次	数量	金額
同六年	九三六、四六八	一七、九六〇、八三	昭和十五年		
同七年	九四五、三三〇	二九、六三二、八八			

其他の米

年次	数量	金額	年次	数量	金額
明治四十四年	三六八、八五	七、六三三、三三	大正八年	二〇七	三、七三三
大正元年	三三三、四七二	一、〇三三、二八	同九年	一、二七六	三三、七三〇
同二年	一七〇、三六三	八九九、八八	同十年	一、八、五〇二	一七、七六二
同三年	一〇七、五三一	八五三、八〇	同十一年	七、四四〇	九四、八六一
同四年	一五八、八四七	七六六、四五	同十二年	三、三六	三六、五三三
同五年	九八、九〇七	六四四、五三	同十三年	一、〇七三	一七四、九三
同六年	四〇、八一五	三三三、四元	同十四年	二、七二五	三七、三六
同七年	二、一〇一	三、四六	昭和十五年		

第六章 農産物

年次	数量	金額	年次	数量	金額
明治四十三年	三六、三三	六六四、〇〇	大正元年	六四、〇〇	二九、七九
同四十四年	五三、一三〇	一、一〇、三五	同二年	一〇一、三六	五六、〇一九

朝鮮の物産

大正三年	六八、一四五石	六四五、五九八	大正十年	三五六	二、五四〇、五三三
同四年	一六九、三三九	一、三三二、二六六	同十一年	一六、〇五五	一、五九一、六八八
同五年	一〇六、六三三	八八五、八四三	同十二年	一一〇、二五五	一、八三九、六六七
同六年	九七、六〇九	一、四二二、八九三	同十三年	一〇七、五四六	二、三三五、五四九
同七年	一〇六、四〇七	二、一六三、三七八	同十四年	八四、一八九	二、〇七三、八五六
同八年	一一〇、九九三	三、〇〇三、五九四	昭和十五年		
同九年	八二、四三三	二、〇七六、六六五			

米 (計)

年次	數量	價額	年次	數量	價額
明治四十三年	八〇八、一七〇石	六、二七二、七七三	大正八年	二、八二二、五六六石	一一〇、〇三三、八七六
同四十四年	五五四、〇六三	五、二八三、七七二	同九年	二、〇九〇、五六七	七七、四九九、五六六
大正元年	五四三、五七七	七、五三〇、八九九	同十年	三、五五六、三三九	九三、八二二、九九一
同二年	八七五、四九八	一四、四九三、五七七	同十一年	三、三三〇、〇四一	九五、八〇五、二九三
同三年	一、三六八、四九九	一七、〇九八、五六三	同十二年	四、〇〇一、三三七	一一三、九〇三、四三三
同四年	二、五九九、三六二	二四、五六六、六三三	同十三年	四、八六六、四六一	一六四、四八三、四四四
同五年	一、七六六、九〇〇	一九、五五六、七七六	同十四年	四、七五八、〇七五	一三七、一六三、七四四
同六年	一、七三〇、〇三三	二七、四一六、五〇八	昭和十五年		

備考 數量は玄米換算にて表はす
同七年 二、二九、七三三
六二、五四一、六五一

大 麥

年次	數量	價額	年次	數量	價額
明治四十三年	三七、三五八石	七、七三〇	大正八年	一八、二二〇石	三六、七五五
同四十四年	六、七三三	一、三三三	同九年	六、九〇三	五、八九六
大正元年	七、五九八	三、〇八九	同十年	一九、六六六	一三九、五〇七
同二年	三、〇九七	八、三三三	同十一年	二、八七三	六九、六五〇
同三年	五九六	二、一七六	同十二年	四、九六六	四二、七七七
同四年	四、三三三	一、五〇九	同十三年	一、三八〇	二二、七三六
同五年	二、七四三	一、一三三	同十四年	六、五八〇	八四、一七七
同六年	三七、二九八	一、八四、七六六	昭和十五年		
同七年	三〇、五七六	三三三、一八五			

第六章 農産物

小 麥

年次	數量	價額	年次	數量	價額
明治四十三年	一〇〇、五八三石	二八、八五九	明治四十四年	三五七	八六、一三六

朝鮮の物産

年次	数量	金額
大正九年	三、八六五	七、四七〇
同十年	六、五二七	二〇、九六一
同十一年	六、八七五	二〇、七九二
同十二年	三、三三三	一三、〇八七
同十三年	六、四七二	四七、七四四
同十四年	一、六二七	一、四八、二四六
同十五年	六、四〇〇	九、四一、一八八
昭和元年	三、六七七	四〇、二五〇

大豆

年次	数量	金額
明治四十三年	一、七三三、五九八	五、三二、三六六
同四十四年	一、四九二、五〇〇	四、三六、八七七
大正元年	一、六八四、五三三	五、〇〇、七二二
同二年	一、六五二、一五五	五、五五、〇〇四
同三年	五、三六、七三七	三、八二、九三〇
同四年	一、〇一〇、七五五	五、三〇、〇四七
同五年	九、三二、四三三	六、〇二、六九六

年次	数量	金額
同六年	一、〇八五、六九〇	九、三七、九〇〇
同七年	九、五七、六八三	九、五〇、七八二

小豆

年次	数量	金額
明治四十三年	一、七三三、五九八	四、五、五七一
同四十四年	九二、三三三	二、四、九九一
大正元年	四七、九四〇	一、八三、五八四
同二年	五九、三三〇	一、六五、五八〇
同三年	三三、三三三	三、一、七三三
同四年	一、六、八二六	一、二、四、六四〇
同五年	一、六、五五七	一、三、一、八四四
同六年	三三、九四一	一、八三、三〇八
同七年	七、四四一	七、八、七七七

年次	数量	金額
大正七年	八三、三三三	一、九七、七六六

第六章 農産物

三五九

朝鮮の物産

大正九年	三、四三三	三、四三三	大正十三年	三、六〇〇
同十年	三、一八七	三、一八七	同十四年	三、七三〇
同十一年	三、九六八	三、九六八	同十五年	五、一八六
同十二年	三、七一九	三、七一九	昭和元年	一〇、九五六

荏 胡 麻 子

年次	數量	價額	年次	數量	價額
明治四十三年	四、〇六、五六六	二九、三三三	大正八年	二、三三六、三九五	三六〇、五六六
同四十四年	二、四三九、〇九七	二二、七二四	同九年	一、〇八四、九四六	一四八、〇三二
大正元年	四、一八八、二三四	三六、〇七六	同十年	二、九三三	二、三三三
同二年	一、三四〇、三六六	五、六七四	同十一年	三、三三三、五六六	三、三三三、〇二一
同三年	八、七六、七三二	四、五六六	同十二年	二、六三〇、六九九	三、一三三、九三九
同四年	三、七三三、六三三	一、九七、七〇〇	同十三年	八、八九、〇七七	二、三三三、九三九
同五年	五、二二八、九七一	二、九八、四八八	同十四年	六、四三、七六一	八、九六、七六八
同六年	三、一九九、七五一	三、三六、〇八二	昭和元年		
同七年	四、六二一、六五六	四、六二一、六五六			

棉 子

年次	數量	價額	年次	數量	價額
大正五年	一〇、四八五、三六四	一、七三、九四三	大正十一年	四、四〇、七〇〇	一、五、六四一
同六年	二、九三三、九四九	三〇、七三三	同十二年	六、四三、四六六	三、四、七四一
同七年	一、九二七、三九九	六、九、九六七	同十三年	九、三、八七九	三、七、六三〇
同八年	三、八六、九五五	五、四、四七六	同十四年	九、四、四七七	四、五、七九〇
同九年	五、五五、〇四九	三、八、五〇二	昭和元年		
同十年	六、七〇、八八九	一、九、五五五			

棉 子 油

年次	數量	價額	年次	數量	價額
大正十二年	二、三三〇、六三三	四、五、八五三	大正十四年	二、三三、六〇〇	六、五、四四三
同十三年	二、五三三、〇〇〇	五、二、〇九九	昭和十五年		

線 綿

年次	數量	價額	年次	數量	價額
明治四十三年	一〇、九九三	三、四、九九三	大正二年	二、六六〇、五	八、四八、四二九
同四十四年	一、一、三三三	三、六、六五五	同三年	四、九、九五〇	一、〇、九、七六六
大正元年	一、三三、三六六	三、四、五七七	同四年	四、九、九五〇	一、一、五、七、六三三

第六章 農産物

朝鮮の物産

年次	数量	金額
大正五年	四七、四五一	一、七九、六六六
同六年	八〇、三八	四、三三、八七七
同七年	九〇、六八五	六、二四、〇八八
同八年	九三、五四三	八、一四、七四〇
同九年	六六、二六五	六、〇三、七六六
同十年	八三、〇九一	三、五九、一九二
大正十一年	三六、二一	三、五三、六四〇
同十二年	二六、四二九	八、六七、六一五
同十三年	一六、一五七	三、二八、三三七
同十四年	一四、四九八	一、五八、七六三
昭和十五年		

繭

年次	数量	金額
明治四十四年	三三、四二	二七、四三
大正元年	一五八、五五六	二五、八七〇
同二年	一四一、八九三	六、二〇、五五六
同三年	三三、〇三	三三、〇八三
同四年	五〇、五七	七、四、六八五
同五年	八三、三〇	一、四七、一七五
同六年	三、四、五七七	三、一五、六三三
同七年	一、五七、五五六	四、九七、六六六
大正八年	一、二七、三三四	三、八三、三二九
同九年	九四、四八八	二、三六、七四四
同十年	九四、九五七	二、四七、三六六
同十一年	一、四八、七三三	二、八三、〇四五
同十二年	二、五八、三〇一	七、七〇、八七八
同十三年	二、八三、三三	七、七五、三五〇
同十四年	三、三三、三五〇	九、九八、四四五
昭和十五年		

林

檜

年次	数量	金額
大正七年	一、四四、九三	一、六五、一六三
同八年	一、五八、八二	三、一、〇〇一
同九年	一、六八、五九	二、五、八二七
同十年	三、六四、六五	五、四〇、八七四
同十一年	三、六五、八三	五、九、八二四
大正十二年	三、四九、五〇	五、九、六四〇
同十三年	五、八八、三三	八、三、四三三
同十四年	五、〇七、七〇	八、三、三三八
昭和十五年		

葉煙草

年次	数量	金額
大正三年	七九、三三	一一、九九
同四年	三三、七九	二七、九〇
同五年	三三、三三	八、七五
同六年	一、七四、〇六	二四、七四八
同七年	三、九六、〇三	七六、四〇七
同八年	二、九〇、一七	一、三三、七七
同九年	三、七四、六九	一、六四、二六五
大正十年	一、二六、四三	四、五、〇〇〇
同十一年	一、六〇、二七〇	七、四、一五〇
同十二年	二、四五、〇九六	八、四、九五〇
同十三年	九三、〇四	七、〇、一五六
同十四年	一、二六、二四六	四、七、四八二
昭和十五年		

生

牛

第六章 農産物

朝鮮の物産

年次	數量	價額
明治四十三年	一八、三九九	六三、〇八一
同四十四年	一九、六九七	七〇、五六一
大正元年	七、〇三〇	二〇、七六一
同二年	八、六六一	二二、五三三
同三年	一五、四元	四六、五九七
同四年	一四、六一	三六、〇四
同五年	一九、八六六	四三、八八一
同六年	三、八一九	一〇、一九五
同七年	四、六二七	二、七、八〇八

三六四

年次	數量	價額
明治四十三年	四、一一、八三三	一、〇〇、四、七三
同四十四年	四、三、四七六	一、〇六、八七七
大正元年	三、三、五七九	一、〇三、三〇〇
同二年	三、四、六一七	一、二、七、五九
同三年	四、一、五五一	一、五、七、七六

牛 皮

年次	數量	價額
大正八年	四、四、四六四	三、二、五、七〇
同九年	三、九、四〇三	三、一、〇、九六五
同十年	五、〇、六二七	二、七、九、五三
同十一年	五、四、〇三三	二、二、七、九四
同十二年	六、一、七三六	四、四、七、〇六
同十三年	四、八、六九三	四、一、一、〇〇〇
同十四年		
同十五年		
昭和元年		

年次	數量	價額
同四年	八、一、六五、六一	三、五、八、七〇
同五年	七、〇〇、七六六	三、五、七、八八
同六年	三、五、九四、〇七三	二、〇、九、七六一
同七年	二、一、八三、六五三	一、二、六、八、二四七

牛 脂

年次	數量	價額
同十三年	六、〇、七、三〇	三、二、五、六、四
同十四年	五、七、五、九九七	三、四、一、〇〇六
同十五年		
昭和元年		

年次	數量	價額
明治四十三年	六、七、三、四二四	六、八、八、五〇
同四十四年	六、五、五、九七	七、〇、六、六六
大正元年	五、五、〇、三三三	六、六、六三
同二年	六、三、三、三三	九、〇、三三
同三年	七、五、一、四八	一、一、七、〇〇
同四年	八、〇、九、〇〇	二、九、六三
同五年	九、〇、〇、三七	一、九、六三
同六年	六、九、七、七四	一、七、一、五五
同七年	四、五、〇、七六	一、三、九、四二

牛 肉

(大正十年以前は他の鳥獸肉を含む)

年次	數量	價額
大正八年	一〇、四、五、七	五、六、五、七〇
同九年	一、六、八、九四	五、一、六九
同十年	一、六、〇、七九	三、九、二〇
同十一年	四、三、四、五一	六、五、九
同十二年	二、〇、九、五〇	四、八、二六
同十三年	三、六、二八	七、六
同十四年	一、一、七、〇九	二、八、五〇
同十五年		
昭和元年		

第六章 農産物